THE FUJIN SEKAI,
Registered as Second Class Matter
at U. S. P. O., Los Angeles, Cal.

婦人世界

第八卷
第七號

六月



大正三年六月一日發行　明治卅八年十二月卅日第三種郵便物認可（毎月一回一日發行）

東京實業之日本社發行

此廣告を見て御申込の方は必ず婦人世界愛讀者なる旨御申添を乞ふ



美容通信

肌の荒れを
巧みに防いで
顔の色艶を
飽まで添る
純白
化粧水

レートは
西洋諸國の
化粧界にも
類ひ稀なる
よい美身料と
森律子壌の
眞心こめたる
毎度の報告

東京 大阪 平尾贊平

此廣告を見て御申込の方は必ず婦人世界愛讀者なる旨御申添を乞ふ

茲に美人となる唯一の試驗法あり

美容渇望者の福音



文明の力は遂に人の手足や顏の造作にまで干渉して來ました醜婦も化學の力で必ず美人となる事が出來ます此の意義に於て弊店はポンピアンマッサージクリームの御使用を御すゝめ致します

ポンピアンマッサージクリームの効用はニキビソバカスは勿論の事第一の特色は色を根本から白くするのでありまして白粉のやうに上面ばかりを白くするのでなく心から白くしますので白粉のやうに直ぐ白くなりはせぬが使用中には自然に豐頬白色の美人となつてしまひます左に記す試驗法で御實驗になれば僅か五分間と經たない中に其の効驗の著しいのがお判りになります

試驗法

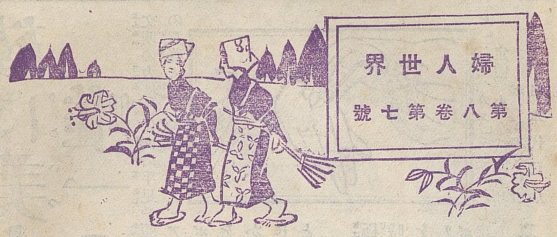
極めて純良なる石鹸にて手を洗ひ後片方の手の甲へ圖に示す如くクリームを塗り暫時摩擦する時は皮膚中の不順物のクリームと共に垢の如くなりて出て來る可し夫れを終りし後他方の手と比較する時は見違ふ程美るはしくなり居るを知り得可し（クリームには少量の水を加へて使用するを適度とす）

ポンピアンマッサージクリームは單に色を白くするのみならず其の効用は「ニキビ」「ソバカス」を始めとし皮膚に生ずる一切の障害を除去し根本より生々とせる美人となすの偉効あり

定價　大金貳圓五拾錢
　　小金壹圓五拾錢　郵稅十二錢郵券代用一割增

ポンピアン會社
日本代理店
東京銀座一丁目
佐々木商店

振替口座三二二〇番　電話四七二番
京橋長四七三番



婦人世界

第八卷第七號

口繪

◎初夏……名取春仙◎梅雨……中野修二
◎山階宮大妃安子殿下……◎祖父の愛……
◎大阪の婦人博覽會……◎七十歳以上の老人會……
◎吉崎李枝子夫人……◎孫の顏を見に米國まで行つたお婆さん……
◎別府の藤……◎六月の生花……
◎河岸(表紙)……佐佐木林風

記事

◎健全なる婦人雜誌……(二)
◎婦人雜誌記者に望む……奥田義人(四)
◎内氣な女と快濶な女……下田歌子(八)
◎華族の姫君を連れて徒歩旅行……木村貞子(一六)
◎新聞を呼賣して勉强する女學生……矢島揖子(二〇)
◎日本の婦人に旅行を勸めたい……木下東作(二六)
◎我が家の廢物利用の實驗……比志島雪子(三〇)
◎人の噂……(三四)
◎藝者のやうな服裝をする奥樣……棚橋絢子(三六)
◎流産の原因は何が一番多いか……西尾京子(四一)



◎孫の顏を見に米國まで行つたお婆さん……一記者(四八)
◎子寶【小說】……村井弦齋(五二)
◎小兒胎毒の話……加藤照麿(七〇)
◎夏の食物と飲物……櫻井ちか子(七三)
◎大阪の婦人博覽會を觀る記……一記者(七七)
◎實說不如歸……つゆ子(八四)
◎私の朝の二三時間……嘉悅孝子(八八)、吉崎李枝子(九一)、鳩山薫子(九四)、林よね子(九六)、福井なつ子(九九)
◎唇の形は變り易いもの……志村誠麿(一〇一)
◎弦齋夫人の家庭叢談……一記者(一〇八)
◎若き旅人より……鐵火鞭(一一一)
◎教科書以外の教科書……奥謝野晶子(一一三)
◎貞婦山本仲尾【歷史講談】……細川風谷(一一四)
◎麥飯を召上れ……原田彥左衞門(一二七)
◎我が家の實驗……(一二〇)
◎ものはづけ……(一二六)
◎俳句……(一三二)
◎代理部廣告……(一四〇)
◎婦人の失敗談……(一三三)
◎短文……(一三八)
◎通信……(一三四)
◎判じ繪新題……(一四一)
◎和歌……(一三〇)
◎美容問答……(一三七)
◎判じ繪當選者……(一四二)



初夏　名取春仙作

此廣告を見て御申込の方は必ず婦人世界愛讀者なる旨御申添を乞ふ

完全な お化粧

パール煉香油でお髪を美しう
結ひ上げ日焦けを防ぐ
スミレ化粧で下化粧をして
菊の露白粉で其上を
お化粧してそして半巾には
スミレ香水の一二滴！



パール煉香油	大瓶	四十錢
	小瓶	廿五錢
スミレクリーム優美なる意匠	瓶入	卅五錢
菊の露白粉	煉	小貳拾錢
スミレ香水	大瓶	一圓四十錢
	中瓶	七十五錢
	小瓶	三十錢

本舗　東京市日本橋區横山町三丁目五番地
電話浪花一一〇番
振替東京一一〇番
平尾銑也商店

此廣告を見て御申込の方は必ず婦人世界愛讀者なる旨御申こと乞ふ

家庭を新らしくせよ

＝萬年筆を使用せよ＝

主人の書齋ばかりが新らしきは一家の幸ひに非ず、却て往々不幸也、先づ婦人の身邊座右を新らしくせよ硯箱を廢せよ、日記にも小遣帖にも手紙にも葉書にも請取にも萬年筆を用ひよ新らしき氣分は萬年筆の金ペンより迸ばしる、簡單、敏活、清新、快濶は萬年筆の產物也

各種万年筆目錄は申込次第呈



模造品あり軸部のORION及ONTOの名稱に注意せよ

オリオン萬年筆

實用金武圓八十錢
飾付金三圓廿五錢

オノト萬年筆

無飾金六圓以上各種
飾付金七圓以上各種
送料各金十二錢

丸善株式會社

東京市日本橋區通（振替口座東京第五番）
大阪市東區博勞町（振替口座大阪七四番）
京都三條通麩屋町（振替口座大阪一七三番）

造花原料及書籍

●營業目錄御入用の方は下方の切取に郵券二錢を添へ東京九段吉住商店宛申込まるべし

東京九段坂 **吉住商店**

特電町番二〇五六
振替東京六六七九

……切取線……

婦人世界 六月號

科目
▼造花器具及材料▲
▼造花及半製品▲
▼摘細工材料▲
▼袋物材料▲
▼刺繍材料▲
▼造果材料▲
▼瓶細工材料▲

造花書籍

創立七週年 自宅獨習生募集

第十七回 産婆科 看護科 講義錄

六ケ月 産婆科
七ケ月 看護科

本講義錄は斯道の博士學士ドクトル諸氏によりて講述せられたる簡易にして何人にも解し易きふりがな附現代唯一の模範講義錄なり今や本會卒業生にして內務省産婆看護婦開業試驗に合格したる者千人に達す

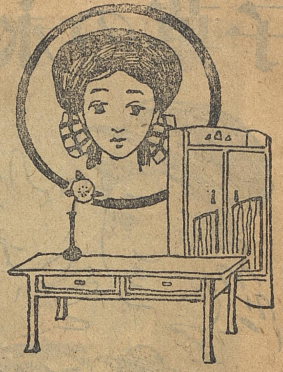
時は入會の好機希望の諸姉は斯機を逸する勿れ

本廣告切取り申込まる者は束修半額

規則郵券要三錢

東京四谷內藤町一 **東京産婆看護婦講習會** 電話番町（四一八七番）

此廣告を見て御申込の方は必ず婦人世界愛讀者なる旨御申添を乞ふ



机と本箱

机 高尺二寸間口貳尺四寸奥行尺三寸
金五圓

本箱 高二尺六寸間口尺五寸奥行九寸
金九圓五十錢
荷造費何レモ八拾錢

御婦人向文房具

文房具にも亦御婦人向あり 檜材に白ラックを施し優雅清洒を極めたる机と本箱を御試用遊ばさるべし
階上には御婦人向文房具が澤山陳列有之候 御高覽御待受申上候

東京銀座 **伊東屋**
電話京橋一三二九 一七九六
振替口座五一一一

新井道太郎先生著

高島平三郎先生序文
文學士松平次郎吉先生序文

子供の出世を願ふ世の母たり婦たる人に申上げます

子供のいたづらは唯これを叱つて止めさせたならばよいのでしやうか。又は放つて置けばよいものでしやうか。善いいたづら惡るいいたづら、唯一口にいたづらと云つても色々あります。子供の生活の大半は實にいたづらと喧嘩であります、我が子を善く育てようと思ふ人は十分に子供の事を知らねばなりません。それには此の本を第一にお奬めします。

定價六十錢 送料六錢

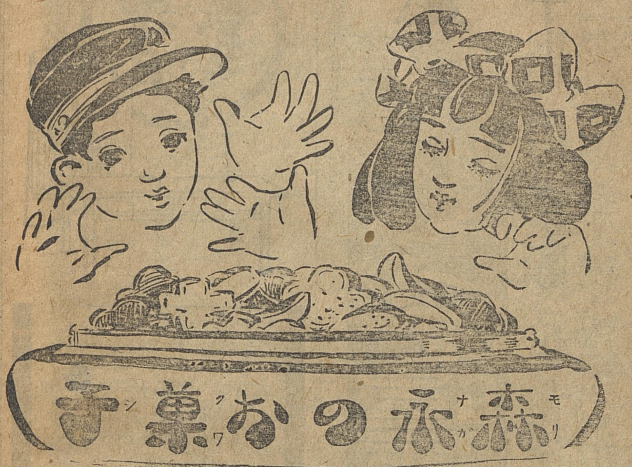
發行所 **良明堂**
東京京橋、西紺
振替口座一四七〇
電話京橋二二三四 一二五四



入梅　中野修二作

此廣告を見て御申込の方は必ず婦人世界愛讀者なる旨御申添を乞ふ

評判の森永の菓子



森永のお菓子

子供の發育を助くる

▲ゼリビンス
▲キャラメル
▲アプリカッツ
▲チヤイナマーブル
▲コーフドロップス

ヌガー

（咳止菓子）

衛生的に拵へた滋養に富む

どこにでも賣つて居ます

此廣告を見て御申込の方は必ず婦人世界愛讀者なる旨御申添を乞ふ

惡筆で泣かされました

（某女流教育家の懷舊談）

妾は今日まで惡筆の爲め隨分泣かされました。幼い折は習字が非常に嫌いで。父からひどく叱られて始終泣きました。嫁いでから字が汚いといつて夫から、叱られ、親戚の者から笑はれて、悔し泣きに泣いたことが幾度あつたか知れません。併し今日の若い方は誠に仕合せで、妾の娘などは專賣特許の習字速成法で練習した爲めに妾よりも巧くなりました女として字の下手なほど恥かしいことはありませんが若い方でも年を老つた方でも速成法で練習して一日も早く能筆におなりになるやうに御勸めいたします。それは東京本鄕大學正門前帝國習字速成學會へ「ハガキ一」を御出しになれば見本と曾則を無代で送りてまゐります。類似物が出來ました



此廣告を見て御申込の方は必ず婦人世界愛讀者なる旨御申添を乞ふ

美人!!!

美顔となる秘密

佛國美顔術の發明による

白味劑美顔料 ホーカー液をお使なさい

美人となる ホーカー液 特効

▲色を白くしキメを細かにし
▲日ヤケを防ぎツヤをよくす
▲アセボ、ニキビ、ソバカス、其他吹出物等には頗る効あり
▲白粉のノリ、ノビ、ツキをよくし
▲アレを防ぎ小ジワをのばす
▲朝、夕、用ゆれば羽二重の如く美くしくす

▲イキ〳〵した顔になる點に於て本品以上効果のあるものなし

大品 卵の白味と牛乳の主成分にヘチマの水を配合したる最新濃厚化粧液にして東京の名優名妓を始め男女間頗ぶる高計を辱ふす K.S.

東京日本橋區馬喰町四丁目
電話浪花一八二七番
堀越二八堂
振替二四一一八番

ホーカー定價 大八拾錢 小廿五錢 中四十錢 送費四錢

顔を大切にせらるゝ
少年、少女、幼年、紳士、令孃、奥様、名優、名妓、方は悉く本品を賞用せらる

◎全國到る處和洋小間物店、藥店にあり品切の時は直接婦人世界愛讀者ノ旨御申添アレバ此際送費無料郵便切手或ハ振替ニテ送ラルベシ……市内ハ五十錢以上配達ス……



ホーカー毛ハヘ油
本品は毛髪の發生を助け、フケ、脱毛を去りクセを直し頗高評也
小 三十五錢 大 壹圓 送費八錢



此廣告を見て御申込の方は必ず婦人世界愛讀者なる旨御申添を乞ふ

現代常識修養の源

女學世界

六月號 正價廿錢 郵税二錢 前金 郵税共十六冊 一年分三圓十二錢

◉風俗鏡 磯千鳥

▽狂歌をもの せし聖りの足跡……歌行脚
□伯爵夫人思出の袱紗 楊々齊
□女裝いろ〳〵草 小泉迂外
□實説『かゞみ山』 犀牛
□覺え帳 紅梅

■其の日〳〵の氣分……内藤千代子

▽名流婦人の二十歳前後……
□家庭日記 小酒井八千代
□女學校の經營振り 婦人記者
□臺處用心記 糟糠の妻
□梅雨季中のいろ〳〵の手當

◉令孃訪問嫁入前 婦人記者 花びし

東京市日本橋區本町 博文館 振替東京二四〇番

山階宮大妃常子殿下



山階宮大妃殿下には、去る五月、桃山御陵に御參拜あそばされし後、御因緣深き京都東寺に御立寄、晃親王、菊麿王殿下の御靈牌に御焼香あそばされ、今尾掬翠を召して御記念の御撮影をあそばされました。その御寫眞は即ちこれでございます

京都　社友　今尾掬翠謹寫

此廣告を見て御申込の方は必ず婦人世界愛讀者なる旨御申添を乞ふ

六月の白木屋

かたびら地大賣出し

中形浴衣地陳列會
ライトコート陳列會
團扇扇子陳列會
岐阜提灯陳列會

引續開催

◉余興新題「祭りの賑ひ」所作事二場

白木屋呉服店

此廣告を見て御申込の方は必ず婦人世界愛讀者なる旨御申添を乞ふ

▲金製寶石入帶留

清涼を極むる水無月となりて、御婦人方も更衣の床しき裝あれば、また御身を飾る具にも美しさを選びたまふべからず、翡翠製の鮮なるに劣らず、好評を博しつゝあるもの、當白牡丹本店調製の金製寶石入の帶留なり。(一)十八金製芭蕉模様に、菊花の透し彫に蕊にダイヤを納めたる、價四十二圓。(二)十八金製渦巻水に夏菊模様ダイヤ入にて價三十五圓。(三)十八金製藤花の輪模様ダイヤ入の價八十五圓。(四)十八金製孔雀の翼に櫻花模様ダイヤ入此價六十五圓。之に相應しき紐を添へたれば、悉く現代の流行に魁けたる逸品なり。

東京銀座尾張町

白牡丹本店 松田幸治郎

電話新橋五五四五番・五五五五番・振替口座四三九七番

祖父の愛



公爵徳川慶喜氏と令孫喜久子姫

此廣告を見て御申込の方は必ず婦人世界愛讀者なる旨御申添を乞ふ

婦人之友

一冊金十八錢郵税一冊一錢五厘半年税共一圓八錢

家政かゞみ

（六月號）

▲生活難と高等教育を受けたる人々
▲節儉論……
▲我家の三十年……
▲家事の整理は細かい所より
▲我家の當座帳……
▲軍艦に於ける家政……
▲家庭日常の交際法……
▲シムレー邸の子供部屋……
▲衣服のために費す時間と手數
▲副食物材料と燃料調味品の割合
▲狹い家でも廣く住まれる……
▲千圓で出來る丸木造りの別莊
▲玄關の裝飾法……
▲手拭地を應用して出來た品々
▲壹圓五六拾錢で出來る子供の洋服
▲女中と御用きゝ……
▲小間使の心得……
▲折衷煮しめ料理二十種……
▲料理に要する時間と費用の研究
▲氣輕に客をよぶ食事の用意

發行所　東京小石川雜司ヶ谷町　振替東京一一六〇〇番　婦人之友社

此廣告を見て御申込の方は必ず婦人世界愛讀者なる旨御申添を乞ふ



梅雨と、キモノと、夫と妻の對話

妻『あゝ又梅雨が來ましたわねえ、梅雨には着物に虫がついたり、濕氣を含んだりしますから、心配ですわ』

夫『心配しなくてもいゝよ

衣裳の薫

といふ香料を箪笥に入れて置くと、虫害は防ぐし、濕氣は拂ふし、其上、何とも云へぬ好い移り香がするさうだ』

妻『さう、では着て出た時に、着物からいゝ匂ひがしていゝでせうねえ、早速買つて來て頂戴な、會社の御歸りに！』

夫『ウン、呉服屋や化粧品屋、小間物屋には何處にても賣つて居るさうだから、買つて來てやらう！』

發賣元　大阪市北區源藏町　飯田東籬園

衣裳の薫は各地著名なる呉服小間物化粧品店に販賣せり

大坂の婦人博覽會



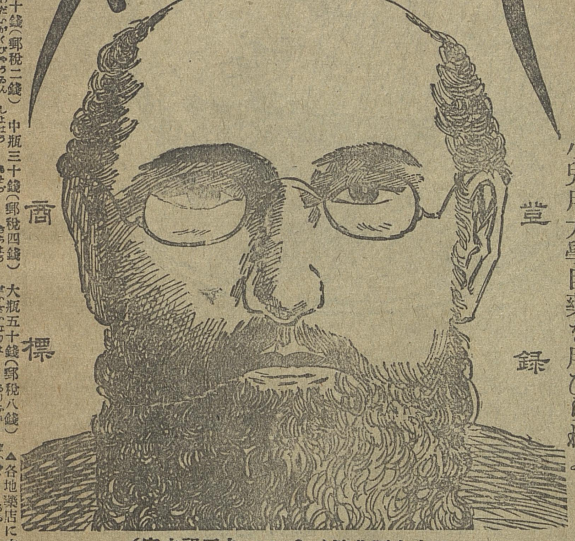
上は博覽會入口と時代風俗の人形、下の左は衣えらび、右は新婦の書齋飾

本號七十七頁記事參照

此廣告を見て御申込の方は必ず婦人世界愛讀者なる旨御申添を乞ふ

大學目藥

『小兒の眼病には
小兒用大學目藥を用ひられよ



堂
錄
商
標

◎定價金十錢（郵稅二錢）中瓶三十錢（郵稅四錢）大瓶五十錢（郵稅八錢）
▲各地藥店に在り

大學目藥は帝國醫科大學病院の處方に基さし貴重の製劑也世に有觸し賣藥の類に非ず

日本大阪北濱（ヘブリン丸元祖本家）

參天堂藥房

効能の概略

▲はやり目
▲トラホーム
▲星目
▲のぼせ目
▲かすみ目
▲たゞれ目
▲血目
▲打撲
▲疲勞

其外眼病一切に驚くべき奇効あり
◎又この藥は目力を強くするの確効あり故に無病の人にても毎日少し宛此藥を用れば眼病一切を豫防するを得べし

此廣告を見て御申込の方は必ず婦人世界愛讀者なる旨御申添を乞ふ

最上醤油

山十印



醸造元 千葉縣銚子町
岩崎重次郎
（電話銚子三十番……振替口座五七二番）

醤油問屋 東京京橋區南新堀一丁目
岩崎重次郎
（電話京橋三百三十五番）
（振替口座貳一壹四一番）



此廣告を見て御申込の方は必ず婦人世界愛讀者なる旨御申添を乞ふ

月經時の新手當法

月經時の不注意と不完全なる手當に恐るべき疾病の本をなし、且起居動作に不便を感ぜらるゝ事甚だしとす

然るに完全なる手當法に至つては未だ我國一般のお婦人には知られざる方多し

今回本堂は **歐米婦人間にて現今最も進歩せる衛生的處置として知られたる新方法** を齎らせり **無代にて一般御婦人に** 詳細なる解說書を頒布す、衛生と實益とに心懸けらるゝ御婦人はハガキにて申込まれよ

東京市京橋區南八丁堀二丁目廿九番地

順天堂

わさが るの御方へ

追々お召物が薄くなるに從ひわさがのあるお方は皆樣お困。てす殊に男女共交際上先樣の御迷惑は此上もありませぬ私宅では永年困りましたが不思議の奇藥を發見致しまして皆樣に御實驗を願ひました處性來のわさがも忘れた樣に根切れになりました●おこまりのお方は試錢切手拾枚添へて御手紙下され明細法と藥を御送りしますからお試し下さい澤山の御禮狀や證明をいたゞいて居ります

東京市本所區松井町三丁目三番地　日廼屋

産婦人科
小兒科

院長　診察　宅診　午前　往診　午後
醫員　診察　午後

女醫吉岡彌生

病室及産室設けあり隨時入院の需めに應す

東京市麹町區飯田町四丁目卅一番地

東京至誠病院
（電話番町二二五七番）

此廣告を見て御申込の方は必ず婦人世界愛讀者なる旨御申添を乞ふ



少年モーグリー群狼と戰ふ

少年小說 ジャングルブック

大英文豪キップリング氏原著　小島冲舟氏裝禎插繪　定價金壹圓
巖谷小波氏引　黒田湖山抄譯　異制洋綴四百ページ　送料八錢

男敢なる現代英國少年 唯一の愛讀書は明麗暢達の筆に擇出せられて新に諸君の眼前に躍出す果然新時代の**日本少年**は此の世界的名著の新譯を**大正第一の讀物**なりと歡呼喝采しつゝあり

コップル高評

黒田湖山先生作
竹久夢二先生畫



少女小說 竹乙くぼ

冥繁き少女よ、悶ある少女よ、淋しき少女よ、病める少女よ、**笑**は人の**顏**を**美**しく**沈鬱**は**美人**を醜くす **何ぞ**此の書を手にして **微笑まざる** 然らば御身らの胸は輕く心は晴れむ！ **新時代**の少女よ御身は涙を友とするか、微笑を友とするか！

西洋形本綴　定價金二十五錢
紙數二百五十餘ページ　郵稅六錢
美本ジー　頗る美本

東京市神田區多町一〇九番地　振替東京一四四四番

福岡書店

電話本局五八壹番

七十歳以上の老人會



宇都宮廻送店主宇都宮金之丞氏が毎年催される老人會は、今年も、去る五月四日の日曜日に、目黒の別邸で催されました。村内の七十歳以上の老人が二百餘名集まつて樂しく一日を遊びました、上は餘興見物、中は御馳走、下は芝生で休憩してゐるところです

此廣告を見て御申込の方は必ず婦人世界愛讀者なる旨御申添を乞ふ

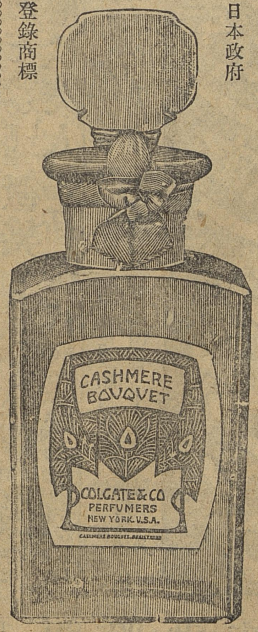
世界ニテ有名ナルカシミヤ香水ト石鹸

米國コルゲート會社特製
眞正花精ハンカチーフ用

カシミヤブーケー香水

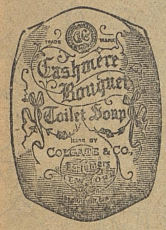
本品は純然たる植物花精より採取謹製したる香水なれば貴女紳士の御愛用を蒙ること非常にて芳香の高尚優雅なるを以て特に上流社會に適當す
日本人諸君にして我コルゲート會社を御存じの方は必ず此カシミヤ香水の優等品なるを御承知の筈

日本政府
登錄商標



（大瓶全形）

大瓶 一圓九十錢
中瓶 一圓四十錢
小瓶 七十五錢
ポケット用 三十五錢



一度使フレバ忘レヌカシミヤケーブ石鹸

世界一の評ある石鹸なり御使用中の浴場は香氣馥郁として眞に香水浴の如く使用後には芳香を殘し皮膚を滑かならしむる効あり因て紳士方は勿論皮膚の柔軟なる婦人及小供の使用に最も適當す

大形 六十錢
中形 三十五錢
小形 十五錢

米國紐育市 コルゲート會社

著名なる和洋小間物化粧品店賣藥店食料品店に御座候、實業之日本社代理部にても販賣致候

此廣告を見て御申込の方は必ず婦人世界愛讀者なる旨御申添を乞ふ

最も易き琴の本譜

井上胡蝶著 **生田流箏曲新譜**

六版 卷一定價壹圓三十錢送料六錢 三卷貳卷三卷四定價各金壹圓十錢宛送料各金六錢 代金引換各金十六錢增 △海外代金引換三十四錢增

曲譜目次

卷壹 四季の花門松鶴の聲黑髮六段亂八段金剛石夕顏新高砂越後獅子千鳥茶音度春の曲小督の曲春日影朝外出六段前歌難波獅子末の松竹梅殘月秋風八重衣冬の曲

卷貳 契松壽萬歲八千代獅子雪九段巖上の松新雪月花凱旋喇叭の曲四季の詠め夏の曲秋の曲

卷三 こすの戶、袖の露、雪景色、雲井六段、竹生島

卷四 磯千鳥、時鳥、楓の花、さむしろ、萩の露

新庭音樂 **箏曲之栞** 定價金壹圓送料六錢代金引換十六錢增海外全三十四錢增

曲譜 門松こととぶき春雨六段七草瀧盡し御製の曲水は器千鳥菊水那須野御國の譽外練習用四曲

山田流譜本

江の島	卅五錢	水 三十錢
住吉	同上	ほとゝぎす 同上
松風	四十錢	櫻狩 四十錢
上鶴	同上	那須野 同上
初若菜	同上	春宮 卅五錢
四季の艷		子の日遊
今樣朝妻船		山田流手ほどき 定價六十錢送料四十錢
松風	四十錢	六段外七曲合本
越後獅子	四十錢	小督の曲 四十錢
八重垣	卅五錢	千鳥の曲 三十錢

送料各貳錢

井上胡蝶著 **箏曲組歌新譜**

定價一圓二十錢 送料六錢

目次 表組 ふき梅ヶ枝心盡 裏組 雲の上四季友 中組 須磨明石末の松 奥組 四季雲井扇思川羽衣宮の鶯飛燕 以上十五曲にして生田流山田流何れにも通用の譜本なり

諸姉の內に

琴を習はんと欲せらるゝ人琴を習ふに良き師の無き人一度習ひて忘れたる人平常稽古の速達を望む人備へ給ふべし此譜本は是等の人々を滿足せしめんが爲め最易き譜にて記載し且つ每卷明細なる說明を附しあれば何人にも直に彈奏せらるべく諸姉が常に渴望せらるゝ最も便利なる琴の良師なり速に見よ曲中不詳の質義に應し尙種々の **特典** あり

（類似譜本あり發行所に御注意）

琴調子笛六十錢一圓五十錢二圓送料各八錢宛琴譜見臺二圓五十錢送料八錢樂器目錄進呈

發行所 筑前國公園東 福岡市外內 **箏曲通信教授所**



此廣告を見て御申込の方は必ず婦人世界愛讀者なる旨御申添を乞ふ

地方在住生徒募集

日本通信高等女學校

●●新學期開始 自宅に居りて僅か壹年にて女學校を卒業し資格と實力を得度人は今高等女學校に入れ詳細規則にあり本校に入れ易に卒業し日本に始めて出來た本校の卒業生は大學專門部特科へ無試驗にて入學する者には學資貸與等の大特典あり直ちに申込め

今入學すれば二ヶ月早く卒業する便宜あり何時入學しても教授錄第一號より發送して講習に便ならしむ

父母の膝下で家事の傍ら僅少の學費と短日月にて女學校五年の科程を完全に卒業せしむるは唯本校あるのみ

教授錄見本つき規則 往復はがきにて申込次第無料進呈す

新學期開講紀念として入學金全免の特定あり至急申込め

校長四元法學士

總長子爵 持明院基哲 講師 博士學士 專門大家 參拾餘名

東京本郷 電話下谷五貳三九番

新花町 振替東京貳四六貳貳

日本通信高等女學校

最新刊

理想の女

高橋淡水先生著　鈴木綠陰先生裝畫

四六版 上製 金八十錢 送料入錢 百五十頁

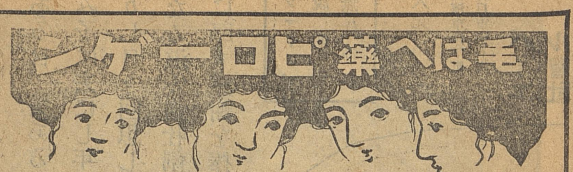
定價

女性二十餘名を選び時勢と境遇と女詩人の特性と人品とを背景として文章流暢にして優雅記事清新にして豐富篇を分ちて荻の下露、阿蘇時雨、俠美人、八重垣、世話女房、書師の妻、天下の秋、伯爵夫人以下十數篇となしよく其人の風貌を紙上に活躍せしめ一讀百花の園に逍遙せしむるの想あらしむ家庭の讀物として最も健全婦人修養のため必讀すべき好著たるは勿論妻のため、娘のため、妹のために謹んで男子の一讀を奬む

東京市本郷區本郷一丁目 日東堂發兌 振替東京一二六三四番 電話下谷五五八八番

日本通信高等女學校

毛は藥ピローゲン



藤本藥學士數年間研究の上發見せる現代の奇藥ピローゲンは凡そ身體中生ゆべし所に毛のなき人、髮の毛薄き人、ぬけ毛の人、眞にはへる偉効は論上より證據谷實驗者の證明にて明かなり他の毛生へと違ふ彼是と迷はずヒ御試しあれ實に不思議の毛生藥御申込は「かはせ」又は振替價大二圓、中一圓試六十錢、特製三圓送料各八錢

東京帝國橫山町三丁目 藥學問屋 玉置文次郎 發賣元 電話浪一五一〇番 振替東京一五二三番

●●あざやせる藥

●なまず●そばかす●ほくろ●いぼ●にきびの奇藥說明書郵券二錢送附あれば進呈す

多血症●脂肪過多●中氣●便秘●酒ぶとり●凡てふとりすぎて御困りの人に害なくやせて●中肉美容となる新藥なり試みたき方は郵券二錢詳細報知す

東京市牛込區赤城元町三三 池田製藥部 振替東京一八七四番

現代女子の職業と生活要

米國醫學博士曾根操女史序　小舟女史　鴨田垣子著

（洋裝クロース美本二百餘ページ正價金五拾錢　送料四錢）

現代の女子は如何にして最も適當の獨立自營策に成功するを希望の職業に就かんとする者は一日も速に本書を繙いて職業選擇上最良の此顧問者が語る處に從ひ速に成功せんとする婦人は勿論其父兄諸子本書の指導する處に邁進せよ

發行所　東京市芝區高輪南町六十五番　成蹊堂

此廣告を見て御申込の方は必ず婦人世界愛讀者なる旨御申込を乞ふ

回想

幸ある日、榮ある今日！
ふみ子は去にし年のいと弱かりし日を回想して回生の親なる滋養強壯劑ソマトーゼに厚き感謝を捧げぬ！

ソマトーゼ説明書無代進呈

輸入元
横濱市山下町
神戸市明石町
バイエル會社



吉崎李枝子夫人



大坂の辯護士法學士吉崎龜之助氏夫人李枝子、東京女子高等師範學校附屬高等女學校の御出身て、多藝多能の方てございます

本號八十八頁記事參照


YANG
SUMMER
大學白粉とツバメ香水
ほのぼのと月の殘まる若葉山
池のめぐりの花あふひ艸

廣告を見て御申込の方は必ず婦人世界愛讀者なる旨御申添を乞ふ

新音譜賣出し



蓄音機が娯樂品たりし時代は既に過去に屬せり多年擘店に於て製造せる精巧無比なる八種の器械と肉聲をも凌がんとする三千餘種の音譜とは家庭に於て學校に於て進んでは廣く社會のあらゆる階級に於て殆ど必要品として其需要日に增加しつゝあり

括目して見られよ今月賣出し左記の新音譜を

(一)歌劇家としての原のぶ子女史の妙音絕調聞く者をして覺えず血沸き肉躍るの感あらしむ

(二)前古來曾有なる調和歌此れ實に澤田澤山遠藤の三名が苦心慘澹巧みに和洋の音樂を調和せし者

(三)次は納所文子嬢獨得の聲調文部省發行の新唱歌五種兒童諸君が喝采の聲山野に滿つる日蓋し近きにあるべし

唱歌（ピアノ入）

一九四〇	赤鷲印	日の丸の旗、鳩、おきあがりこぼし	納所文子	赤鷲印
一九四一	兩面盤	人形、ひよこ、かたつむり	同 辨美郎	兩面盤
一九四三	同	牛若丸、夕立、池の鯉	同	同
一九四二	同	桃太郎、菊の花、犬	同	同
一九四四	同	木の葉、鬼、花咲爺、	同	同
一九四五	同	軍艦マーチ	同	同
二三〇九	鷲印	埴生の宿	原のぶ子	金壹圓五拾錢
二三一〇	兩面盤	故郷の廢家	澤田柳吉	武壹圓五拾錢

調和歌

二三一三	同	梅にも春（ピアノ、ヴアイオリン）	同	同
二三一四	同	春雨（フリユート）	橫山國太郎 遠藤和一	同

全國に四拾の支店と四百の特約店あり

東京市京橋區銀座一丁目

株式會社 日本蓄音器商會本店

長電話京橋 三五八番 三五七番

此廣告を見て御申込の方は必ず婦人世界愛讀者なる旨御申添を乞ふ

小野鵞堂先生筆

純良和紙木版刷和裝釘頗典雅全壹冊 定價金六拾錢 郵送料金六錢

本帖は古來上下を通じて最も盛に諷誦愛唫せらるゝ小倉百人一首を小野鵞堂先生が獨特の原筆を揮つて百様にものせられたるものにして筆跡の都雅優艶に神韻江溢たる其の本帖に就きて窓下机上筆硯を磨かば啻に諸態の假名の書體及び連綿法を習熟し得るのみならず同時に和歌色紙の書式をもよく習得すべし敢て江湖に一本を奨む。

小野鵞堂先生筆

草書日用集字 木版和裝頗典雅全一冊 定價五拾五錢送料六錢

新體書翰文 木版和裝頗典雅全一冊 定價五拾五錢送料六錢

發行所 東京市京橋區新榮町五丁目三番地 振替貯金口座東京壹四七三〇番 斯華會

東京市日本橋區本石町三丁目二番地 振替貯金口座東京壹千參百五拾番 文永館

此廣告を見て御申込の方は必ず婦人世界愛讀者なる旨御申添を乞ふ

東京美容院長 北原先生歐洲みやげ

のみよけ撒香水

應用化學上に於て東京美容院長北原先生は余が幼時竹馬の友なり過般同先生洋行の盛名あるに際し乞ふに適當の土産を以てせらるゝ依而幾多試みたる好結果を得て今回廣く一般に發賣する事ゝなりしが本品は人體に絶對無害にして有害なる昆蟲に强毒なる性質を帶ぶる化學的良劑を以て調製しある故不快の香氣を作製しある故不快の香氣を帶べるも非らず効力頗烈なる一大新發明にして從來の蚤よけ撒粉に比し全く其の効力一時的にして蚤は撒粉に觸れて初めて斃るゝ迄に數回吹き込めば勿論全く蚤よけ撒粉に比し全く其の効力一時的にして蚤は撒粉に觸れて初めて斃るゝ迄に數回吹き込めば勿論全く蚤よけ撒粉に比し全く其の効力一時的にして蚤は撒粉に觸れて初めて斃るゝ迄に數回吹き込めば勿論全く蚤よけ撒粉に比し全く其の効力一時的にして蚤は撒粉に觸れて初めて斃るゝ迄に數回吹き込めば勿論全く蚤よけ撒粉に比し全く其の効力一時的にして蚤は撒粉に觸れて初めて斃るゝ迄に數回吹き込めば勿論

▲在來の○本品は强烈なる香氣を以て普通人家は云ふ迄もなく旅館の夜具其他病院寄宿等多數人集合し傳染病質を帶べる處に最も理想的好適品なり特に鄉人方の外出に際し少量を吹き置けば浴場其他に惡蟲に取付かれる憂なし

▲在來の○本品は永久的にして應用學上の液體にして少量を撒布すれば蚤は等の例は已に諸君の知らゝ處なり

▲在來の○本品は害蟲驅除の効力類著にして南京蟲の巢窟に數回吹き込めば勿論近邊に寄りつかず香氣顧都として効力數日を保ち頗る經濟的なり

▲在來の○本品は清香の効力なし

▲在來の○本品は强烈なる香氣を以て普通人家は云ふ迄もなく旅館の夜具其他病院寄宿等多數人集合し傳染病質を帶べる處に最も理想的好適品なり特に鄉人方の外出に際し少量を吹き置けば浴場其他に惡蟲に取付かれる憂なし

▲在來の○本品は揮發性なるが故に夜具を汚染する等の不快あり

▲普通香水は揮發性なるが故に夜具を汚染する憂なし

○本品は右等の如き憂更になし又普通香水として兼用するも極めて優秀なるものなり

故に如何なる家庭に於ても必ず本品を常備して夏の憂苦を除かるべく特に施行海水浴等には必ず缺くべからざる要品なり

容器改正 定價 ●小瓶壹十五錢 ●中瓶五十五錢 ●大瓶壹圓

振出し口 ●德用瓶壹圓五拾錢 ●送料小六錢中六谷十錢

●市内御注文は小瓶一個にても直ちに御届け可申候（電話芝三六八九番）

發賣元 東京市麻布區笄町五四番地 振替口座東京一九五〇八番 島商店

販賣部 東京市橋南紺屋町 實業之日本社 ●東京市橋弓町 振替東京三二六番 代理課 萬辨舍

色白くなる

色黒き人、にきび、そばかす、ほくろ、ひやけにて苦む人だまされたと思つて三錢郵券三枚送れ不思議によく効く色白くなる樂すぐ送る

毛生える藥

はえぎわ惡しき人薄毛ぬけ毛にて困る人その外あるべきところに毛なき人試よ毛の生える事請合

定價（送料共）普製一圓 特製三圓

本舖東京日本橋區通四丁目 明治藥院

わきが妙藥

追々お召物が薄くなるに從ひわきがのある御方は頗る惡臭を放ち他人に接近するをきらわれあたら有爲の美男子も交際を缺き又妙齡美婦女も良緣を失ふが如き不幸に陷いる方澤山ありますこれを救はんが爲數年苦心して得たる新藥を皆さんに紹介いたします郵券三錢二十枚御送付あれば直ちに妙藥無料送付いたします

東京市京橋區南鞘町十六番地 東京堂藥院

姙娠避姙と食養法

本書は男女兒を自由自在に得又避姙することのできる傳家の秘法を今回公益のため發表したので世にありふれたる姙避姙法の如く年が年中姙娠するものではありません只一年四回婦人の年齡に依り四季の月節に依り男女の姙娠する月が定りてあります又それより避姙することもできないのでありますそれで世の子なき人や多くて困る人又病氣のため苦しむ人の食養法や療病法をも詳說したのでありますから一般家庭に必要缺くべからざる有益の寶典であり 正價金五拾錢郵稅金六錢

發行所 岩手縣大槌町大槌一八〇一六 澤山有隣堂

振替口座東京二四七一七番

孫の顔を見に米國まで行つたお婆さん



前列右は七十歳で渡米された柴田はる子刀自、その左は女婿正二郎氏、後のお二人は刀自の令孃、右ははつ子孃、左はこま子孃、前の二少女は令孫です

本號四十八頁記事參照

此廣告を見て御申込の方は必ず婦人世界愛讀者なる旨御申添を乞ふ

第二回 十八金指環 特價提供!!

昨年八月當誌上第一回の發賣の際には非常の御高評を博し多大の御用命を辱ふしたるは弊店の深く感謝する處に御座候今回は寶石入の外に高尚溫雅なる彫刻指環を加へ前回仝樣の特價を以て發賣仕候

金性の正確は申す迄もなく寶石も模造品は一切用ひ不申候に付御使用後數月にして變色又は磨粍の爲め光澤を失ふが如き事も絕對に無之候富士より高き弊店の信用に御安心の上陸續御用命奉願上候（代金引換の御注文に應ず）

十八金眞珠入竹（銀色）　十八金波千鳥　十八金サビー入（赤色）

十八金サフアイヤ入（青色）　十八金梅高明

十八金手鋼形　金白サフアイヤ入（白色）　十八金菊高明

十八金蒲鉾形竹　十八金切子

各金五圓

○御注文の節は元結又は厚紙にて御指の太さを御申越被下度候

村松 合資會社

東京市京橋區中橋廣小路角（日本橋大通）

電話 京橋 一一六六　振替座 二〇一六七

此廣告を見て御申込の方は必ず婦人世界愛讀者なる旨御申添を乞ふ

クスモレタ

効力は確實 使用輕便 偉大

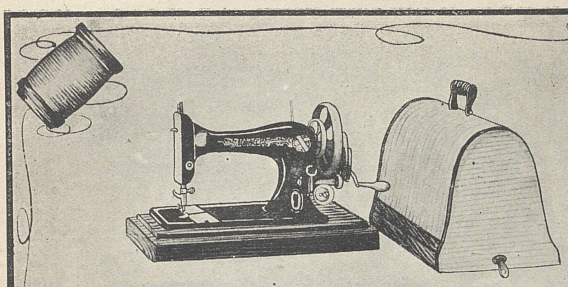
顔を洗ふにも、御湯に入るにも
毛髪を洗ふにも、石鹸洗粉よりも
タレモスク洗料!!!

歐米のシャンプークリームを精製して
日本化させた優良品で
毛の爲めにも皮膚の爲めにも
最も有効な洗料
である

定價 袋入三錢 小器廿五錢 大器四十五錢



發賣元 東京市麹町區丸ノ内有樂町 日本實業商會



今は家庭に於て夏衣の裁縫に
取掛かる時季であります
一番善くて一番安い裁縫の仕方は
シンガーミシンを用ふることであります
シンガー廿八種手廻ミシンは一生涯
家庭一切の仕事に用ひられまして而かも
此ミシンは
一ヶ月參圓
即ち一日
十錢
十錢ヅヽと云ふ
極く格安にて
極めて簡便なる
月賦法＝でお買求めが出来るのであります
シンガーミシンの無料試用無料教授をお受
けになる事が皆様の御自宅まで出来ます
『詳細』は御最寄の分店へ御聞合せを願ひます
弊社の分店は日本の各都市にあります

横濱市山下町廿三番地
シンガーミシン會社日本中央店

此廣告を見て御申込の方は必ず婦人世界愛讀者なる旨御申添を乞ふ

石川正作編

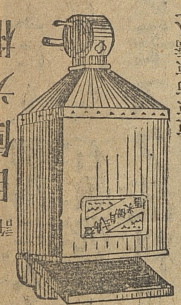
新選才媛文集

●名媛才媛女學生の妙文を網羅し毫も淫靡輕浮の筆を交へず
●各地女學校作文科の參考書として續々歡迎採用せらる
●夏季休暇近し海に山に諸姉諸孃が避暑唯一の好伴侶たり
●繙讀の樂に加へて思ふまゝに紀行文の好資料を求め得べし四季

定價金四拾錢 郵稅六錢 雜叙事文新刊 之部上 八三

東京市本郷區千駄木町五丁目 發行所 東洋社

電話番號下谷五三一



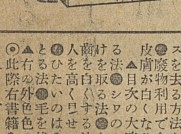
最新刊

自分で出來る美人の心得

金貳拾九錢 振替三拾錢 三錢切手拾壹枚

●東京で近頃美顏術が流行致します。本書に家庭美顏術の方法を自分でスグ出來るやうに書いてありますから自宅で毎日美顏術をして居れば顏のシワを去りキメをかくしツヤのよい美くしい顏になられます。●男性美も女性美もニキビの爲めに害されます。本書のニキビ、ソバカス、腐物利用で全く美男美女となる事が出來る。●淺後塗れば顏の皮膚が白くなり、一時的でなく天然の美氣と同じになる。△目次の大略▼●白粉の如く白くキメを細かにする法●髮を黒くツヤを出す法●髮の毛筋を細かくする法●シワのよらぬ法●髮毛のふゑ方●眉にやけるのをふせぐ法●額を廣くする法●色黒きを白くする法●赤毛を美麗にする法●目を美しくする法●まゆ毛の化粧法●白粉のときかた●鼻を高くする法●見せる法●化粧品の撰び方●日光の心得●やせる法●ひたいのはゑを直す法●化粧の仕方●白髮のはえぬ法●右の外色々の事が澤山あります。皆自分で出來る樣に書いてあります。●此際右書籍を直接御注文の方には家庭に有益なる新智識普及致候

發行所 東京市下谷區北稻荷町五四番地 振替口座東京四壹八六番 魁進堂



最新刊 自分で出來る美人の心得 金貳拾九錢 振替三拾錢 三錢切手拾壹枚

●東京で近頃美顏術が流行致します。本書に家庭美顏術の方法を自分でスグ出來るやうに書いてありますから自宅で毎日美顏術をして居れば顏のシワを去りキメをかくしツヤのよい美くしい顏になられます。●男性美も女性美もニキビの爲めに害されます。本書のニキビ、ソバカス、腐物利用で全く美男美女となる事が出來る。●淺後塗れば顏の皮膚が白くなり、一時的でなく天然の美氣と同じになる。△目次の大略▼●白粉の如く白くキメを細かにする法●髮を黒くツヤを出す法●髮の毛筋を細かくする法●シワのよらぬ法●髮毛のふゑ方●眉にやけるのをふせぐ法●額を廣くする法●色黒きを白くする法●赤毛を美麗にする法●目を美しくする法●まゆ毛の化粧法●白粉のときかた●鼻を高くする法●見せる法●化粧品の撰び方●日光の心得●やせる法●ひたいのはゑを直す法●化粧の仕方●白髮のはえぬ法●右の外色々の事が澤山あります。皆自分で出來る樣に書いてあります。●此際右書籍を直接御注文の方には家庭に有益なる新智識普及致候

發行所 東京市下谷區北稻荷町五四番地 振替口座東京四壹八六番 魁進堂

ちゞれ毛直し（ベント）法

定價大國九十錢 小包料八錢

本劑は一度之れを使用すれば如何なるちゞれ毛、くせ毛も直伸し永く使用すれば殆んど治す

毛はえ藥（コエヒカル）

定價特製三圓大壜一圓五十錢小壜八十錢小包料八錢

本劑は頭髮は勿論眉、口髭及び陰部に至るまで凡そ毛の生ずべき所に皮膚病其他の故障の爲め生毛せざる者又は發生せるも極めて微弱なるに塗抹すれば其効能現はる

生毛強壯劑（ニツクト）

定價卅日分二圓五十錢十日分一圓小包料十六錢 八錢

本劑は最も進歩したる毛髮劑にして毛髮を美化するにありされば身體强健血行良好となり皮膚腺の分泌を盛んにし毛根の營養を能くし從つて薄毛、細毛、赤毛、白髮等に連用せば効あり

發賣元 東京市本所區外手町八十七 深澤國華堂

振替東京二〇八二五番 電話本所二〇六八番

美髮法

しら毛赤毛の話〇くせ毛ちゞれ毛の話〇毛の無き處に毛を生やす話等詳細記しあり本書入用の方は郵券貳錢封入御申越あれば直に贈呈す

最新刊 自分で出來る美人の心得 金貳拾九錢 振替三拾錢 三錢切手拾壹枚

●東京で近頃美顏術が流行致します。本書に家庭美顏術の方法を自分でスグ出來るやうに書いてありますから自宅で毎日美顏術をして居れば顏のシワを去りキメをかくしツヤのよい美くしい顏になられます。●男性美も女性美もニキビの爲めに害されます。本書のニキビ、ソバカス、腐物利用で全く美男美女となる事が出來る。●淺後塗れば顏の皮膚が白くなり、一時的でなく天然の美氣と同じになる。△目次の大略▼●白粉の如く白くキメを細かにする法●髮を黒くツヤを出す法●髮の毛筋を細かくする法●シワのよらぬ法●髮毛のふゑ方●眉にやけるのをふせぐ法●額を廣くする法●色黒きを白くする法●赤毛を美麗にする法●目を美しくする法●まゆ毛の化粧法●白粉のときかた●鼻を高くする法●見せる法●化粧品の撰び方●日光の心得●やせる法●ひたいのはゑを直す法●化粧の仕方●白髮のはえぬ法●右の外色々の事が澤山あります。皆自分で出來る樣に書いてあります。●此際右書籍を直接御注文の方には家庭に有益なる新智識普及致候

發行所 東京市下谷區北稻荷町五四番地 振替口座東京四壹八六番 魁進堂

此廣告を見て御申込の方は必ず婦人世界愛讀者なる旨御申添を乞ふ

宮城千代子編

實用裁縫手ほどき

四六版全一冊 定價金廿五錢 郵送料六錢 郵券代用一割增

本書は著者が多年苦心の上苦心を重ね婦女子に至極分り易き樣圖畫二百八十有餘を加へ詳しく說明し尚背紋紐止等は一々彩色して示したれば裁縫を學ばんには最大の良書なり早く御求めあれ

歌舞音曲講習會編纂

いろは 琴歌新らしく考

四六版橫本一冊 定價金五十錢 小包送料八錢 郵券代用一割增

本書は生田流山田流其他各流の粋を集め全曲は勿論琴曲に依る階梯を小唄俗謠及び日下大流行の最近の新曲に至るまで悉く斯道を學ばんとする士女には最も好適他に比類なき良書なり

小倉照月宗匠著述

池の流の生花の手びき

四六版全二冊 定價金四拾錢 小包送料八錢 郵券代用一割增

本書は一般有閑れたる生花指南書と異り既に姿を開けば悉く圖畫を挿入し手を取り數ふる輕妙なる行文に獨特の趣味多大の價値を感ずべく眞に斯道の初學生花獨習の唯の卷と云ふべき無比の良書なり

野菜魚類漬加減

四六版全一冊 定價金貳拾錢 郵送料四錢 郵券代用一割增

本書は野菜魚類の漬方と味噌の製法等を初心の人にも一目瞭然と說き明したるものなり今更申迄もなく一般家庭に於て日常食膳に缺くべからざるは漬物なりされば一家の主婦たらん人是非本書を御備あれ

大日本禮節會編纂

新日本諸禮式大全

洋裝總クロース 定價金六十錢 小包送料八錢 郵券代用一割增

本書は一般の禮式は勿論極細事に至る迄博的に記載してある良書なり

大阪市西區京町堀通三丁目 振替口座大阪二〇〇八四番 大阪博文堂

此廣告を見て御申込の方は必ず婦人世界愛讀者なる旨御申添を乞ふ

讀者諸君

余輩過般渡歐の際　歐羅巴に於ける呼吸器病の絶大なる注意を拂れつゝあるを見　大ゐに感ずる處あり　美容術視察の餘暇　此方面の研究を重ね　幾多の新藥　新醫療器具等を見　亦大家の教を聞き一種の肺病、喘息等の治療器を按出し伯林に於て試作せしに忽ち全市に擴るに至り歸來是を試むるに幾多の禮狀賞讃狀に接しつゝありし處其有効なる結果は、今回大日本政府の

專賣特許を得たり

恐るべき

肺病喘息

等他人に發表し得られざる疾病に就て是迄其弱點に乘じて如何はしき藥品の往々に發賣せられつゝあるは已に諸氏の知らるゝ處也　余を知り余を信ぜらるゝの諸氏の知友にして若し斯る疾病に苦しまるゝ人あらば余の許に確實なる右治療器及優良なる藥品あるを御紹介あらむ事を、尚本品は營利を目的とせざるを以て度々廣告せず特に御記憶相願たし（說明書贈呈）

神田駿河臺（電特長本局一七七一）

東京美容院長　北原十三男

美容術

最新白色法及脫毛術

神田駿河臺　東京美容院

電話特長　一七七一番

院長渡歐の際獨佛英等に註文し來りし最新式器械藥品材料一切到着本院は是を以て行ひ在來世間に行れある式と全然相違するを言明す

藥品部發賣品

優良なる毛生劑　最新白色料　脫毛材料　にきび　そばかすの藥其他美顏及毛髮藥品新式美顏器具一切說明書郵券三錢を要す　尚美髮藥品の確實なるものを求めんとせらるれば充分なる設備新式器械經驗等完備せる本院にして初めて良否を鑑別する力ありて常に良品の供給に勉むる事を得るに考へ及ぼざるべし尚、伯林　巴里等に常置員あるを以て歐洲に於ける新式品取寄せのお求めに應じ候べし

別府の藤



水藤平三郎氏寄贈撮影

豐後國別府近在柴石の藤、右より渡邊しづ子。大濱とみ子、米國法學士オルソン氏。渡邊ちか子、大濱よし子

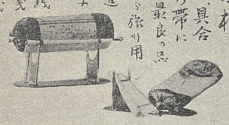
高評を得たる夏季必要品

アンダーベルト
一名 汗除帶
廿五錢 卅五錢

どれほど汗にても
すぐにてもお召物に汗のしみることなく
内部より柔かき綿の層が入きっとあるまでから
お召帶に被がよく汗を極めて吸ふ為でありまた



空氣心小枕
体裁優美、具合
敢も至く携帶に
便に衛生上最良の品
で御座いますから旅行用
家庭用に進
物用に最もよ
ろし
定価金圓拾錢
〒九錢
送料 八錢



ヴァイオレット・グリスリン石鹸
一個 廿五錢
舶来（新輸入）
此石鹸は非常に透明なる
青色を備へヴァイオレット
の香氣を配合せるため上
等化粧用として既に高
評を受けつゝあり一度
使用せらるゝ時は永く香氣を
保ち心身共に爽快となり
又頭髪を洗ふに用ゆるは
頗る良好なり



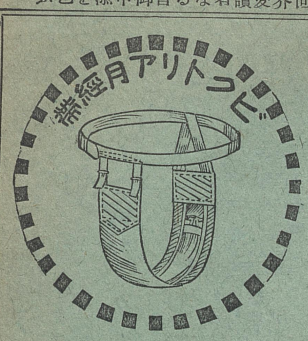
化粧箱
鏡 筆 大小種々
印傳革
三圓五十錢位より
三十五圓位まで



地方よりの御用命にも何れも品物代金の外に相當の送料を頂戴いたします

發賣元
東京新橋
關口洋品店
塔寄東京 八〇九二

此廣告を見て御申込の方は必ず婦人世界愛讀者なる旨御申添を乞ふ



說明書呈送
ハガキにて申込次第

月經帶には
度々失敗しました

私は「月經帶」なら色々買つて使用して見ましたが、何れも實用のものにならず困つて居りました處、先日或る奥樣が米國製のビクトリア月經帶を使つて御覽なさいと云われましたから早速買つて見て、其の工合のよさに驚きましたとは眞實な御便りであります。あなた若し未だ御使用なさなければ今すぐに御注文下さい、本品は貴き方々を初め、各女學校寄宿舍、各病院其他有らゆる方面から理想的月經帶なりと御證明下さつた最も優良な月經帶であります。

最上ゴム製
ビクトリア月經帶
一具金壹圓五拾錢
（送料は大谷負擔）

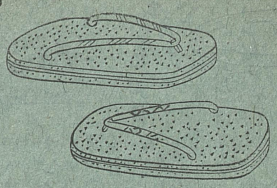
市内は端書にて御注文下さい早速御屆致します
地方は小爲替、郵便切手、振替貯金（東京七八六七番）にて御送金下さい早速御送附致します

發賣元
東京市京橋區南鍛冶町一
振替東京七八六七番
大谷兄弟商會

此廣告を見て御申込の方は必ず婦人世界愛讀者なる旨御申添を乞ふ

輕くて足觸が、柔かで、藏前濕氣を防ぐ衛生的

コルク草履



紳士淑女間に盛んに歡迎せらる

◉本品は專賣特許人造彈力材（接合コルク）で拵へました最新發明の理想的草履でありまして履き心地のよい事此上もない。

孃樣も、奥樣も、妨つ樣も夏の夕の散歩に必ず召しませ

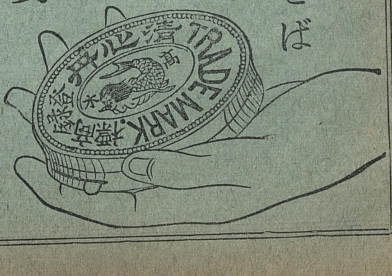
男物大形（臺ノミ）九十錢女物仝八十錢子供物二十八錢ヨリ六十五錢迄外に鼻緒十錢ヨリ五十錢迄御好に應ず

東京淺草區藏前南元町十二（電話下谷二二九七番）

山本商店

人若し藥を需めんとせば須く撰擇を要す

◉清心丹の三大特色は一效能の確實



二品質の善良二價格の低廉

主治效能

心思鬱憂、頭痛眩暈、胸痛腹痛、過酒過食、惡心嘔吐、溜飲宿食、中暑中寒、下痢痢病、舟車不快、咯痰咳嗽、咽喉不調、齒痛口臭

定價 壹圓箱入 五拾錢箱入 參拾錢鑵入 拾五錢鑵入 拾貳錢瓶入 貳拾錢紙包 拾錢紙包 五錢紙包

東京市日本橋區元大坂町八番地

本舖 高木與兵衛

此廣告を見て御申込の方は必ず婦人世界愛讀者なる旨御申添を乞ふ

婦人世界

第七卷第六號　定價一冊拾五錢（郵稅一錢）　半年分共金九十五錢（郵稅一錢）　一年分共金一圓七十五錢（郵稅一錢）

S子の爲に（新からん女）

鳩山春子

▲S子の將來は幸福なりや……▲ロモラも遂に失敗せり……▲ギーは如何なる女なりしか……▲自由戀愛主義者の悲慘なる末路……▲私生兒の運命……▲新しき女の哀れなる最後……

戀愛に成功した新夫婦

長井博士 藥學博士 理學博士 長井長義

これは或年若き男女間に起つた純潔にして熱烈なる戀愛が、長井博士の深厚なる同情と、周到なる斡旋とに依つて目出度結ばれたる最も興味ある戀物語であります。

◉嫌な女の職業教育　宮田修
◉婦人の主婦時代　安部磯雄
◉私の戰爭より受けたる我家の痛手　棚橋絢子
◉新しき女の末路　下次郎
◉新しき女の悲哀　内海月杖
◉露子樣へ　山崎大尉 林友白合
未亡人

記者の眼に映じた新しき女の三家庭

……果して如何なる家庭なりしか。學ぶべき家庭なりや。呪ふべき家庭なりや。羨むべき家庭なりや。憐むべき家庭なりや。將た幸福なりや。悲慘なりや。其の秘密其の眞相の詳細は掲げて本誌にあり。

東京市神田區 振替 東京 二〇八 二四八 電話 本局 二四 婦人世界社

此廣告を見て御申込の方は必ず婦人世界愛讀者なる旨御申添を乞ふ

味の素

賣捌所は全國各地

喰べておいしく

日本料理

世の中の有ゆる御料理飲食物に應用無限少量を加へて美味を增し遺憾なき滋養分を添ゆ其上使用法が誠に手輕で怎麼忙い時でも亦急ぎの時でも味の素さへあれば苦勞せずに美味い料理が自由に出來ます

西洋料理

普通のお家庭で西洋料理のスープを拵える事は實に厄介極まる事ですが味の素を白湯に溶いてスープ代りに使ひますと美味いお料理が出來ます其の他西洋料理のスープ物やカレー物等には極く結構です

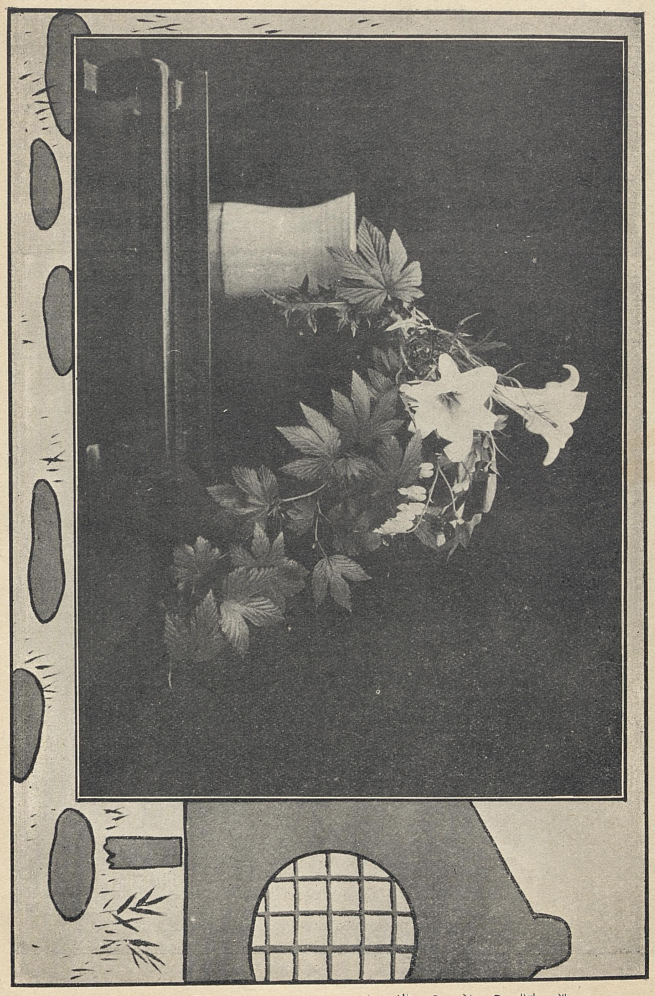
而て滋養分豐富

精進料理

味の素は小麥大豆から精製した植物性蛋白質合性の主要分で精淨純白な粉末ですから精神料理の調味料には願つたり叶つたりで言ふまでもなく誠に美味いのと手輕なのとで各宗の本山から御用を蒙ます

ロンドンみやげ
即席カレー
發賣元 鈴木

花生の月六



初夏の花の投入　水町一泉女

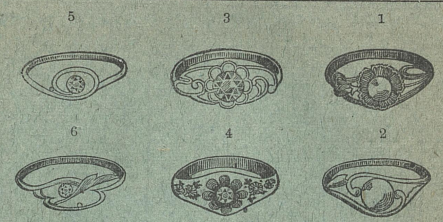
投入れとは自然の野邊の趣きを寫し出す心持のもので何の草木でも一束にして一瓶に挿しますから私は一手花と申します

此廣告を見て御申込の方は必ず婦人世界愛讀者なる旨御申添を乞ふ

最新式指環

營業日錄送料要貳錢





(1) 拾八金 養殖眞珠入 金拾圓
(2) 拾八金 養殖眞珠入 金拾壹圓
(3) 拾八金 ルビー入 金八圓五十錢
(4) 拾八金プラチナ臺 眼ダイヤモンド入金參拾壹圓
(5) 拾八金 ダイヤモンド入 金廿七圓
(6) 拾八金 ダイヤモンド入 金卅圓

東京神田區鍛冶町
白牡丹中西
電話本局 二〇四〇番
振替口座 一五二一四番

□お顔は婦人の最も大切な處
□其處へ用る化粧料の撰擇を
□語つたらそれこそ大變です
□天與の寶もたまなしになる

ライラック
エメラ化粧水
美顏術實驗有効!!

■撰擇に苦しめる人迷える方
■は一番日本人間に評判高き
■美顏術十餘年實驗有効なる
■安心の出來るエメラを召せ

特効
白粉下 白粉止 キビ ソバカス 日やけ 色白くなる

製造元
LILAC EMERA MFG CO., CINCINNATI OHIO
輸入元 新金橋六 南町 理容商會

■到ル處ニ販賣セヨ!!

初夏のよそほひ
お化粧には
白粉の溶水に
美顏水
御素顏には
洗面後寢前に
美顏水!
これで美人は
ます〳〵美人!



發賣元 桃谷順天館

（此廣告を見て御申込の方は必ず婦人世界愛讀者なる旨御申添を乞ふ）

梅雨期ノ衛生上缺ク可カラザル本品

清洒たる夏の少女洋服

定價表

五才前后金四圓ヨリ、八才前后金五圓ヨリ
十才金五圓五十錢ヨリ、十四才金六圓ヨリ

實用と裝飾とを兼備せる前掛

定價表

改正	定價		定價
	尺四寸	尺六寸	尺八寸	二尺
一號	一、五〇	一、六五	一、八〇	一、九五
二號	一、三〇	一、四〇	一、五五	一、七〇
三號	一、一〇	一、二〇	一、三〇	一、四〇
四號	、六五	、七五	、八〇	、八五
五號	、五五	、六〇	、七〇	、七五

送料ナイ
トドレスト同一

自然なる裝飾を體せる帽子

定價表

大人金一圓九十錢ヨリ、中子供金一圓五十錢ヨリ

西洋織物男女洋服裁縫仝附屬一式卸小賣

東京市本郷區眞砂町七

大河内婦人洋服店

電話下谷五二八、振替東京八三七二

東京市麹町區一番町四ノ一八 振替東京八三七二

實用新案（ナイトドレッス第二三一七號）

特約販賣店

東京、地方

三越呉服店
白木屋呉服店
松坂屋呉服店
關口洋品店
いとう呉服店
なごや桔梗屋呉服店
松野屋呉服店
渡邊洋服店

婦人世界代理部

定價表

種類 / 寸法	キヤイタラコリヤセルル本子
十四才一號 マデ	一、一〇
十二才二號 マデ	一、〇五
八才三號 マデ	一、〇〇
六才四號 マデ	九五
四才五號 マデ	八五
大人一特	一、二〇
大人一號	一、一〇
仝二號	一、〇〇

御注文ニヨリ調製仕候

送料 内地八錢 臺灣朝鮮滿洲樺太三十錢

（此廣告を見て御申込の方は必ず婦人世界愛讀者なる旨御申添を乞ふ）

THE LADY'S GRAPHIC

婦人畫報

六月一日發行 六月の卷 定價 廿五錢 郵稅二錢 雜誌共 四六判百六十頁 郵稅二錢 四六判百六十頁 郵稅二錢 四六判百六十頁 郵稅二錢

此廣告を見て御申込の方は必ず婦人世界愛讀者なる旨御申添を乞ふ



正確な貴金屬品は

永年專業の商店として信用ある、
大西白牡丹へ御申付下され度候。

〈よそほひ第七號發行無料贈呈〉

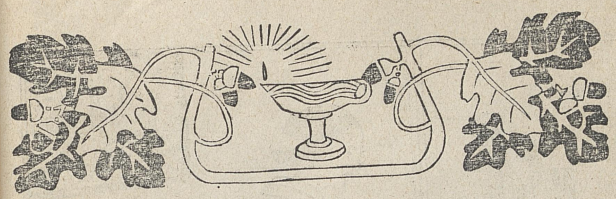
東京南傳馬町

大西白牡丹

振替口座東京九二九三番
電話京橋長三十番三十一番



女流文學者井上通女
萬治三年六月十一日
讃岐丸龜に生る

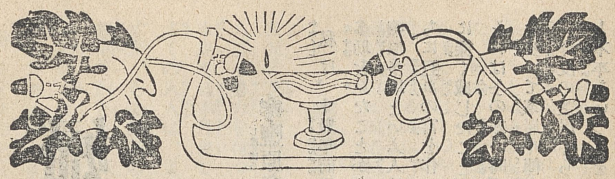


健全なる婦人雑誌

社會の風潮が日に日に輕佻浮華に流れて行くといふことは、具眼者の等しく視るところです。殊に、若い婦人の思想が、ともすれば浮薄になり易いといふことは、識者の悉く憂ひとするところで、私どももまた日夕憂慮に堪へぬところでございます。

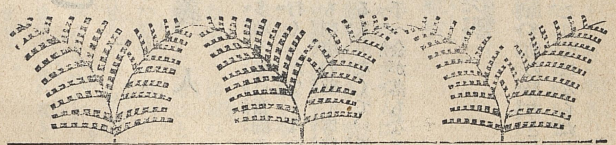
婦人雑誌は、婦人界の指導者であり先覺者でなければなりません。少なくとも、指導者たり先覺者たる覺悟がなければならぬと思ひます。ところが、私どもは、近ごろ悲しむべき事件に接しました。それは外でもございません。二三の婦人雑誌が風俗壞亂といふ忌はしい名のもとに發賣禁止を命ぜられたことでございます。私どもは、同業者の一人として、誠に遺憾に堪へぬ次第でございます。





創刊以來、健全なる思想の鼓吹者、實際を離れざる新知識の供給者を以て自ら任ずる『婦人世界』は、この際、愈よますます自重して、眞に婦人界の先覺者たり指導者たらむことを誓ひます。女學の勃興に連れて、婦人の讀物は著しく增加しましたが、それと同時に、これらの刊行物の婦人界に及ぼす影響は一層大なるものとなりました。

私どもは、別項奥田文部大臣が特に『婦人世界』のために語られた訓辭を金科玉條として服膺いたす覺悟でございます。なほ諸姉の御助力を得て婦人界のために微力を致すことを得れば、啻に本誌の光榮のみではございません。



婦人雜誌記者に望む

文部大臣　奥田義人

❀鹽原多助の芝居を見る

私は、十數年前に、ある劇場で先代菊五郎の鹽原多助を見たことがあります。誰も知つてゐる通り、鹽原多助といふ人は、卑い身分の百姓から一代のうちに巨萬の富を作つた人ですが、その芝居を見た時に深く感じたことがあります。

それは冬の寒い時でした。私は、一時間ばかり外を歩いて茶屋や俥夫のいふことを聞きましたが、『今度の芝居ぐらゐ不景氣なことはない。』と不平をいつてをりました。

それは、その芝居を見た人は鹽原多助の克己奮闘の精神に動かされて、茶屋から見に行く人が少くなつたからでした。また芝居がはねても劇場の前で客待の俥に乘つて歸るやうな贅澤をする人がなくて、皆歩いて歸つたから、茶屋や俥夫の手へ金が落ちなくなつたのでした。

❀驚くべき芝居の影響

言葉を換へていへば、見物人が鹽原多助の努力とか奮闘とかいふものに動かされて、これではならぬといふ勇猛心を振起したのです。

實際は劇場の一町ぐらゐ先きへ行つて俥に乘つたものもあるかも知れませんが、少なくとも芝居の前で乘らうといふ心を起させなかつたのには感心しました。僅か一つの芝居でさへ、それを見る人の心を動かすことはこのやうに大きいものですから、社會教育に携はる人は、よほど注意しなければならぬと、身に染みて感心いたしました。

❀大日本史は維新の源なり

ただに芝居ばかりでなく、書いたものでも侮るべからざる勢力を持つてをります。早い例は、彼の大日本史や日本外史でもわかります。

多くの人人は、よく明治の維新といふことをいひますが、その維新の源となつた勤王の觀念は何處から出たかといへば、大日本史や日本外史です。その當時の志士が盛んに大日本史や日本外史を讀んで、君のためには命を捨てても惜しくないといふやうな考になつたからだと思ひます。

西洋にもさういふ例は澤山あります。ある學者の書いた書物のために大騒ぎを惹起したこともありますし、それと反對に、他の學者の書物で世道人心が墮落したり腐敗したりしたこともあります。

❀雜誌記者の筆と社會

しかし、芝居を演じたり書物を書いたりする人は、自分の藝や書いたものがそんなに世間の人人を動かさうとは思つてゐないかも知れません。後からその及ぼした影響があまり大きいので、却つて驚くやうなことがないとも限りません。

私は、雜誌記者も、これに似てゐるやうに思ひます。自分の書いた文章とか、また編輯した雜誌とかいふものは、社會に對してたいした影響を與へなからうと思つてをられるかも知れませんが、私が前に例に引いた芝居などから考へてみると、決して忽せにすべきことでないやうに思ひます。案外なところから惡い結果を生ずるかも知れません。

近頃の婦人雜誌に驚く

近頃文部省では内務省と協議して、雜誌の取締に注意してをりますが、まだその方針は極まつてをりません。ただ風敎の上からあまり感心しないものは、内務省の方から發賣を禁止するやうにしてをります。先日も二三の婦人雜誌が發賣を禁止されました。尤も、あれがこの頃の婦人雜誌全體の傾向を代表してゐるものだとはいはれないでせうが私は、それを讀んで實に驚きました。風俗を紊すやうなところは勿論ありますし、その他にも、譯のわからぬ理窟——よくいへば哲學めいたことをいつてゐるのに驚きました。

婦人を虛榮に走らしむ

ああいふ理窟は自分の研究にはよいでせう。學者が學理を究めるやうに、奥深く突きつめたところまで研究して考へるのは、その人の精神修養にもなることですから差支ありませんが、社會一般の人に讀ませるのはよくないと思ひます。學問のできる、精神修養の積んだ婦人ならばさうでもないでせうが、なまじつかの人が婦人問題などを論じてゐるやうなことを知れば、よくいへば婦人の氣風は向上するかも知れませんが、惡くいへば虛榮に走るやうになります。ところが、世間にはさういふ議論を聞いたために、虛榮に走る人が九分九厘までてあるのです。

學校の敎育を雜誌で壞す

婦人よりは一般に思想がしつかりしてゐると思はれる男子でさへも、不健全なものを讀んでゐると、よくない結果を生ずるのだから、婦人が不健全な思潮に捲き込まれて行くのは無理もありません。それを學校の敎師などがやかましくいつたところで何の役にも立ちません。いくら修身や倫理で道德を說いて、人間の踐むべき道を敎へても、雜誌の記事を讀んですつかり壞されてしまひますから、敎育家のいふことは少しも効がなくなります。これは、世道人心の上から見て誠に恐るべきことだから、編輯者の方でも少し注意して貰ひたいと思ひます。全部原稿に眼を通すのは大儀かも知れませんが、責任者であればいたし方ないでせう。

眞に家庭に讀まれる雜誌

といつて、私は、女大學のやうなものをお作りなさいとはいひません。昔は女の道といへば、あの書物を標準にしてゐましたが、今は時世が違つてゐるから、あれては困るでせう。もし取るとしたら、あの精神ですが、それでも今の女の道と矛盾してゐるところが少くありません。

それに、あの書物は非常に簡單なもので、複雜した内容のあるものではありませんから、今の人にお勸めすることはできません。それは、今の世に武士道を說くのと同じやうなものです。

私は、それよりも、今の世に適つた、常識に外れないもの、即ち、家庭で親子が膝を揃へて讀んでも顔を赧らめるやうなことのないやうな健全な讀物が欲しいと思ひます。

健全な思想を養はしめよ

婦人は何時か一家の主婦となつて、家を修めると同時に、子供を育てなければならないものですから、その責任ある婦人が、まじめの沙汰とは思はれぬことを書いた雜誌を讀んだら、その影響は決して少なくはなからうと思ひます。

この頃は不良少年の問題もやかましくなつて來ましたが、その不良少年といふものは、立派な家庭からは殆んど出るものではありません。大部分は家庭の不行屆から、ああいふ少年があらはれて社會に害毒を流すやうになるのです。それですから、婦人雜誌の記者は、この邊のことをよく考へて、婦人に健全な思想を養はしめるやうにして欲しいと思ひます。

内氣な女と快濶な女

下田歌子

❀昔は内氣な女を貴んだ

昔から我が邦では、男子は何處までも活潑で元氣で、力も強く、氣象も剛く、度胸も勝れてしッかりしてゐるのを、男らしい男といつて、人が敬ひ尊びました。その反對に、婦人の方は、さういふ人は亂暴だとかお轉婆だとかいつて、疎んじ嫌ひ、女子は何處までも女らしくあれと敎へたものでございます。それでは、どういふのが女らしい婦人かといふと、これは、いろいろの條件がありませうが、概して申せば、凡ての點に亘つて、寡言謙讓靜肅であれといつてゐたやうです。婦人が荒ツぽくて疎雜ではいけない、女子は内氣で、しとやかで、大きい聲ではものをいはない、大勢の中では顏もよう擧げられないといふやうなのが、よいと考へられてをりました。その證據には、上流良家の婦人を形容するには、必ずさういふ點を書き、市井の賤民の女子を形容するには、必ず多辯饒舌で、疎暴で、不行儀不作法といふやうな點を惡しざまに書いてございます。ところが、現今の若い婦人たちは、なかなか活潑であります。いひたいことは平氣でサッサといひ、なすべきことは構はずズンズンやり、衆人の前にあつたからとて、別に恥ぢ怖れるといふ風もない人が多いやうでございます。勿論、中には、やはり昔風に物事に遠慮勝ちで、引込んでゐる方もありますが、それらは次第次第にその數を減じて、おひおひ現代式の婦人が多くなつて來るのであります。

❀現代に殘る徳川式の女

試みに、現代式の活潑な女子と、徳川式の内氣な女子とを比べてみますと、なかなか面白い對照を見出し得るのでございます。即ち、現代式の女は、一向人に恥ぢるといふ風がないのに、徳川式の女は、非常に人を恐れました。殊に、男子に對しては、いかにも恐さうです。甲は、何處までも自分の意志を發展させようとしますし、乙は、常に受身で、人の與へた境遇に甘んじてをります。甲は、自分を中心として、わが利害の觀念によつて動くものが澤山ですけれども、乙は他に倚つて、その保護の下に立ち、家庭のため、良人のため、子弟のために、飽くまで自己といふ考を去つて、犧牲獻身の行爲を安んじてしてをります。甲は、概して理性的で、理論の上に自分の進退を決しようといたします。乙は、何處までも感情に訴へて、事をなさうとします。



さゞ波や白き鳥吹く風をかる

これらの差からしても、その兩者の性格の差を導いてまゐります。即ち、現代式の女は、活潑で、ハキハキして、理性的であるから、しッかりしたところがあります。ま

た判斷をするにも、冷靜なところがあります。しかし、そのために、非常に冷い、殺風景な女と見えないでもありませぬ。――これは、現代式のよい方を申したので、それができ損つたのは、存外に意志も弱く、理性的判斷も進んではをりません。ところが、德川式の女は、何處までも引込み思案で、高い聲ではものもいはないくらゐですから、稍もすれば因循に流れ、沈鬱に陷り、花だしいのになると、病氣でもありはしないかと思はれるくらゐです。物事をするにも丁寧ではあるが、どうも活潑にその仕事を處分するといふわけにもゆかず、何となく萬事あはれツぽい心持がいたします。（勿論、中には存外しツかりした婦人もあつたのではありますが）

現代の我が邦には、大體において、この二種の型の婦人がをります。一を活潑な現代式の婦人といへば、他は、內氣な德川式の女ともいはれませう。そして、稍ともすると、現代式のよい方は後れがちで、舊式のよくない點が寧ろ殘つてゐるやうであります。

それは、時の勢ひですから、いかにこれを防止しようとしたところで、絕對に防止することはできませぬ。いかに舊式の家に生れた人でも、どうしても新らしい時代の空氣を吸うてゐる以上は、思想なり感情なり風習なりの上に、新らしい考への加はることは、爭ふべからざる傾向であります。

時勢は男子を因循にす

ところが、時の趨勢は、婦人を快濶ならしむると同時に、また不思議にも、男子を因循ならしむる傾きがあります。このごろ西洋のある博士が、

弱きものよ、汝は男なりと



つつじ山降れば淡き暮色かな

いふことを、ある演說場で申されたとか聞きました。これは、古語の『弱きものよ汝は女なり』といふ女を男に差換へたのです。なるほど西洋のいはゆる新らしい女たちが、家を破り、人を傷け、また好んで牢獄に投じ、途中大聲を發して他を罵倒嘲笑するといふやうな行爲をみればたしかに女が男化したに相違ありませぬ。またこれに反して、若い將校たちが、髮にピカピカするほど香油を塗つたり、顏に薄化粧したりすると聞いては、弱きものよといはれても仕方がありますまい。日本でも、だんだん元氣な女子ができて、『われに自由を與へよ』などと、公衆の

新らしき色彩の今の女

外國のことでありますけれども、英國には婦人參政權の問題などといふ大事件が起つて、そのために、婦人にあるまじき亂暴をしたり、官廳や商店の窓や戸を壞したり、官吏やその他の男子を毆打したりするのださうであります。このやうなことは、果してどういふことから起つたかは知りませんが、日本の婦人の眼からみれば、まるで氣の狂つた人のやうに思はれるのでございます。

けれども、それは外國のことばかりとはいはれませぬ。近來わが邦でも、新らしい女とか、婦人の解放とかいふ大變な議論が起つて來たと申しますから、將來はいかやうな變化を見るか知れませぬ。と申しても、これはまだまだ極めて少數で、且その勢力も一向微弱なものでありませうが、とにかく日本の女子が、從來のに比して、よほど新らしい色を帶びて來たといふことは、爭はれぬ事實であります。

前に叫び、また男子は反對に、自分の戀がかなはぬとか、金を使ひ過ぎて申譯がないとかいつて、自殺をしたりする青年があらはれて來ると聞いては、これもまた前に申した男女性が取換つて來るのだともいはれませう。

だんだん世の中が複雜になり、生活が困難になつて、中流以上の婦人も、從來のやうに深窓のうちに日影も見ないで閉籠つてゐるやうなことは許さぬやうになりましたから、物事が總て違つてまゐりましたのでせう。それについて、自分の考へたことも多少ありますけれども、餘論に亘る恐れがありますから、他日稿を改めて申すことにいたします。

とにかく婦人が次第次第に社會の表面に地歩を占めて來るに從つて、快濶になり動的になるのは、理の當然であります。どうしても、現今の婦人は、昔のお孃樣のやうな風をばかりしてはゐられませぬ。時勢は活動的の婦人を要求してをります。しかし、同時に、時勢は、突飛な、直進的な、婦人として取るまじき行爲をしたり、思想を持つたりする婦人をば、多勢は排斥してゐるのであります。つまり現代時勢の要求するところは、婦人として立派な修養もあり、技能も働きもあり、しかも、時代の思想とよく調和して、新らしい時代に最も適當な婦人を要求してゐるのでございます。

❀快濶な女は侮られ易い

ここに快濶な婦人と申しますのは、前に申しました突飛な行爲をする、自ら稱して新らしい女だといふ婦人たちを指したのではありませぬ。もしそのやうな婦人をいふものとすれば、この問題は解決の必要を認めませぬ。快濶といふのは、常識もあり、才智も勝れ、氣分も晴れやかであるが、さりとて無暗に新らしがつて見たり、男子の領域にまで手を伸ばして、男子のすることは何でもできると威張つたりするやうなことのない、普通の女で、幾分雄雄しいところがあるといつたやうな婦人をいふものと考へてみたいのでございます。

さてこのやうな婦人ならば、實に結構のやうに思はれますが、なかなかさう立派な婦人を澤山見つけることはできませぬ。快濶といふと、必ず何か缺點が伴うてまゐります。殊に、從來の日本婦人は、內氣で、柔順で、消極的であるのを理想としてゐたうちに、快濶で積極的であるほどの婦人であるとすれば、どうしても何か人に違つた點があるに相違なからうと考へるのも無理はありますまい。

とかく快濶な女といふと、その人の本性があまり立派でないやうに思はれます。これは、從來日本の貴族、武家、町家でも富豪ともいはれた家の子女は、ただ內氣なのを理想として育てられたので、快濶な女は、むしろ社會の下層において見出し得たからでもありませう。また快濶な女は、何となく馴れ易く、侮られ易いやうに思はれます。あまり開放して、何事にも奧深い、用意周到の點が見えないからでもありませう。快濶な女は、輕卒突飛なやうに思はれます。晴れやかで、活活してゐるのはよろしいけれどもその代りヂッと心を落着けて一つことに何時までも忍耐してゐることはできませぬ。その移り氣に見ゆる點が、快濶な女の節操までも疑はれ易い點でありませう。



新綠を洩るる日の蔭や姉弟

社交に遠ざかれる婦人

悪い點は、内氣の婦人にも澤山あります。第一、内氣な婦人は、陰氣で、人に馴れにくいために、他との交際が容易にできませぬ。また稍もすれば、表裏があり、隱險になる傾きがあります。昔ならばとにかく、現代にあつては、男子も女子も、社交といふことを絶對に退けることはできません。良人の活動を妻が助けるとしても、ただ家の中に坐つてゐるだけではいけなくなりました。てすから、陰氣な捌けの悪い、社交的方面は皆無であるといふ婦人は、八分の損があります。

内氣な婦人には、獨立性のない人が多い。『松にかかれる蘿蔦』を以て婦人の理想とした時代は知らず、現今では、たとひ一家の主婦となつて、良人の助手として引込んでゐるとしても、確とした獨立性はあつて欲しいものです。即ち、良人に養はれてゐるのではなくて、良人を助けてゐるといふ氣分です。もしも良人がない時には、自分が立派に獨立をして行くだけの元氣であります。自信力であります。かういふ自信力のない人は、常に無氣力であり、引込み思案であります。現今の時勢は、たとひ女だからとて、無氣力、引込思案のみではいけません。その有爲活潑な女子がよく耐忍讓讓して、良人に服從してゐてこそ、値があるのではありませんか。

内氣な婦人にあり勝な短所

内氣の婦人は、家庭を冷たくさせる恐れがあります。内氣で、沈默で、引込み思案であつては、何となく近寄り難く、當人もまた何となく人を避けるやうになります。かういふ婦人が家庭の主婦としてゐるところでは、その家庭は、どうしても、暗い、冷たい、無趣味なものとなつてしまふ恐れがあります。家庭の不愉快なことが、ひいて各方面に悪影響を及ぼすものであることは、いふまでもありませぬ。これがために、良人の不行跡となり、また子女の執拗な性質を増長させることも、決して珍らしくありません。



初夏の日や白堊の堂の新らしき

内氣な婦人には、時とすると、陰險執拗な人がないでもありませぬ。内氣な人は、さもなくても、心の底の知れにくいものであります。沈鬱であり、陰鬱であり、引込み勝で、容易に自分の胸の中を打明けることがありませぬから、對手にとつては、何だか暗い、底の知れぬ穴の中に引込まれてゆくやうで、少しも油斷のできない心地のするものであります。このやうな暗い性質が、ややともすると、陰險な性質を養ふものであります。執拗な氣の増長した人は、存外に、一旦自分がかうと思つたことは、事の是非善悪に拘はらず、やり遂げようとするものが多いので、從つて、世間からも嫌はれるやうな人物になるのです。

兩方の缺點を鼻げて行つたらまだなかなか澤山ありませうが、できることならば、この双方を折衷して、長を執り短を補うた理想的婦人であつて欲しいのであります。

が、それもできぬ、どうしてもこの兩方の何方がよいかといはれると、現今の時勢から考へて、婦人の天職、地位から考へて、私は、もはや何と申しても、快濶な氣象を持つた婦人が、その缺點に注意されて、根本からこれを矯正する修養を積まれ、よく鍛錬して大成せられむことを望むのであります。

華族の姫君を連れて徒歩旅行

梅香女塾長　木村貞子

❀自分のことは自分でさす

私は御存じの通り舊弊で、隨分やかましうございます。今の時世には遲れてゐるといはれるかも知れませんが、仁義道徳をやかましくいふ儒教主義がよいやうに思ひます。近頃は西洋の思想が入つて來て、新聞などでも、新らしい女とか何とかいつて騒いでをりますが、國民性が違ひますから、東西の思想は容易に融和のできぬものと思ひます。

私は、さういふ立場から、自分の預かつてゐる子供にも隨分やかましいことをいつてをります。私どもには、伯爵前田利同さんのお妹さんが來てをられますが、とかく身分のよいところに生れた方は、お附きの女中といふものがついてゐて、倒れた火箸も起さうとしません。それを私は、自分の身のまはりは總て自分でするやうにさせてをります。どんな身分のある方でも、自分の着て寢る蒲團の上げ下げは皆自分でさせますし、部屋の掃除はさせる、朝起きれば自分で髪を結はせる、その他、自分のことは皆自分でさせてをります。

❀自治の精神を養成させる

それで、私は、少しぐらゐ苦しくても構はないから、どんなことにても役に立つやうにして上げたいと思つてをります。即ち、身體を壯健にして、よく辛抱の出來るやうにしたいと思ひます。

❀夏休みにする貧乏旅行

寄宿生は、平生はそれぞれの學校に通學してをりますが、暑中休暇になつて、自分の家へ歸る人もございます。さういふ人はいたし方がないとして、寄宿舍に殘つてゐる人人は、私と一緒に山に登つたり、海邊へ泳ぎに行つたりして、身體を鍛へます。それも、極めて平民的なもので少しも身分のあるお姫樣らしいところはございません。山に登る時は草鞋を穿いてスタスタ歩かせます。平生よく歩かせるからでせうが、隨分達者に歩きます。海邊へ行く時は、行く先きで一家を借ります。そして、チヨッとした日用品の類は此方から持つてまゐつて、煮炊きするやうにしてをります。ただもう身體を鍛へるだけですが、暑中休暇になつて、自分の家へ歸る人もございます。さういふ人はいたし方がないとして、寄宿舍に殘つてゐる人人は、私と一緒に山に登つたり、海邊へ泳ぎに行つたりして、身體を鍛へます。それも、極めて平民的なもので少しも身分のあるお姫樣らしいところはございません。山に登る時は草鞋を穿いてスタスタ歩かせます。平生よく歩かせるからでせうが、隨分達者に歩きます。海邊へ行く時は、行く先きで一家を借ります。そして、チヨッとした日用品の類は此方から持つてまゐつて、煮炊きするやうにしてをります。ただもう身體を鍛へるだけですが、暑中休暇になつて、



蝙蝠や子を負うてう負の蚊のどな話の

けて、決して贅澤に行くのではございません。

空腹で歩いた三里の山道

四五年前の夏休みのことでした。塾生を連れて伊豆の天城山に登つたことがございます。その時、河津へ行かうと思ひまして、大仁で汽車を降りて、吉奈へ行つて一泊し、吉奈から河津へまゐりました。それから、湯ヶ島に一泊して、山を越えることにいたしました。

荷物といつては何もございませんでした。漸くお正午に食べるお握飯ぐらゐのもので、至つて身輕な扮裝でございました。

その時、麓に一軒の茶屋がありましたけれど、時間も早し、まだ山の内に一軒ぐらゐはあるだらうと思つて、ズンズンまゐりましたが、幾ら行つても茶屋がありません。そのうちにお腹はすいて來る、喉は渇いて來る、おまけに休むことができなくなつて困りました。サア大變なことになつたと思ひましたが、ここて弱い音を吐いては折角の旅行もつまらなくなると思つて、私は、できるだけ元氣を見せて、漸くトンネルのあるところまで行きついて、そこで御飯を食べることができました。その間は三四里もございましたでせうが、隨分ひどい目に逢ひました。

篠つく雨に洋傘一本の旅

そのうちには前田家のお嬢さんが二人と、三井養之助さんのお嬢さんもおいでになりました。そして、誰が持つてゐたのか、委しいことは記憶してをりませんが、梨子を一つ持つてゐたので、それを三人で噛りながら歩いたといふ滑稽もあります。

お茶屋に着いて御飯を食べる時には、あまりお腹がすいてゐたものですから、うまい不味いの考もなく、全く夢中で食べました。

運の悪い時は不幸が續くもので、容易に降るまいと思つた天候が遽かに一變して、ドシャ降りとなりました。雨具とては、洋傘一本きりでしたから、それをさして、雨中をバチャバチャと歩きました。

房州で興業師と間違へらる

それから、前田家のお嬢さんが十歳ぐらゐの時かと思ひます。房州の鴨川から私どもへ女中が來てゐたことがあります。その女中の話で、夏休みなどに行つてゐるによいところだと聞いて、前田家のお嬢さん二人と、私の姪二人と甥一人、他に女中二人でまゐりました。

その時、島を見に行くといつて北條へまゐりましたが、途中でお爺さんと道づれになりました。前田家のお嬢さんは筒袖を着て袴を穿いてをりましたから、何かの興業師とても思つたのでせう。

『お前さん方、どこへ行かつしやるだア。』

と聽きますから、北條へ行くと答へました。

すると、どこへ興業して來たか、北條はよいところだから金が澤山儲かるだらうとか、北條を打ちあけてどこへ行くつもりかとか、いろいろのことを話しかけましたから、私も興業師のやうな振をして、よい加減な返事をしてゐたことがございます。

華族の姫君と聞いて喫驚

女中の家は百姓でしたが、是非遊びに來てくれと申しますから、大勢連立つてまゐりました。ところが、村の人たちが、やはり興業師と思つたのでせうか、今晩何かするのなら見せて下さいと申込んで來ました。その家では大變に驚きまして、

『そんな卑しい人ぢやない。あれは華族様だ。』

といひました。

すると、今度はどうでせう、私どもが外を歩いてゐると、お大名のお姫様がお通りになるといつて、大勢集まつて來て大騒ぎしてをりました。

それから、二三年前に上總の白方へまゐりましたが、その時は皆が盛に泳ぎました。すると、土地の人は『女の人が泳ぐ。』といつて、珍らしがつて見にまゐりました。

新聞を呼賣して勉強する女學生

女子學院長　矢島楫子

聞いたやうな聲だと思ふ

生徒の氣風といふものは、月謝の持つて來方で大抵わかります。何時もキチンとしてゐる生徒は、日限にも遲れず、納めるだけのものはチャンと持つてまゐります。私の學校では、月謝を取扱つてゐる人に舍監を兼ねさせてをりますが、この人は、さういふ方面から生徒の氣風を調べてをります。學校にゐる時はいふまでもなく、學校の外を步く時にも、絕えず注意してをられますが、丁度昨年の秋でございました。場所は何處でございますか、しッかりと記憶してをりませんが、日本橋あたりだと聞いてをりますと、電車に乘らうとして馳けてまゐりますと、若い婦人が新聞の夕刊を賣つてをりました。

この頃は子供の夕刊賣もございますから、若い婦人が夕刊を賣つてゐたとて不思議もございませんが、その樣子といひ、聲といひ、何處かで聞いたことのある婦人のやうに思はれましたから、注意して御覽になつたさうです。

疑はれたる樽井じゆん子

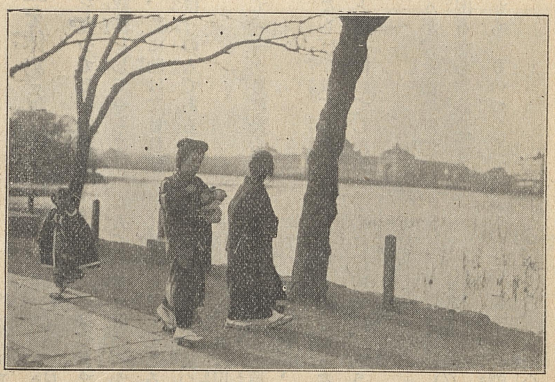
私の學校の生徒に樽井じゆん子といふ人がございました。その娘は際立つて成績が優れてゐるといふでもなく、どちらかといへば、可もなく不可もない、中ぐらゐのところでした。

その娘の樣子がおかしかつたさうです。私は、自分で授業を受持つてゐませんから、委しいことは存じませんが、朝も遲れてまゐりますし、顏色も惡くなつて、全體に疲れた色があらはれてゐたさうです。

それでゐて月謝はキチンと持つてまゐりますし、どうも變だと不思議に思つてゐる矢先きへ、その夕刊を賣つてゐたのが、樽井といふ生徒らしいといふことになりました。

私は夕刊賣をしてゐます

そこで、樽井を呼んで訊いて見ますと、夕刊を賣つてゐるのは自分だといふのです。



蓮の芽や池畔の堂に風薰る

『夕刊を賣るといふことは惡いことではない。それを咎めるのではありませんが、身體が疲れてたまらないでせう。學校の仕事——下調べをするだけでも、十分な仕事があるのに、その上、夕刊まで賣つてゐてはたまらないでせう。』

と申しました。實際日の短い時は、三時半ぐらゐには日が暮れてしまひますから、學校から歸ると暗くなります。それから、急いで夕飯を食べて出かけるのです。女のことですから、大きな聲を出して呼ばないまでも、立つて鈴を鳴らしてゐなければなり

ませんから、隨分骨が折れます。

月謝を免じ身體を休める

私は、學費を得るために夕刊を賣つてゐるのなら何とかしてやりたい。世間には慈善をしてやらなければならぬ人は澤山ありますが、眞に助けなければならぬ人は、この娘のやうな心掛けの人であらうと思ひまして、

『さうして毎日夕刊を賣つてゐて、一ケ月に幾らぐらゐ儲かりますか。』

と尋ねて見ました。月謝ぐらゐならば學校で方法をつけてあげることができるからと思つたのでしたが毎月六七圓儲かるといひます。

『それではいたし方がありませんが、身體に無理をして病氣にでも罹るやうだと困るから、注意なさい。月謝は免除してあげますから、そのつもりで勉强なさい。』

と申しておきました。

健氣な心掛に動かさる

委しく話を聞いて見ますと、夕刊を賣ることを止めさせることはできませんでした。家族は母と姉と三人で、姉は遞信省か何處かに勤め、母は手內職をして生計を立ててゐるのださうです。

それで、夕刊を賣つて儲けた金の一部分は學費に、一部分は生活費に用ゐてゐたことがわかりました。

私は、女學生の風紀が日に日に衰へて世間の問題になつてゐる中に、かかる健氣な心掛けの娘もあるかと思ふと、何となく嬉しく感じまして、公共のために盡すには、かういふ娘を助けた方がよからうと思ひました。

發奮の効果忽ち現はる

それで、あまり身體の疲れないやうにして勉强させて見ますと、奮發心が生じたのでせうか、忽ち勉强の効果があらはれて來ました。そして、顏色も日增しによくなつて、以前の疲れたやうな風は殆んどなくなりました。

これでは、世話をして勉强させたら何うにかものになるといふ見當がつきました。幾ら學問ができても學校を卒業してから直ぐ結婚しなければならぬとか、または家庭の都合で、長い間世間に出て働いてゐることができないやうでも困ります。私は、世話をして自分の學校に學ばせるからには、なるべく社會のために盡すことのできるやうな境遇の人でなければならぬと思ひました。

貧に處して亂れざる人

そこで、私の學校の教師をやつて榑井の家庭の事情を取調べさせました。

夕刊を賣つて學校へ通ふくらゐですから、豐かな筈はございません。家は、下町の狹い路次を入つたところの裏長屋で、そこに母子三人が住まつてゐました。

そして、母親は、どことなくお上品に見える、嚴かなところのある婦人で、不幸續きのために貧しい境遇に陷られた方のやうに見受けられました。

それに、家の內を見ますと、汚いながらも隅から隅まで掃除が行屆いて、裏長屋とは思はれぬくらゐ綺麗になつてをりましたさうです。



綠蔭に故鄕の人と語りけり

母親が送迎して和氣靄靄

家庭の話を聞いて見ますと、前に申しましたやうな母親ですから、娘たちの躾けもよく行届いてをりました。貧しい暮しをしてゐる家庭にあり勝な取亂した風は少しもないばかりか、極めて嚴重に育してをられました。

その娘が夕刊賣に出るのを、母親が送迎して、互に慰めたり、慰められたりして、よその見る眼も羨ましいくらゐ平和な家庭を作つてゐるのでした。ただ娘は働くまでも勉強したいといひ、母親は、その健氣な志に感心して、自分の力で及ぶだけの助けを與へてゐるのでした。

學校の成績もよくなりますし、家庭の事情も惡くはありませんから、私は、夕刊賣などを止めて、勉學を專らにするやうにしてやりたいと思ひました。世間には遊興三昧に金錢を費す人も澁くないやうに聞いてをりますが、さういふ方から助けて貰ふことはできないものかと思ひました。

今は寄宿舍にありて勉學

實をいふと、私の學校には少しも餘分の金はございません。世間では、どう思つてゐるか知りませんが、學校は毎年金が足りなくて困つてをります。それで、その娘に學資を補助してやりたくても、どうすることもできませんから、有志を見つけることにいたしました。といつて、義捐金を募集するやうに、新聞に廣告することもできませんから、私の學校の教員や、またはその友だちから、學校へ寄贈して頂くことにいたしました。

そして、今年から夕刊賣は全く止めて、學校の寄宿舍に寢泊りして、寄宿生と同じやうに食事してをります。本人は勿論のこと、母親も非常に喜んで、着物だけは親の方で拵へてくれることになつてをります。これまで家にゐて食べてゐたのだから、それくらゐのことはできるでせう。

米國から來る寄附金あり

しかし、今年はまだ三年か四年になつたばかりで、一年や二年で學校を卒業するのではございませんから、それまでには、學校の方で方法を考へてやりたいと思つてをります。

學校には餘分の金はございませんが、米國から來てをられる教師の友人から學資の乏しい人に與へて下さいといつて寄贈して來る金がございます。僅かの金ですが、十人前くらゐあります。それで、その生徒が卒業すれば新に生徒を定めて、チヨッと公費のやうにして次ぎ次ぎに勉強させてをります。



その金とても十分にある譯ではございません。漸く食つて行くだけで、外に書籍代とか文房具代とかいふものがいります。

それは、朝など少し早く起きて西洋人の部屋を掃除するとか、または勉強する間に手仕事をするとかして、相當の報酬を貰つてをります。

それですから、金は少なくても、本人の心懸け一つで樂に勉強する事ができます。私は、樽井をその方へ廻したいと思つてをりますが、今すぐといふ譯にはまゐりません。

「年なり二年なりゐるうちには卒業する人もできますから、さうすれば何とか都合がつくでせうと思ひます。

日本の婦人に旅行を勸めたい

大阪府立高等醫學校
教諭　醫學博士　木下東作

❀獨逸の婦人は旅行が好き

日本の婦人は、あまり旅行をなさいませんが、獨逸あたりでは、婦人を連れて旅行するものが多い、また婦人だけが二人なり三人なり連立つて旅行することがよくあります。なぜ日本の婦人が旅行をしないかといふと、日本の家庭の有樣が、婦人は家の内にゐて用事をするやうになつてゐるからです。それに、旅行するのに美しい着物を着て行く、着物や化粧に用ゐる荷物が澤山いるといふ風に、手輕にゆかないのも一つの原因でせう。

ところが、獨逸あたりの婦人の旅行する姿は、極く簡單なもので、男だか女だか分らないやうな風をしてをります。そして、隨分遠方へ旅行もし、一萬尺以上の高い山へ登る人が澤山あります。

❀婦人携帶の旅行は便利

殊に、獨逸では、高い山に登る婦人の組合があつて、一番身體の丈夫なものが案内者となつて、何處へでも出掛けます。それに、汽車や汽船に割引があるから、非常に安く乘れるし、宿屋も安くて取扱ひがよいといふ風に、十分に便宜をはかつてをります。

ところが、日本などはこれと反對で、婦人を連れて旅行すると着物がいる、荷物が殖える。奥樣携帶で旅行すると何うしても金が餘計にいるといふやうな譯ですが、獨逸あたりでは前申すやうな次第ですから、奥樣携帶で皆旅行に出掛けます。そして、婦人と一緒に旅行をすると、何處へ行つても非常に優遇されます。宿屋に泊つても一番よい部屋へ案内される、それで値段は割合に高くない、却つて男一人の方が割合に高くつくといふ有樣です。

❀老人の寺詣のお供をせよ

日本では、いかに西洋の眞似をしたくても、一家擧つて遠足をするといふやうなことは到底できませんが、まづ改良の第一歩として、お爺さんお婆さんが寺詣をする時に、奥樣や娘がお供をするといふぐらゐのところから始めて、おひおひ旅行の癖をつけたらよからうと思ひます。



初夏の旅袖も心も輕げなり

旅行の利益は、今更申すまでもないことで、家の内にゐれば濁つた空氣を吸はなければならぬが、郊外に出ると、新らしい空氣を吸ふことができる。氣分が清清とする、運動をするから御飯が美味しく食べられる、從つて身體も丈夫になります。

❀洋行すれば保險の必要なし

私が西洋へまゐります時に西洋に行くなら保險金を增し

てくれといつて來ましたが、私は、『西洋に行けば却つて强壯になるから、保險金を增す必要はない、實は保險を止めようかと思つてゐるくらゐです。』といつて斷りました。實際西洋に行つて病氣になるといふ理窟はない、私とても生命が惜しいから粗末にはしない、身體を大切にするから、保險料を增す必要はないと思ひます。

私は京都のものですが、小學校時代から旅行が好きで、初めは近くの神社佛閣を廻つて歩き、だんだん一泊二泊と長い旅行をするやうにしました。私の一番長い旅行は西洋を廻つて歸つたことですが、この次には、世界を廻つて來るか、天に上つて來るより外はなからうと思ひます。

❀洋行中に罹り易い病氣

私は、前にも申します通り、獨逸に行つてをりました間は、日本にゐた時よりも氣分がよかつたし、身體も健康でしたが、これは皆、小さい時から旅行をしつけてゐたためと思ひます。

ところが、日本を離れて海外へ出ると、誰しも一種の病氣に罹ります。それは、懷郷病といふ病氣です。尤も、初め二月なり三月なりの間は、飽くまで目的を貫かねばならぬといふ意氣込みがありますから、一生懸命に勉强もしますが、半年一年と經つて來ると、獨居の淋しさは、雨につけ風につけ旅の哀れを感じて、東の空を眺めては、我が家を戀ひ、家人を想ふといふやうになります。

これは誰しも洋行すると罹り易い病氣ですが、この病氣を豫防するには、旅行の目的を立てて、子供ならば、そこへ行つて歷史を調べるとか、エライ人の話を聞くとか、景色を寫生して來るとか、老人ならば、神社佛閣に參詣するとかすれば、樂しく旅行をすることができます。

❀三婦人を連れて登山す

私は曾て婦人を連れて旅行をしたことがあります。それは、二十一歳と十八歳と十四歳との三人でしたが、荷物は皆私が持つてやりました。

丁度去年の夏のこと、大阪を出發して金剛山に登り、山を向ふへ降りて大和に出で、奈良から汽車で朝の一時頃に大阪に歸着しましたが、皆無事でありました。尤も、この時は、豫じめ腹案を作つて、初めは靜かに歩いて、だんだん山に登り、適當な時間に食事と休憩をするやうにして旅行したのですが、この家族によつて、日本の婦人でも旅行のできないといふわけはないと覺りました。

金剛山はチヨツと低いやうに見えますが、大阪邊では一番登りにくい山の一つです。それを十四歳の少女が登つたのをみても、日本婦人とて決して旅行ができないといふことはありません。

❀子孫に對して申譯がない

私は、繁華な都市に住んで、わづか二坪か三坪の庭先さしか歩くことのできぬ人人に向つて、切に散歩と旅行とをお勸めしたいと思ひます。旅行と申しても、澤山の荷物を持つて、汽車や汽船で遠方へ出掛けるばかりでなく、わづかの時間を利用して、一日でも半日でも旅行のために費されるならば、その利益は決して少なくあるまいと存じます。

市民の生活は子孫を虛弱にするといひますが、これは實に大問題で、婦人がその健康を害して子孫まで虛弱にするやうでは、子孫に對しても實に申譯ない次第ですから、これからの婦人方は、盛んに旅行をなさるやうにお勸めしたいと思ひます。

婦人と園藝

旅行と共に婦人にお勸めしたいのは園藝です。近頃は家庭の園藝が大分流行しますが、多くは旦那樣のお道樂で、奥樣は一向お手をお出しになりません。運動になつて、美しい花を見られて、面白い園藝をなさらぬ婦人は、氣が知れぬと思ひます。

我が家の廢物利用の實驗

陸軍中將比志島義輔氏夫人　比志島雪子

❀煙草の銀紙を溜めて賣る

私どもでは、西洋煙草を包んである銀紙は必ずしまつておいて、相當の値段で賣拂ふことにしてをります。今日では比志島が退職してをりますから、西洋煙草はあまり使ひませんが、それでも、手箱に一杯たまりました。比志島が盛んに煙草を喫みました時は、賣つても直ぐに溜まるくらゐでした。

私はこの銀紙を集めて、お團子のやうに丸め、前の分と一緒に固めて大きな塊をこしらへます。そして、澤山たまつた時に賣拂ひます。一貫目一圓以上になるものでございます。

❀包み紙は鬚拭きに用ゐる

西洋煙草の薄い包み紙は、西洋紙ではありますが、油を取扱ふのに都合のよい紙ですから、二寸四方ぐらゐに揃へて、幾枚も幾枚も綴ぢて、釘に釣しておきます。そして、油を取扱ふ時に使ひますが、誠に結構です。御承知の通り、比志島は鬚を長く生やしてをりますから、その紙で毎日チックを拭くのでございます。鬚を拭く紙をわざわざ買ひ求めても、これほど工合のよいものはございません。

❀婦人世界の封紙でハタキ

家が廣いと、どうしても掃除用のハタキが澤山いります。そのうち神佛に用ゐるものは、主人自ら羽根で拂へることにしてをりますが、普通のところに用ゐますのは、新らしい反物の耳をしまつておいて、それを程よく切つて用ゐますと、チョッと上等のものができます。どうしても紙製のものは弱うございますから、紙で拂へるなら、よほど紙質を選ばなければなりません。近頃『婦人世界』の封紙は大層丈夫になりましたから、あれを細く切つてハタキを拂へますと、モチがよくて結構です。

❀卷煙草の殻で焚きつけ

水引、包紙、封紙などは、一一丁寧に小箱に入れて取つておいて、そのまま使へるものは使ひますし、二度使へないものは、ハタキにしたり、紙撚にしたりしておきます。比志島の伯母に當る人は、古い繪草紙を細かく切つて糊をつけて、煤斗を拂へたさうてございます。

卷煙草の空箱とか、マッチの空箱とか、マッチの燃えさし、卷煙草の吸ひさしなどは、皆とつておいて、お竈を燃す時とか、風呂を焚きつける時に使ひますと、結構な焚きつけになります。

❀反古紙を子供に拾はせる

反古紙は皆それぞれ利用法を考へてをりますが、心なき女中などに掃き捨てられて地に落ちた紙屑は、汚なくなつて、使ひみちがなくなつてしまひます。それを私がいろいろ考へて、子供たちに交る交る拾はせることにいたしました。今日は兄の番、次は弟の番といふやうに、順番を拂へて、一一帳面に記して『寶の山』と名づけました。

かういふ風にしますと、庭は綺麗になりますし、紙屑を賣拂つた金で子供の好きなものを買つてやれますから、一擧兩得でございます。

❀空罎を賣つて雇人親睦會

麥酒、正宗、葡萄酒、ブラン、サイダア、シトロンの罎、漬物の罎などは、下女下男の所得として、茶や蕎麥などを買はせるやうにしてをります。そして、時時雇人たちの親睦會を開いてやります。

陶器などの壊れたものは、修繕のできるものは修繕して使ひますが、どうしても直らぬものは、叮嚀にしまつておいて、相當の値で賣拂ひます。しかし、修繕もできず、賣ることもできぬやうな破片は、怪我でもすると危險ですから、穴を掘つて埋めてしまふことにしてをります。

古布で下駄の鼻緒を作る

私は、襦袢の襟には大抵天鵞絨を用ゐてをりますが、それが古くなつて着られなくなりますと、娘の下駄の鼻緒にしてやります。寢衣の襟は絹天をつけてをりますが、これも、下駄の鼻緒に用ゐて勝手穿きにしますと、可なり丈夫でございますし、下駄屋から買ふよりはズツと徳用でございます。黒繻子の帶も、古くなつたものは下駄の鼻緒にいたします。

私は、毛絲を編んだり機を織つたりすることが大好きですから、座蒲團などの古くなつて使へないものは、よく洗つて絲をほどき、それを叮嚀に繋ぎあはせて機を織り、模様の變つた座蒲團なり、敷物なり、被ひものなりに拵へます。

着物の糸を解いて織る

座蒲團ばかりでなく、着物でも何でも、總て使へなくなつたものは、すつかり絲を解いて、更に織りかへることにしてをります。

夫人は、かういひながら、いろいろの織物を出してお見せ下さいました。そのうち、白に黄味を帶びた丈夫さうな厚い織物二丈餘を指さしながら、

これは御覽の通りのものですが、堅は古い丈夫な絹絲で、横は紙撚です。この紙撚は、比志島が人に頼まれて書などを書くに用ゐた書き損ほしの紙を、私が同じ大きさに切つて紙撚にしたので、この黒ツぽいところは字の書いてあるところです。これは、羽織とかコオトとかに用ゐたらよからうと思ひます。

糸のほつれを防ぐ法

かういふことは、年をとるとできませんから、記念のために今から保存しておいて、誰かにやらうかと思つてをります。メリンスの使ひ古しを解いて、馬の着物に拵へたこともございます。

私は蠶を飼ふことが好きでしたから、私の家で使ふものは、大抵手製でいたしました。比志島の袴などゝも自宅で作りました。反物の飾についてゐる絹絲は、風呂敷の縁を縫ふのに使ひますし、帶締なども、古くなると解いて機に織ります。

解き糸はとかく纏れ易いものですから、糸口には一一孔錢を括りつけて、紛れぬやうにしてをります。かういふ風に、布でも、着物でも、古いものは皆ほどいて糸につなぎ、色や柄の調和を考へて機に織りますと、丈夫で美しいものができます。

安物買ひの錢失ひは眞理

廢物利用から考へてみますと、總て品物は、初めは高くても、丈夫なものを求めることが何よりです。殊に、反物のやうに利用のきくものでも、安物ですと、その時きりで、あとの利用がきゝませんから、私は貧乏ながらも安物買ひをせず、永くもつ上等のものを買ふやうにしてをります。さうしますと、何度でも利用ができて、どのくらゐ徳用だか知れません。諺に、『安物買ひの錢失ひ』といふことがありますが、まつたくその通りだと思ひます。

比志島家は、一時家族が多くて複雑を極めてをりましたので、私も人知れず苦勞をいたしましたが、今なほ貧乏でお恥かしい次第でございます。それでも前のやうな廢物利用を實驗して、今日まで實行してをります。只今では娘が私を見習つて、廢物利用をしてをるのでございます。



殿下の雅號を呼び捨

閑院宮妃殿下は曾て姫君時代に跡見花蹊女史に就いて御繪を學ばせられ、雅號も花隈女史と仰せられて、頗る御堪能におはしますとのことでございます。昨年のこと、御染筆の御繪を表裝させるために、執事を召して、お出入の經師屋へお渡しになりました。數日の後、經師屋は幅を携へて宮邸に參上し、

『花隈の幅ができましたから持參しました。』

と申しました。受附の老人も、花隈とはまさかに妃殿下のこととは存じませんから、經師屋の言葉をそのままに、

『花隈の懸物ができましたと申して、只今經師屋がまゐりました。』

と奥へ通じたので、御邸に仕ふるものが殿下の雅號を存じてあげないとは怪しからぬと、大層お叱を受けたとのことでございます。

惡戯好きの兩伯爵

水道橋の御前と名のある松平賴壽伯と、河田町の殿樣と呼ばるる小笠原長幹伯とのお二人が、ある料理店でさんざんにお酒を召上つた末、その場にグッスリ眠つておしまひになりました。やがて河田町の殿樣はふと眼をお覺ましになつて、咽喉がお渇きになつたものとみえて、

『貞、貞。』

と、奥樣のお名をお呼びになりましたので、水道橋の御前も急に眼をお覺ましになつて、時計を御覽になると早や夜中の十二時といふ深夜。お二人は醉醒めの水に舌鼓を打ちながら、ヒソヒソ何か御相談をあそばして、やがて松平伯は小笠原邸へ、小笠原伯は松平邸へ、交る交る電話をお掛けになり、直き直きに奥樣を電話口まで呼び出して、



『御主人が大層お醉ひになつて少しも動けませんから、今晩は私が大切にお預かり申して看護をいたしますゆゑ、まづまづ御安心あらせられませう。』

と申されました。奥樣同士は互に御存じの仲でもあるので、氣がかりでもあり、お氣の毒でもあるといふところから、電話の交換が始まりました。だんだん話をしておいでになると、どうも辻褄が合はぬので、調べてみると兩殿樣のお惡戯とわかつて、オヤオヤオヤ。

舁子に斷られた博士夫人

醫學博士岡田和一郎氏夫人德子樣は、鍋島侯爵夫人、村井宇野子樣、三好子爵夫人などと共に、福福しい肥滿した方として貴婦人界に有名な方ですが、ある時、令孃和子樣を召連れて日光へおいでになり、序に中禪寺湖まで登らうと思ひ立たれて、山駕籠へお召しになりました。それでも初めのほどは、牛の歩みの遲いながらもノソノソと運んでゆきましたが、どうしたものか、先棒の舁子が頻に肩を取替へ、額に滴なす汗を拭ひもあへず、果は立ち留まつたまま身動きもせずなつてしまひました。後棒の舁子は驚いて駕籠を下して、

『どうした』と尋ねると、涙聲で、

『私にはとてもこの奥樣は舁げねえから、手前から斷つてくんねえ。』

と意外の言葉に、奥樣は烈火の如く御立腹になつて、舁子を渡世にするものが、途中で駕籠が舁げぬとは意氣地のないことと、お叱りになると、後棒は頭をかきながら、

『實はこの先棒は臨時雇ひの車夫なのでございます。それが奥樣のやうな重い方をお乘せ申したものですから。』

といはれて、奥樣も仕方なく駕籠を降りて、汗を流してお登りになつたさうです。

藝者のやうな服裝をする奥樣

棚橋絢子

服裝は人品に關係あり

世間には、着物のことにばかり心を奪はれてゐる人があります。着物のこととなると夢中になつて、やれ今年の流行はどうの、昨年拵へた羽織はもう流行遲れになつてしまつて今年は着られないのと、はたから見ると、まるで氣狂のやうになつてゐる人が少なくないやうに見えます。

さうかと思ふと、一方には、着物などはどうでもよいものだ、學藝さへできれば澤山であるといふ人もあるやうに聞いてをります。

かういふ人は何れも極端に走り過ぎてゐるのではないでせうか。着物に大騒ぎして、流行ばかり追つてゐるやうでは、第一不經濟でもありますし、それと同時に、その人の人格までも疑はれます。といつて、あまり構はないのも困ります。まあはたの人に變に思はれない。やうにするのが肝要でせう。

首筋に垢つきの學者さん

御維新ごろに、大層學問のできる見識のある婦人がございました。この人は、服裝などは何うでも構はぬ、學問で世に立てば澤山だといつて、少しも自分の身なりに構はないといふ風の人でありました。それてすから、首筋には垢をつけたまま、着物の洗濯も容易にせず、平氣で着てをられたといふことです。知らぬ人が見たら氣狂じみてゐたでせう。

この人は立派な學者で、名の聞えたお方でしたが、御維新ごろのやうな物騒な世の中で、何でも頑固を喜ぶ傾きがあつたから、それでよかつたやうなもの、今の時世でしたら、チヨッと變に見えはしなからうかと思ひます。

三十五で娘のやうな衣裳

私の知つてゐる方にも、やはり前のやうな方がございました。その人は、學問はよくできましたが、容貌はあまりよくありませんでしたから、三十四五歳ごろまで獨身で暮してをられました。そして、平生大きな縞の木綿八丈を着てをられました。

すると、ある學者が、さういふ人と結婚したら、さぞよい子供ができるであらうといつて、年老つてをられるにも拘はらず、その人と結婚されました。

三十四五にもなつた人が娘の着るやうな派手なものを着てゐたのは隨分妙ではありませんか。本人は平氣でしたでせうが、他の人の眼には何うしても當前とは思はれなかつたでせう。

悲慘に終つたその後半生

さういふ風でしたから、子供の育て方もあまりよくなかつたのでせうか、よい子供が欲しいといはれた良人の思はくも無駄になつて、その子はあまりできがよくありませんでした。それでも良人の存命中はとにかく立派にやつてをられましたが、亡くなつてからは、非常に困つてをられました。

子弟に學問を教へて謝禮を受取ると、その子が來て、皆持出して使つてしまふので、何時も貧乏ばかりしてをられましたが、死ぬ間際にはひどく困つてをられたさうです。これは服裝に關係はないやうですが、すべて物事の不揃は萬事それに連れますから、注意しなければなりません。

それてすから、學問さへできれば他のことは何うて

もよいといふわけにはまゐりません。服裝にも相當に注意しなければならぬと思ひます。

まづ着る人を土臺にせよ

しかし、單に服裝といつても範圍が廣うございますから、一樣には申されません。着物を着る人の身分とか、人柄とか、または年齡とかいふことをも考へて、それに釣合ふやうにしなければなりません。同じ着物でも、色の白い人に似つくものもあれば、似つかぬものもあります。たとへば、幾ら横縞の柄が流行するといつても、背の低い人が着れば愈よ低く見えますし、それかといつて、背の高い人が堅縞を着れば、ますます高く見えます。それと同じやうに、色の黒い人が白いものを着ると似合ひませんから、どうしても人柄といふものを土臺にしなければなりません。

年齡を忘れてはならぬ

幾ら人柄を土臺にしても、また年齡といふものがありますから、年齡に調和するやうに考へなければなりません。年老つた人がお嫁さんの着るやうな派手なものを着てゐると、あまりケバケバし過ぎて、氣でも違つてゐはしないかと疑はれます。それと反對に、若い人が年老つた人の着るやうなジミなものを着ると、年よりも老けて見えて、親ゆづりでも着てゐるのではなからうかと思はれないとも限りません。

それですから、私は、若い人は若若しく見えるやうなものを着、年老つた人は年老つた人のやうに見えるものを着たらよからうと思ひます。

身分は人の感情を左右す

次ぎに身分といふものも考へなければならぬと思ひます。少しぐらゐの派手なものでも、その人の身分に依つては何とも思はぬことがございます。皇族の方方は、隨分派手なものを召していらつしやいますが、別に派手過ぎると思ふやうなことはございません。また奥女中といふものは、年の割からいふと、隨分派手なものを着てをられますが、派手過ぎるとも思はれません。

しかし、下下のものがあのやうな服裝をしたら何うてせう。見る人は、さぞ驚くてせうと思ひます。それは身分が違ふから、人人の感じやうも自然に異つて來るのだと思ひます。高貴のお方は、平生から派手なものを召されるものでありますから、何とも思はないのてせうと思ひます。

奥樣の化粧は藝者の如し

ところが、この頃の服裝は、大分亂れてゐるやうに思はれます。どうかすると、奥樣といはれる方で、藝者のやうな化粧をしてをられるのを見掛けます。御本人は、美しいから派手につくつたら餘計美しく見えるであらうと思つてをられるのかも知れませんが、それは、人の家内になつてゐる人としては、考へなければならぬことだと思ひます。

良人の人格さへも疑はる

番にそればかりてはございません。あまり派手にしてゐると、あの人は藝者上りてはないだらうかと、痛くもない腹を探られるやうになります。昔は、藝者でも隨分立派な、藝のできる人がございましたが、今では、そんな人は一向に聞きませんから、極めて少ないてあらうと思ひます。

それですから、藝者といへば、普通の人より一段下つたもののやうに見なされてゐるではありませんか。それだのに、さういふ人の眞似をして喜んでゐるのは、如何にも殘念ではありませんか。

それに、家内にそんな服装をさせて喜んでゐる良人はどんな人格の人であるかと、チョッと小首を傾けるやうになります。

素人は素人らしくせよ

服装は、その人の身分のわかるやうにするのが一番よいと思ひます。妙な眞似をして、自分の身がわからなくなるのはよくありません。

官吏には官吏らしい服装がありますし、商人には商人らしいところがございます。また金持には金持らしい服装があり、半玉には半玉らしいところがございますから、それがチョッと見ても現はれてゐればようございます。

官吏の娘さんが半玉のやうな派手な服装をしたり、半玉が金持の娘のやうにつくつてゐては區別がつきません。それよりも半玉は半玉で、派手な模様のものを着、金持の娘は金持の娘のやうな品のあるものを着てゐればこそ似つくのでございます。

浴衣は湯上りに着るもの

これから暑くなりますと、誰でも浴衣を着ます。浴衣は、柄が如何にも涼しさうにできてをりますし、また着て見ますと實際涼しうございます。

ところが、この頃は、浴衣を着たままでお客に逢つたり、人を訪問したりする人が少くないやうでございます。學校などへも浴衣を着て行くものがあります。これは少し考へたらよからうと思ひます。

浴衣は、本來からいへば湯上りに着るもので、表面に着て出る筈のものではありません。男の方が冬になると着ます褞袍といふものがございませう。あれと同じ類のものであります。いくら寒いからといつて、あれを着たままお客に逢つたらどうでせう。それですから、私は、生徒には、浴衣など着て來ないやうにと注意してをります。あまり派手にするのも困りますが、さうかといつて、禮儀にはづれた服装をしてよそへ行くのもよくありません。

流産の原因は何が一番多いか

産婆　西尾京子

醫者と産婆の忠告が護符

岩田帶の御祝儀も濟んで、愛らしい産聲を聞く日を指を折り數へて樂しむうちにも、安安と丈夫な兒を産んで、スラスラと肥立ちたい、どうか間違のないやうにといふ心配は、妊婦方のお胸に一日も絶えないものですが、鹽釜様や水天宮様を賴にした時代と違つて、科學の進歩した今日では、專門のお醫者や産婆の忠告をさへお守にしていらつしやれば、滅多に間違はないものでございます。さすれば、從つて、女一生の大厄といふやうなイヤな諺も跡を絶つやうになりませう。

お産前後と、お産の時の心得は、書物や雜誌に隨分いひ盡されてをりますが、やはり昔からの習慣が邪魔をして、大切なことでも實行され難く、そのために、どうかすると一大事を惹起す場合もございますから、私の心づいたことを少し申上げてみませう。

便通の痞えるのには困る

お産の時に一番困るのは、産婦の大小便が痞えてゐることでございます。一體大小便の入つてゐる袋は、丁度子宮の前と後とにありまして、いはば壁一重の隣同士ですから、大小便が痞えてゐますと、まん中に挾まれた子宮は收縮作用を妨げられて、赤兒の通

路が狹くなり、從つて、お産も手間取れますし、後産も出にくくなるのでございます。また子宮の收縮ができ難いと、胎盤の離れかかつたところから出血して困ることがあります。そして、後産が出てしまつても、胎盤の離れたところにある血管の口がよく締まりませんから、よい血液が流れ出します。すると、產婦は貧血を起して、甚だしい場合には一命に拘はるやうなことになります。そんなことがないまでも、收縮が鈍いと、子宮がもとに復さないために、肥立が惡くなります。

打たれても灌腸を勸める

それゆゑ、產氣づいたら必ず灌腸をしなければなりません。灌腸して大便や瓦斯をすつかり出してしまひ、溜つてゐる小便も、自然に出なければ器械でとるやうにして、子宮の收縮作用を自由にすれば、お產も樂で、たとひ難產でも處置がいたしよいのです。私は、產婆になり初めに、講師からくれぐれも灌腸の必要を伺ひましたが、永い間の經驗で愈よ切に灌腸の必要を感じてをりますので、イヤだといはれる產婦方にも、無理にお勸めいたしてをりますため、西尾は灌腸氣狂だといはれるくらゐでございます。しかし、產婦のうちには、生れる時に大便が出ると產婆が困るので灌腸を勸めるのだぐらゐに思つて、私は何時も粗忽をしたことはないから心配せずともよいなどと仰しやつて、お斷りになる方があるのには困ります。

私は、頭を一つや二つ打たれても構ひませんから、灌腸をお勸めしたいと思つてをります。

綺麗な血が出るのは危險

產後に惡露といつて暗赤色の血液の降りるのは當然ですが、鮮紅色の血液が澤山出るのは、油斷ができません。產後の出血も心配ですが、產前の出血は猶更危險ですから、綺麗な血がつづいて下りるやうなことがありましたならば、すぐに產婆に知らせなければなりません。月の重ならぬうちの出血は、流產の前兆のことがありますし、殊に、お產の時に先きへ血が出るのは極く危險ですから、すぐに專門醫を呼んで頂きたいのです。

尤も、澤山に出る時は、醫士の來るまでの手當として、私どもが一時止めてあげますから、早く產婆に知らせることが肝要です。

出血のために死に瀕す

つひ先日のことでした。すぐ近所の魚屋から、家内が產氣づいてゐるが、頼んであつた產婆に差支ができたからといつて、迎ひにまゐりました。丁度私がお產に出掛けてゐましたので、弟子が早速まゐりますと、主任產婆が來合せてをりましたが、弟子の姿を見るが早いか、他の產家へ行くから宜しく頼むといつて、あたふたと歸つてしまひました。



風かをる青葉の山のふもと道

それと入れ違ひに、豫ねて頼んであつた吉岡爾生先生がおいでになり、樣子を見ていろいろお尋ねになりますと、昨日から出血してゐると申して、その時はもう非常の出血で、產婦は半死半生の體でございました。吉岡先生は急いでお手を消毒の上、御持參の殺菌綿で膣栓を塞をあてがしして出血を防ぎ、その他、いろいろお手當をなすつて、釣臺で吉岡先生の至誠病院へ運ばれました。すると、運よく御玄關先で分娩しましたので、

すつかりお手當をなすつて、出血を止め、母子とも危い命を助かりました。

前置胎盤は最も危險なり

この産婦が病院へ運ばれる前に、主任産婆が他の産を濟ませて此處へまゐりましたが、吉岡先生は、

『この産婦は兩便が澤山痞えてゐるのに、なぜ灌腸をしなかつた。』

と、小言を仰しやつたさうでございます。

このお産は、前置胎盤と申して、極く危いのでしたが、專門醫のおかげで助かつたのでございます。こんなお産は、私が三十年も御用をつとめます間に、たつた二回しかありませんでした。しかし、滅多にないからといつて、何時誰に當るか解りませんから、僅かでも出血があつたらば、決して捨てておいてはいけません。

出産の時には氷が必要

お産の時に、もしや出血があつたらば、下腹部の子宮のところを氷袋で冷して、血管を收縮させるのが應急の手當ですから、産婆を呼ぶと同時に、必ず氷を買つておいていただきたいのです。氷が無駄になればなほ結構ですから、お祝ひの一つぐらゐに思召して、是非御用意を願ひたいものです。

氷では度度滑稽談がございます。ある寒い晩に或る紳士のお宅へお産にまゐりました時、例の通り氷を五斤ほどお買ひ下さいと頼みました。お産は安安と濟み、氷の必要もなくて結構でしたが、御用を終へて厠へまゐり、手を洗はうとして外を見ますと、非常な大雪で、塀や庭や木の枝にまで厚く積つてをりました。こんな大雪と知つたら氷はいらなかつたのですが、少しも知らなかつたために、大雪の中を氷買ひに行つてもらつた書生さんに、お氣の毒でたまりませんでした。

氷を湯煎にした失敗談

これもよほど以前のことですが、音羽のある貧家から、急に迎ひを受けて行つてみますと、それは古道具屋で、産婦は前日から水が下つてゐたが、頼んでおいた産婆が來られないといふことでした。私が診察してみますと、双胎で子宮破裂を起し、苦しがつて唸つてをりました。吃驚して醫者を迎ひにやり、亭主に氷を買ひにやりました。いつも分娩具から産着まで持參するやうな貧家へまゐつた時は、氷も弟子に買ひにやるのですが、慌てたあまり亭主を頼みました。私は、腹部を冷さうとして、氷を臺所へ取りに行つてみますと、産湯を入れた桶の臺の上に風呂敷ばかりあつて、氷はすつかり溶けてをりました。こんなことに馴れぬ貧家の亭主は、氷を保存する術も知らず、燒芋でも買つて來たやうに、薄い風呂敷に包んだまま湯煎にかけたのだからたまりません。



池近き祠のあたり若葉かな

私はつくづく氣の毒になりましたが、それよりも、急場の間に合はないで困りました。

生兒が女と聞いて出血

平常の身體でも精神の感動で變化を起すものですが、殊に、神經過敏の姙産婦には著しい影響があります。

今度こそ男の兒が欲しいと思ひ込んでゐたのに女の兒が生れたと聞いて落膽したり、望み通りに男の子

が生れて、ヤレ嬉しやと思つたりすると、その感動て出血を起す産婦がよくあります。ですから、私は、産婦の落ちつかぬうちは、なるべく生兒の男女を申さないやうにしてをります。

或る産婦は、手傳に來てをられた實家のお母さんが、もう七夜がすんだからといつて歸られたので、手がなくなつて心細いと鬱ぎ込んだために、今までよく出てゐたお乳がばッたり出なくなりました。

❀神佛を念じて漸く安産す

また或る姙婦は、姙娠八ヶ月の時に强盜が入つて、蚊帳の釣手を切落して脅迫されました。その驚きで、今まで順當な位置にあつた胎兒が逆位置になつてしまひました。ある婦人は、お産の苦痛に堪へられないで暴れ出しますので、平生信ずる神佛を念じて御覽なさい、私も信心してあげますからと申しますと、産婦も心づいて、何か念じはじめる途端に、安安と生れました。

こんな僥倖は珍らしいのですが、まづこのくらゐ關係のあるものですから、平生慣れた運動以上の無理なことは避けなければなりません。

❀下痢と風邪は流産を誘ふ

腸カタルが烈しくなると、大便と共に赤兒まで出てしまふことがあります。腸の運動が烈しいために、子宮の伸縮を促して、流産や早産の原となるのですから、下痢は輕いうちに治すことが肝要です。

姙娠中に咳嗽が出ると、お腹に力が入つて流産を誘ひますし、熱が出ると、卵膜と子宮とが離れて流産の原となりますから、風をひかぬ工風が專一です。

私は極く壯健な方ですが、風をひくのが持病で、熱が出ると醫者に外出を禁ぜられます。けれども、お産と聞いては弟子たちにばかり任せておけぬ性分ですから、四十度の熱があつても出掛けることもございます。それでも一生懸命の時には割合に障らぬものでございますが、大儀でもありますし、第一、お

かういふ風ですから、姙産婦は、なるたけ無益な心配をやめて、氣を安らかにもつことが肝要です。

❀運動のために位置が變る

私の預かつてゐた神田の金屬商のおかみさんは、胎兒の位置が逆でございましたが、知らせると心配しますから、それとなくお醫者に診て貰ふやうに勸めましたけれども、本人は平氣で、そのままに過してをりました。ところが、丁度先日の神田の大火に出遇つて、眞風下なので、火の子は雨霰と降つてまゐりました。今にも燃え移りさうな模樣なので、家中必死になつて荷物を持ち出す騷ぎ、おかみさんも夢中になつて、幾度も幾度も二階へ上つて、大切な品を持ち出しましたさうです。それでも幸ひ類燒は免れましたが、私は大心配をして、翌日見舞にまゐつて診察しますと、逆であつた胎兒が順當な位置に直つてをりました。これは全く過度の運動のために變化したので、火事で大儲けをしたわけです。

醫者に叱られるので困りました。

❀鼻を洗ふは風邪の豫防

それから、あるお醫者のお話から思ひついて、鼻の掃除をはじめました。それは、五十倍の鹽酸加里水に、重曹二百分の一を加へ、毎朝煎茶茶碗に一杯ぐらゐづつで鼻の孔を洗ふのですが、これは大層効があるとみえて、一昨年それを始めて以來、とんと風をひかなくなりました。

この藥は、藥種屋で調合させても、四合瓶に一ばいが五錢ぐらゐで、二十日分もあります。初めは、この藥を鼻へ吸ひ込んで口へ吐き出してみましたが、なかなか苦しいので、今では、鼻へ吸ひ込んで鼻から出してをります。洗ふ毎にドロドロした水が出るのをみますと、一日のうちに隨分澤山の汚いものが溜まるものと見えます。姙婦に限らず、何方もこれを實行なさるやうにお勸いたします。

孫の顏を見に米國まで行つたお婆さん

一記者

七十歳で渡米の覺悟

東京府下下澁谷に柴田はる子刀自といふ方がおいでになります。令嬢のすゑ子樣とこま子樣とは、青山女學院とフレンド女學校の音樂の敎師をなすつていらつしやるので、二人の令嬢と共に、閑靜な生活をしていらつしやいます。大分以前から基督敎信者になつておいでになりますが、昨年七十歳の高齡で、北米合衆國シアトル市の古谷正二郎氏に嫁がれた長女はつ子樣のもとへ、孫の顏を見においでになつたといふくらゐの元氣な方でございます。

そして、お蔭で向ふの立派な敎會へも行つて來たし、見聞を廣めて來たといつて、大層喜んでいらつしやると伺ひましたから、ある日、お尋ねいたしました。

米國で生れた二人の孫

古谷氏は、シアトル市に程近いクリスタルスプリング島に廣大な溫室を持つておいでになつて、絕えず草花や野菜を作つておいでになる園藝家です。支店や出張所といふやうなものも方方にあつて、日本人の使用人も澤山ゐますし、夫婦共稼ぎでやつてゐる人も少なくないさうです。

古谷氏は、若い時から米國で働いてをられましたが、中途に一度歸朝して奧樣を迎へられ、再び彼地に赴

此廣告を見て御申込の方は必ず婦人世界愛讀者なる旨御申添を乞ふ

手輕にできる肺結核療法發見せらる

肺病の恐るべき事は今更云ふ迄もない殊に近年非常な勢ひで患者の數を增しつゝあるに至つては最も寒心すべき一大事である、隨つて色々の奇藥とか靈藥とか云ふ者が頗る澤山流行するが未だ完全なる特効藥のあるのを聞ない、誠に憂ふべき事である、所が獨逸留學より歸朝せられたドクトル松尾先生が効力の卓絕なる新劑を發見せられたと云ふ事を聞いたので未だ此喜ぶべき新劑を知らざる患者の爲に先生の治療談に就て敎へを乞ふた、先生快諾して曰く此病氣は極めて緩慢なる慢性傳染病で治療が仲々困難であるから療法も容易に發見されない私も隨分苦心しました此病氣の大體の容體を御話しすると別に感冒に罹らぬのに時々咳嗽が出るとか、又朝は何共なかつたのが夕刻になるとポーッと熱が出るとか、餘り澤山の熱でもないが定まりなく發熱するとか少しとろ〳〵就眠すると全身に汗が出るとか酣かにして居ても時々呼吸が苦敷なるとか、別段自覺すると云ふ樣な理由のないのに身體が何となく疲勞して仕事が厭になるとか、咯痰が平常より多く又は血の腺が交るとか、夜間眠られぬとか、食物が進まぬとか、胸や脊が痛むとか、少しの事が非常に苦になるとか、下痢があるとか、咯血するとか、非常に發熱するとか、甚敷衰弱して居るとか、夜の明ける時分になると呼吸苦敷なるとか、かう云ふ容態の患者は早く注意しないと再び起つことが出來なくなる、肺病の療法には種々あるけれど只藥を呑む許りでは全治せぬ其れは根本の療法を知らないからであると。

因に本療法は自宅にて誰にても出來るのであるから詳細を知りたければ返信料三錢封入東京麹町區九段下飯田町三ノ六電車通如山堂藥院（電話番町二八八二番）へ本誌愛讀者なる旨記入し申込まるれば親切に悉敷根本的療法を敎示せらるゝ筈である。

成功奮闘經歷滿載

實業之日本

郵税共壹冊拾貳錢半 年分壹圓五拾錢 半年分參拾錢 | 五月十五日 發行 | 第拾壹號

南洋諸島に雄飛せよ

伯爵 大隈重信

小資本成功實例

■新渡邊博士……一高入學を志した感心な前科者■

■江原素六……公公然と行はる、勤勞盜賊■

余の商店經營法

■高峰博士……余が化學研究所設立の趣旨■

小賣商店發展策

■赤貧青年十五年間に巨萬の財を作る■

法螺貝の響に一村盡く蹶起す

社長 增田義一

岡部菊太郎 絹織物商
後藤房吉 洋品商
青木直二 染工場
吉田房次郎 洋品商

（開業後七ケ年間に大發展した一大玩具商）

（食料品羽田如雲氏が苦心慘憺の實驗談）

發行所 實業之日本社 東京京橋南紺屋町 振替貯金口座東京三六番

此廣告を見て御申込の方は必ず婦人世界愛讀者なる旨御申添を乞ふ

化學應用 わきが 最新療法

本病に罹患に於ける汗腺の疾病にして該部より分泌する汗汁は氣に觸れて變質し惡臭を發するに基因するものとす而して本病を患ふる人は甚しく體面を缺き交際上の親密を缺くは勿論大いに自己の生涯の幸福をも妨げられ立身出世の害となりし例尠からず故に其療法を一日たりとも忽せに爲すべからざるなり然るに本病の治療に專門の技倆を有する中央醫院が多年苦心研究の上發見したる最新特効藥の處方を變質せしむるが故に本劑を以て治療を加ふる時は最も重きワキが症も容易に治癒す同病者救濟の爲め病名を記し弐錢切手封入御申込のお方には右特効新藥の說明書を無代にて進呈す

電話下谷四六三四 中央藥院

化學應用 最新療法 色を白くしニキビを治す

色の白きは七難かくすとか云ふて兎角いろ艶の能い人は交際場裡に立つても人に花の加く持て囃され自然の快樂があるに引換へ色黑き方又は赤すぎる方等の色つやの惡しき人及びニキビ又はソバカス等ある人は人中でも醜々として樂まねばかりでなく人の色艶の能を見て羨ましく思ふて悲觀するなど眞に生涯の損でありますから茲に皮膚病の治療に專門の技倆を有する中央醫院が多年苦心研究の上化學を應用して發見したる處の最新特効藥を以て治療を爲す時は色艶の惡き皮膚でも色素を脫質して色を白くしニキビとソバカスを治し美人となる事が出來ます故に御困りの御方には弐錢切手封入御申込み次第右特効藥の說明書を無代にて進呈す

電話下谷四六三四 中央藥院

肺病の奇藥

一般世人が不治症と斷定しつゝある肺病は決して不治症ではありません本病に襲はれ悲觀しつゝある人は勞二錢を添へ照會せられよ療養法及び不思議に治療の奇藥を詳細に御通知致し升（轉載を嚴禁す 文句の盜用及模倣を嚴禁す）

東京府荏原郡大森海岸八幡電車停留場上 川名助次郎

婦人修養と實際 最新女藝全書

立教高等女學校長小林先生家庭研究家村田天賴君共著

正郵價金九拾錢 稅金八錢

〈本書の體裁〉〈クロース金文字入〇和裝仕立〇紙數四百頁口繪最美石版十二度刷〉〈婦道〉〈教育、女禮、育兒、衛生、裁縫、料理、音樂、茶道、生花等各編に亘り多數の家政に關する所を平易に說き趣味と實益とも併せたる家庭に於ける最良の友なり

發行所 東京市京橋區南紺屋町一（振替東京二〇五五四 電話下谷一九〇一） 一星社

讀みどころの多い 少女の友

六月號 正價拾錢 郵稅壹錢 半年壹冊共七冊 郵稅共七錢 一年十四冊 郵稅共十錢

北カリフォルニヤ

地圖寫眞挿入

米國の地理は中學校女學校の地理書に無し→加州は米國の何處にあるか→加州まで日本からどれほどあるか→加州の大さは日本のどれくらゐか→加州の都會は何と云ふか→加州の農工商は如何→加州在住の日本人の職業及び兒童數は如何

▲お伽小說 伯母さん……岩下小葉
▲お伽小說 おとり鳥……與謝野晶子
▲小說國 滿朝の花……永代雄
▲少女小說 飛ぶ少女……江見水蔭
▲少女小說 お藤さん……邦子
▲少女小說 和尚樣のお話……阪平野庄
▲教訓 お婆さんと女中……星野水
▲唱歌小說 花賣娘……堤眞二
▲寫眞小說 お舟のおべゞ……千葉亀雄
▲少女小說 母の思ひ出……夢二
▲少女小說 悲しき海へ……流水
▲少女小說 手を縛られた女……水口

古歌 今名 吟解……下田歌子
新名人 おいね石……佐倉新月
傳記 詳解 ことわざ草……記者
日本に行きたいと言つた英國の少女……早稻田大學教授 内ヶ崎作三郎
雨の國物語……中央教育學校教授 矢津昌永
第一等の化粧……東京女子高等師範學校教官 大塚良二
色のうつり……東京女子高等師範學校訓導 藤五代策
四歐史談 先生を慕つて行き倒れた愛國少女……高等女學校本町小學校 武田勝子
横濱參觀記……者

東京 南紺屋町 三番 實業之日本社 振替貯金口座 六三二番

少年日本

六月號 郵稅一錢 定價拾錢 半年七冊共七冊 郵稅共壹圓參拾錢 一年十四冊 郵稅共壹圓參拾五錢

余が苦學時代——奧田文相

アルプス登山——三島彌彦

學術

蛇や蛙を食ふ人……理學博士 谷津直秀
片輪の豪傑……文學博士 箕作元八
世界一の大佛……理學博士 横山又二郎
酒のとれる木……理學博士 三宅驥一
電話の話……遞信技師 押田三郎
アラビヤ巡遊記……高師教官 玉井幸助

文藝

孤島の牢獄……冒險小說 有本芳水
蜂の巢……滑稽小說 松山思水
船室の時計……怪奇小說 三津木春影
怪僧……歷史小說 渡邊白水
瑞轉……少年小說 水島尺草
二人の父……豪傑小說 三宅春軒
小天狗正六……滑稽お伽 五郎林風
鐵之助の知慧

發行所 東京 南紺屋町 實業之日本社 振替貯金口座 三六二番

實業講習錄

實業之日本社



好んで危うき道を採り給ふ勿
實際の役に立つ學問をされよ
安全に成功の域に近かん
實業講習錄は
實際の役に立つ學問のみを選ぶ
確實に成功を望む人は學ばれよ

中學程度一ヶ年卒業

見本無代進呈

ハガキにて申込まれよ

東京市京橋區南紺屋町

實業之日本社

帝國實業講習會

勇ましい美しき子供雜誌

幼年の友

六月一日發行　價拾錢　郵稅五厘　半年分前金五十八錢　一年分同一十錢　六月號

△牛とあひる……思ひもつかぬ可憐なる家畜の實況
△いたからう……無邪氣にしてしかも教訓的なお伽噺
△ふくろと鼠……子供の思想其儘天眞爛漫なポンチ畫
△稗蒔……無類の美しき密畫、說明も亦新調
△馬と大根……笑ふべし。慾張り百性の失敗ばなし
△千早城……勇壯にして節義を重づる絕美の訓畫
△地藏の鼻……滑稽の中に教訓ある面白きお伽噺
△水鳥と子供……畫も美麗なり、說明も頗る可憐なり
△御製繪解……先帝の御製を解く家庭教育の好資料
△ほたる……珍妙なる兒童文學の大奬勵
△幼兒懸賞畫……いよ〳〵益々珍奇。繪畫展覽會。
△可愛い手紙……いつもながら天眞爛漫なる幼兒の作文

發行所　東京南紺屋町　實業之日本社　振替貯金口座東京參六番

此廣告を見て御申込の方は必ず婦人世界愛讀者なる旨御申添を乞ふ

最も進歩せる子宮藥

可要球

婦人病諸症は初期に於て格別の苦痛なく且つ局所の病に醫師の診察を受くる事の厭はしきより（隱蔽放任して治療を怠るより病勢昂進）して身心共に衰弱し遂に不姙娠早産流産の不幸を生じるに至る如期は未だ家庭に於て（有効簡便に使用する適當の婦人藥）なきに因る一大缺點なり而して在來の婦人藥は頗る幼稚舊式にして直接病原に關係なき草根木皮的なれば其効力眞に謂ふに足らず近世醫藥學の進歩は直接に藥劑を局所に挿入し或は外科的手術を行ひて治療の目的を達するなり

獨乙の婦人科大醫フロインド博士の處方に則り調劑せる『可要球』は是等總ての欠點を補ふ子宮病一切の外用藥にして子宮内膜炎にて下腹痛み産前産後又は平素に白帶下赤帶下に苦み腰より下腹へ筋張り子宮糜爛し或は出血し局所に臭氣ありて搔痒を感じ月經時の疼痛月經の過多なる等に外用する時は（直に輕快全癒する驚くべき卓効）ある新劑なれば子宮病諸症にて苦める婦人は一度是非使用して病氣を一掃し給ふべし

尚梅毒消渴の疑ある人は唯一丸を併用せば其の効最も大なり

八球入金五十錢〇
定十八球入金一圓〇
四十球入金二圓〇
價特製百十球入金五圓〇毎個遞送無料

東京市本郷區湯島天神町壹丁目五拾參番地
唯一丸發行所　中西葆光堂藥局
振替貯金東京口座（千五百番（電話下谷五四七番）
◎全國至る所の有名なる藥店にて販賣す

かれました。只今では可愛いお孃様を二人まで儲けられて、樂しい家庭を作つてをられるので、昨年は、久久で故國の春を訪れようと、すッかり準備までされたのですが、急に御都合でお見合せにならなければならぬことができて、折角の思立も斷念せねばならぬことになりました。

お母さん いらつしやい

その時、米國から

『私どもは殘念ですがまゐられません。しかし、お顔も見ず、お話も申上げないのは誠に殘念ですから、どうです、お母様が奮發して此方へ來て下さるわけにはまゐらないでせうか、お年寄で皆様が御心配だらうから、こま子さんと一緒にいらつしやい、こま子さんの方もおきに休暇になるでせうから。』

というて來ました。普通の老人ならば、初めから頭を横に振られたでせうが、元氣な刀自は、これは面白いとお思ひになつて、非常にお氣が進んだのです。お年寄のお眼の前には、いとしい娘や、可愛い孫の姿がチラチラして、矢も楯もたまらなかつたのかも知れません。



蕭風やよき友とゆく歸りみち

生れて初めての洋服姿

といつて、默つて出掛けることもできませんので、神戸と函館とにおいでになる二人の令息のもとへ、貰はれこれの次第だが、贊成か不贊成かと、お問合せになりました。すると、一方からは、是非お思ひ止りを願ふといふ返電がまゐりました。さういはれて見ると、無理に出掛けるのもと思つて、チヨツと躊躇されましたが、一方からは、何も話の種だ、いい機會だからおいでになつたらよからうと、御返事がまゐりました。それならといふので、また思ひ返して、足もとから鳥の起つやうに、いろいろ旅裝を調へ、生れて初めての洋服を着て、令嬢こま子樣に伴はれて、出發されました。

船は郵船會社の因幡丸、時は、野も山も滴るばかりの新綠に包まれた五月のことでございました。

西洋婦人の話には困る

靜かな航海は幾日か續きました。船長の富永氏は刀自のお話を聞いて、

『それは愉快なことを承はります。御婦人——殊に御老人は引込思案に流れ易いものですのに、あなたは、よく思ひ切つてお出掛けになりました。私は前にも別の船で、毎年夏、朝鮮の娘のところへ逢ひにゆくといふ老婦人にお眼にかかつたことがあります。』

といつて、笑つてをられたさうです。

しかも、長い航路に少しもお弱りの氣色もなく、食堂には必ずお出になりました。しかし、外國語がわからないので、同じ乘客の西洋婦人が、よいお仲間と思つて話をしかけるには、實に困つたといつておいでになりました。

異國の孤島に日本の花

かくて無事**シアトル**に着き、絶えて久しく相見なかつた娘御や、初めて顔を見る可愛い孫たちの手をとられて、二月ばかりここにおいでになりました。

クリスタルスプリング島は、**シアトル**市から一時間半ばかりのところにある小島で、誠に景色のよいところでした。古谷氏の庭園には、藤や躑躅や、その他、いろいろの美しい花が咲き誇つてをります。ある時、島の中にある製材會社を見にゆかれましたが、その途中の景色は、東海道の海岸にあるやうな美しいところでしたさうです。

日本人も澤山ゐるうちに、服部綾雄氏の奥樣の御姉妹とかで、御良人と共に非常に苦心して莓の栽培をしてゐる人にもお逢ひになりました。

松茸狩と貝拾ひの遊び

シアトルあたりは、今日では、少しも外國にゐるやうな氣がしないほど、日本のものは何でも自由で、魚も十分ありますし、濱では貝拾ひもできる、山では松茸狩もできるほどださうです。松茸などは、あまり澤山とれるので、イヤになるくらゐです。

外國人は、松茸は纖維質のものだから有害だといつて食べないさうですが、何か肴の附合せにすれば、

臺所と便所を改良したい

お孫樣方は、彼地でお生れになつて、彼地でお育ちになつたのでございますから、日本のことはチツとも御存じないけれども、家庭では極めて日本的に教育されてゐるので、もう少し成長されたらば、キツと日本へ歸りたく思ふだらうとのことでした。

わづか二月ばかりの短い旅でしたが、臟氣ながら彼地の樣子もわかつたので、よい生學問をして來たと喜んでいらつしやいます。チヨツとしたことだが、便所と臺所はどうしても西洋風でなければならぬ、これは是非改良したいといつてをられます。

小說　寶子

村井弦齋

日光行

憂き事の尚ほ此上につもれかし、限ある身の力試さむ。

喜代子は夏の初に、病氣も大概平癒したといふ事て、片瀬の別莊から今戸の家へ戻つて來た。

源次は斯くまで早く喜代子を引揚げさせようとは思はなかつた、せめて夏中も別莊に置いて、充分に身體を靜養させ度いと思つてゐた、然るに喜代子は過ぐる頃源次に我が意中を語つてより、一大決心を生じて氣分が以前と變つて來た、以前は病に疲れて心も弱り、今戸へ戻つて苦勞するのが悲しい樣に思つてゐたが、離緣の事まで言はれたのが一大刺戟となつて、一つには良人の心を安める爲め、一つには我身の望を遂げる爲めに、今は女々しく自分の身を悲んでゐる時でないと悟つた、何事を差置いても早く家へ歸つて、望を遂げる樣にするのが我身の務であると感じた、さう思ふと心に勇氣が出て、病氣も日日に快方に向ひ、床を離れて散步も出來る樣になつた時、モー此上は徒莽と日を送るに及ばないと、良人に話して別莊を引揚げたのである。

父の剛藏は鑛山の事業が手放せないので、まだ福島縣から歸らない、母一人の處では喜代子の爲めに何うであらうと、源次は窃に心配したが、喜代子は却てその方が好都合だと云つてゐた。

母のお瀧は家の內が無人で淋しさを感ずる折柄、喜代子等の戻つて來て急に賑はしくなつたのを悅んだ。

「よく斯んなに早く歸られたネー。わたしはまだ急に歸るまいと思つてゐたよ、家も此頃は奉公人が足りなくつて、わたしはモー忙がしくつて仕樣が無い」

人の寢い處へ歸つて來たのは何よりの手助けだといふ樣に言つてゐる、是れから充分に働いて呉れろと言はないばかりの口振だ、成程喜代子の不在中に、小間使のお定は暇を取つて宿へ下つた、臨時に置いた仲働きはお瀧の衣類を二三點盜んで逃げて了つた下男も更つて六十位の老人になつてゐるが、耄碌してゐて役に立たぬ、何ういふものか以前から此の家には奉公人が長く居つかない。

喜代子は却て斯る場合を悅んだ、此ぞ我身の試金石である、望みの爲めに奮闘するのは斯る時こそ張合があると、何となく愉快を感じた。

「おかあさま、私もお蔭樣で、身體が悉皆癒りましたから、何でもお手傳を致します、急いで小間使をお探しなさるに及びません、私が及ばずながら、おかあさまの御用を致します」

と自分が小間使にも奉公人にもなる意である。

喜代子はその翌日から、終日姑の側に侍して何呉となく用を達した、以前とても小間使と一緒になつて立働きはしたけれども、今は其時と心持が違つてゐる、以前は姑から命令けられた事を手落無い樣に恐る恐る爲てゐたが、今では命令られない內に、姑の氣を察して何事も自分から進んで爲る、以前は全方無しに勤めてゐるといふ風も見えて、それが姑の氣に入らなかつたが、今では自分の心から姑の側に居るのを樂しさうにして、いつも愉快な顏をしてゐる。

その代り喜代子は全く良人の事をも我子の事をも放擲して顧みない、良人が會社から戻つて來ても、以前の樣に飛出して出迎ひもせず、小兒が泣いても知らぬ顏をしてゐる、さすがのお瀧さへ見るに見かねて、

「源次が何か捜し物をしてゐるよ、おまへ行つて見てやつたらよかろう」

などと注意する事もあつたが、喜代子はよくよくの

事で無ければ姑の側を離れない、小兒が種痘をして熱の出た時も仲働と乳母に委せた切りで自分が介抱をしなかつた。今は喜代子の眼中に良人も無く我子も無く、姑一人に心を盡して望みを遂げる事に熱中してゐるのである。

喜代子は氣が張つてゐる爲めか、病後の身體で終日働いても左程に疲れを感じない、朝は泰公人より先に起き、夜は姑が寢入るまで自分の部屋に引取らないけれども、睡眠不足で頭痛のする樣な事も無かつた、食物も美味しく食べられるし、氣分も次第に良くなつて來る、喜代子は自分でも案外に感じた、人は心の持ち方一つで、少し位身體に無理をしても障らないものだと思つた、然し源次は喜代子の身體が精神の興奮力で維持してゐるのではあるまいかと危ぶんだ、興奮力の竭きる時、身體も變化するのではないかと心配した。

夏の半に父の剛藏は一旦鎭山から戻つて來たが、東京で機械などを買入れて、十日程過ぎると復た山へ出かけて行つた。

剛藏が家に居る時は濱町の親類から滅多に誰も來ないけれども、剛藏が不在になると、お瀧の姉も姪のお崎も、ちよいちよいと遊びにやつて來る、お崎と云ふ娘は歳の割に小まつしやくれてお饒舌だから、おちやつぴいと人に言はれるけれども、お瀧には大層氣に入つてゐて、毎度衣服や半襟を買つて貰ふ、お崎の晴着は親の着せる物よりも、お瀧に買つて貰つた品が多いといふ位である、然るにお崎は一向に叔母の恩を感じてゐる樣にも見えない、毎も今戸へ來ると、まだ何か欲しい、何か無いと、種種な物をお瀧に强請る、それが直ぐに應じられないと、

「叔母さんは金持の癖に吝嗇だよ」

と蔭で不平を言つてゐる、此頃は學校も暑中休暇になつたので、三日に上げず今戸へ來るが、今度は衣服を强請らない代りに、外の事でお瀧をせびつてゐる。

「ネー叔母さん、去年からのお約束だから、今年は日光へ連れて行つて頂戴な、お休みの中でないと、わたしは緩り行けない人だから、今の内に往き度いんですワ」

お瀧も元來遊山好き、日光行きは贊成だけれども、主人の不在とて躊躇してゐる。

「だけども叔父さんが不在だからネー」

お崎「叔父さんがお不在だつて、源ちやんと喜代ちやんとがお留守番をして呉れるから可いぢやありませんか、家のおつかさんもまだ日光を見ないから、是非往き度いと云つて居ますよ、叔父さんの方へ手紙を出して、日光へ行つても可いかと聞きにおやりなさいよ」

お瀧も遂に心を動かされた。

「ぢや叔父さんから、往つても宜いと言つて來たら、伴れて行つて進げようネ」

お瀧は早速鎭山の方へ手紙を出した、四五日過ぎると返事が來た、お瀧はその返事を見て側にゐる喜代子を顧みた。

「お喜代や、おとつさんは餘つ程お嫁さん思ひだよ、濱町のお崎を連れて日光見物に往つても可いが、源次も會社の方から暑中休みが一週間取れる筈だから、おまへが歸つたら其の後で源次と喜代子を日光へ遊びにおやりと書いてあるよ」

喜代子は夙に舅の厚意を悦んだ、然し母の心を測りかねて、

「オヤ、さうでございますか」

と何氣爲く母の顏色を伺つた、お瀧は近頃以前の樣に厭味らしい事も言はない。

「おまへ達にお留守番を賴むから、そのかはりわたしが歸つたら、おまへと源次を日光へやりませうネ」

喜代子は心の中で思案した、言はるる通りに留守居して、後に良人と唯二人、日光へ行くのは嬉しいけれど、それでは必ず姑のお氣を損する事があらう、折角今迄心を盡してお惡い顏を見なかつたのに、僅の事で後戻りしては詮も無い、是れは寧その事、姑

にお頼み申して一緒に伴れて行つて貰ふ方が、却て後の爲めにならうと思つた。

「おかあさま、私はお願ひがございます、私も皆樣のお供をして御一緒に參り度うございますが如何でせう」

お瀧は斯う云はれて何となく嬉しい樣に感じた、源次と二人を出してやる事は心地好く思はなかつたが自分が伴れて行くとすれば、華族の娘の親として何處へ行つても幅が利く、それに此頃は自分を大事にして呉れるし、成らう事なら伴れて行き度いけれども、直ぐにさうとも言ひかねてゐる。

「だつてもおとつさんから斯う云つて來たんだから源次と一緒にやらなくつちや惡いよ」

喜代子は飽くまでも母に懇願する口氣で、

「男の人はいつても參られます、私はおかあさまと御一緒に參つた方が、お賑で面白いでせうと存じます」

お瀧は愈よ其氣になつた。

「そんなら源次にもさう言つてネ、あまへは一緒に伴れて行く事にしませう」

お喜代「いつお出掛け遊ばします」

お瀧「さうさネー、思ひ立つたが吉日だから天氣が好ければ明朝にしよう」

濱町へは電話をかけた、直ぐにお崎が飛んで來た、女ばかりでは心細いから、父も一緒に行くと告げた、お瀧は喜代子も同行する事を話した、お崎は連中の殖える事を悦んだ。

「ぢや賑で可い事ネー」

石燈籠

翌日の昧爽、凉風の身に心地好き頃、お瀧と喜代子は今戸の家から腕車を列ねて上野の停車場へ駈けつけた、濱町の人人とは停車場で落合ふ約束である。

腕車の梶棒が敷石の上に降りると、お瀧は赤帽を呼んで、自分の車から牛革の旅行鞄を渡した、喜代子も自分の車に載せてあつた浮織の大きな旅行袋を渡した、その姿を見ると、停車場の中から飛出して來たお崎が嬉しさうに、

「叔母さん、先刻から待つてゐましたよ」

先に立つて二人を婦人待合室へ案内した、停車場の構内は日中の炎暑を避けて朝の凉味を利用せんとする旅客が處狹きまでに雜踏してゐる、その中をお瀧は赤帽を先に立て、少し身を反らして傲然と歩いて行く、喜代子は姑の後から人に顔見られるも面羞き風情で、しとやかに身を屈めて從いて行く、群衆の眼は齊しく此の可憐なる美人に濺がれた。

婦人待合室には濱町の伯母も來て居た、伯母の亭主といふ男も平氣な顔して婦人用の椅子に腰かけてゐる、喜代子は先づその男の顔を見ると、心中に一種疎ましい氣が生じて、堪へられない程であつた。

此の男は伯母よりも七つか八つ位年少である、惡い病氣でもある樣に色の薄黑く、鼻も頰も横に膨れて締りの無い下品な顔だ、その癈服裝は身分不相應に着飾つて、極上等のパナマ帽子を、しだら無く後ろへ曲げて冠り、越後上布の帷子に黑紹の紋付を着て、紹縮緬の扱帶を幅廣にしめてゐる、扱帶に卷きつけてあるのは重さうな太い金鎖、指にも寶石入の指環を箝めて、笑ふ毎に金の義齒が二つ三つ露はれる、自分の側に鰐革の大きな手提鞄を置いて、兩足をヌツと左右へ擴げ、卷烟草を口にして、妙に人人を睨め廻してゐる。

「オー喜代ちやんも一緒だつてネー、大勢の方が賑かで可いなあアハハ」

とさも叔父だといふ顏をして喜代子を眼下に見下した口振、喜代子は身に泌みるほど厭らしく思つた、上品な家庭に育つた身は斯ういふ人に言葉を交へるのも心が汚れる樣に感じた、良人の話によれば此の男は伯母と正式の結婚をしたもので無いさうだ、お崎の爲めにも實父で無いさうだ、伯母が待合茶屋を營業してゐる時分、いつとは無しに轉げ込んで主人らしくなつたのだ、伯母の爲めには四人目か或は五人目位の亭主だといふ事である。剛藏は平生此の男

を嫌つてゐる、濱町からも此男は滅多に今戸へ來た事が無い、斯んな人と一緒に日光へ行くのかと思ふと、喜代子は急に淺ましい樣な感じがした。

一旦はさう感じたが、忽ち自分で思ひ直した、イヤ是れが惡い、是れが心の至らないのだ、自分の身を標準として人を見るから、人に對して不滿の心が起る、一旦覺悟を定めた上は、我れといふ心を去らねばならぬ、姑さへ滿足してゐれば我身は何事にも心を苦めるに及ばない、何を見ても何を聞いても全く自分と云ふものを忘れ、姑の心を以て我が心としなければならぬ。

斯う思つて喜代子は努めて自分の心を抑へた、容易に口から出難い言葉を勵まして、叔父といふ人にも丁寧に挨拶した。

伯母は喜代子が叔父に對して如何なる擧動をするかと內內心に疑つてゐたが、自分を尊敬する樣に、叔父をも尊敬して呉れたので、窃に嬉しさを感じてゐる。

伯母の滿足は　姑の滿足である、お瀧も喜代子が今は自分の身內にも馴染む樣になつたかと悅んだ。

此の人人は日光行の一等室に乘込んだ、叔父といふ人は乘客の多からん事を察して、先づ室の中央に駱駝織の膝掛を長長と二つ敷いた、自分は側に鞄を置いて、どつさりと大きく腰掛けた、身體が肥つてゐるのに、足を擴げてゐるから、一人で三人前の座席を塞げてゐる、伯母もお瀧も廣濶と席を取つた、お崎は下駄を脫いで腰掛の上に坐つてしまつた、

「喜代ちやんも斯うお爲なさいよ、人が來ると狹くなるから」

喜代子は默つて、他の乘客が坐席に苦む樣を氣の毒さうに見てゐた、後れて來た人は僅の空席を見つけて、慇懃に左右の人に會釋し、鞠躬如として腰を卸さなければならぬ程に込み合つた、最も後れて西洋婦人が二人、赤帽に荷物を持たせて入つて來た、室の中央まで進んだが、坐すべき席が無いので室內を見廻してゐる、喜代子は叔父といふ人が早く鞄を下



に卸して席を明ければ宜いと思つてゐたが、叔父は平氣で煙草を薫してゐる、前の側にゐた四五人連の乘客が互に寄り合つて身を縮め、漸く席を明けて西洋婦人を坐せしめた。

汽車は動き出した、上野や王子の裾を繞つて、荒川の鐵橋を過ぎた時分に、朝日が窓から射し込んだので、向ひ側の乘客は皆な窓掛を卸した、室内はムッと暑くなつて來た、汽車の進むに連れて、暑さは益す強くなる、乘客は誰も彼も扇使ひに忙がしい、叔父といふ人は手巾を出して首筋の汗を拭いたが、衣服の襟を左右へ押開け、黒い胸毛まで露はして、扇でバタバタ風を入れた、やがて衣服の裾を捲つた、白い腰卷が僅に膝を隱してゐる、

喜代子は前の西洋婦人が顔を横に向けた態度を見て復た頻に氣が揉めた、何となく耻かしい様に感じて、情けない氣がした、自分も斯んな人の連れかと思はれるのが口惜しい様に思つたが、忽ち自ら戒めた、矢つ張り是れが悪い、ナゼ斯う自分といふ氣が出るだらうと、心で心を叱つた。

伯母もお瀧も外の事に頓着しないで元氣好く愉快らしい顔をしてゐる、お崎は一一窓外を指して、アレ川がある、山が見えると、景色の變るたびに叫んだ、叔父は物識顔に、是れは利根川、あれは筑波山と説明した、知らぬ土地へ初旅の面白さに、お崎は獨りて嬉しがつてゐる、喜代子は心中に、斯ういふ人達の様な氣になれたら、心配も無くて樂だらうと思つた。

宇都宮から日光線へ進むと、窓から吹き込む風が山の氣を帶びて涼しさを感ずる、汽車は綠樹の間を進んで、大きな松並木を縫ひつつ馳つた。

日光の停車場へ着くと、此の一行は腕車を駈つて神橋前の小西といふ旅店に投じた、旅店の番頭は上等のお客と見て、見晴しの好い別館へ案内した、一同は上等の室へ通され、帶を解き汗を拭いて、汽車中の苦熱を忘れた。

晝餉が濟むと、暫く休息した後、人人は日光廟へ參詣に出かけた、旅店から老人の案内者を雇うて呉れた。

大谷川に架した朱塗の神橋を横に見て、天下に名高き日光廟の境内へはいつたが、先づ人人の眼を驚かすのは三佛堂や相輪塔、叔父といふ人は一一胸算用を始めて、

「今の金にしたら此の相輪塔が何十万圓位なものて此の大伽藍を今建てれば何百万圓かかる」

と金錢上から品評するのが喜代子の耳には聽苦しかつた。

二王門を過ぎて陽明門に近づいた時、數知れぬ燈籠が道の左右に並んでゐる、南蠻鐵の燈籠は伊達政宗公の献上、唐銅の燈籠は朝鮮國より献上と、案内者が説明するに、伯母やお瀧はその側へ寄つて眺めてゐた、喜代子は一人、後ろへ戻つて石燈籠の文字を一一讀んでゐたが、石垣の下にある一臺の燈籠の前に立留まつて、思はず嫣然と微笑むだ、その燈籠は梅岡家の祖先が献じたもの、二王門の内に今も存してゐると、豫ねて父母より聞いてゐた、お崎はらよこちよこと側へ寄つて來て、

「何があるの、此の燈籠は何うしたの」

喜代子「是れは私の實家の先祖が上げたものです」

お崎は急に大きな聲で、

「アラあなたのお家から上つたの、おつかさんも叔母さんも來て御覽なさいよ、喜代子ちやんのお家から上つた燈籠がありますよ」

伯母もお瀧も叔父といふ人も案内者も皆な燈籠の前へ寄つて來た、先程より二人の書生連が後になり先になりして、成るべく喜代子を離れない様に歩いてゐたが、お崎の聲を聞いて、互に顔を見合せた。

「あの美人は華族だと見えるヲ」

「道理で雞群の一鶴だと思つた」

此の談話はお瀧の耳に留まつた、言葉の意義は解らねど、華族と言はれたのは何よりも鼻が高い。

「お喜代や、隨分モー古くなつたヲー」

さも自分が母であるといふ事を書生連や案内者にも

聞かせ度い様な高調子で話した、案内者は眼を圓くして、

「ヘイ、是れはあなた方の御先祖様で」

と俄に恐縮らしい態度をした、お瀧は愉快に堪へない、傲然と笑を帶びて後ろの書生連を顧みた、もつと此の近所に見物人が大勢居れば宜いのにと思つた、伯母もお崎も叔父といふ人も急に肩身が廣くなつた。

劒が峯

日光廟の見物を終つて、旅店へ歸つた時分には、お瀧も全く華族さんの氣になつてゐる、番頭や女中達がお客大事と丁寧に取扱つて呉れるのも、最前の案内者が石燈籠の事を話した爲めであらうと嬉しく思つた。

入浴を濟ませて晩餐に向つた時、叔父といふ人は酒を一本持つて來いと女中に命じた、銚子が來ると膳の前に大胡坐をかいて、女中に酌をさせながら下卑た戯談を言つてゐる、酒が廻つて來ると、身の内の熱度に浴衣を肩から外して兩肌を脱いだ。

平生ならば斯る事を別に怪みもせぬお瀧が今は見かねて、

「おまへさん、肌を脱ぐのはお止しなさいよ、廊下を人が通ると見つともないから」

華族らしい威嚴を保つて體面を汚すまいと思つてゐる。

夕餉を終つて一同日光の町を見物した、宿へ戻ると、日中の疲れが出たので、一同は早く眠に就いた、然し喜代子は神經が興奮してゐて、夜更くるまで寢入る事が出來なかつた。

翌日は朝の内曇つてゐたので、中禪寺へ登らうか、逗留して霧降の瀧を見物しようかと、暫く迷つてゐたが、曇るのは山の習ひと聞いて、遂に中禪寺へ登る事に決した。

宿に賴んで後押付の腕車を雇つて貰ひ、大きな荷物は旅店へ預ける事にして、一同は身輕に衣服を改めた、手廻の物だけを車に載せて、中禪寺道へ出發した。

大谷川に沿うて電車道を一里半程進んだ、電車道の盡くる處から、漸く登り坂になつて、道も險しく車も遲い、西澤金山から礦石を運んで來る荷馬が、二十も三十も相列なつて行き逢ふ毎びに、車は究屈な思ひして狹い路に避けるのが煩はしかつた、大雨の爲めに泥の流れて道の壞れた處へ來ると、車から降りて歩行する事もあつた。

男體山や女貌山には白い雲が腰までかかつてゐる途中で雨に逢ふまいかと頻に天氣を氣遣つたが、陰晴常無き山の奥、須臾に雲散じ日が照つて、蝙蝠を擴げる樣になる、それも間も無く忽ち前の山が暗くなつて、霧が溪から峯へ匐ひかかる。

馬返しを過ぎると、道は愈よ險しく、幾度も溪川の橋を渡り、削る樣な崖の下を通つて、晝も暗き密林の間を紆つて進んで行つた、密林を踰して、紅葉に名高い劒が峯の茶屋へ出た。

茶屋の前には山駕籠が五六丁並んでゐる、腕車も十餘輛着いてゐる、茶屋の庭には客が幾組も緣臺に腰かけて休んでゐる、喜代子等も車を降りて茶屋の庭へ進んだ、淙淙たる水の音が聞えて、般若方等の二瀧が一つは細い絹の樣に、一つは厚い總の樣に、左右の溪にかかつてゐる、お崎は庭の先へ出て、珍らしさうに瀧を眺めた、喜代子もその側に立つてゐる。

伯母やお瀧は庭先の緣臺に腰をかけた、叔父といふ人は數ある緣臺の間をブラブラと歩いて、休んでゐる人達の風采や態度を斜眼に見てゐる。

茶屋の女が茶と菓子を持つて來た、お瀧は茶碗を把つて一口飮みながら、

「お喜代やお茶が出たよ、お崎ちやんお菓子はどうだネ」

お崎も喜代子も後ろへ戻つて緣臺に近づいた、突然後方の緣臺から、

「アラ喜代子さん」

と若い女の聲がした、喜代子は振向いて、

「マア静江さん」

と懐かしさうに會釋した、後ろの縁臺に休んでゐたのは、品の好い丸髷に結つた痩形の若い奥方と、その側に切下髪の上品な後室らしい人もゐた、その先に白い洋服を着た三十位ののつぺりした紳士は香氣の高い葉巻煙草を口に啣へてゐた、縁臺の隅に家扶らしい老人と、中年増の女中が行儀正しく控へてゐる。

是れは東京の牛込に本邸を構へてゐる花柳子爵の一行である、喜代子の父の梅岡男爵と先代の花柳子爵とは仲の好い友人であつた、子爵は菊を作る事に妙を得て、毎年自慢の花を衆人に見せられたが、喜代子も娘時代に、父や母に伴はれて屢ばその菊を見に行つた、その毎に子爵夫婦から厚い待遇を受けた事はまだ心に忘れない、子爵が存生中人を介して喜代子を長男の嫁に呉れろと梅岡家へ申込んだ事がある、その懇望のあまりに熱心なので、父の男爵も謝絶するに困つた程であつた、子爵は先年世を去り、今の當主が相續して、去年の秋に、同族の秋山子爵から、静江嬢を嫁に迎へたと聞いた、その静江嬢は喜代子の學校友達であつた。

喜代子はゆくり無くも此の人と顔を合せたので懐かしい様な羞かしい様な感じがした、二足三足その前に進んで、後室にも子爵にも丁寧に挨拶した、後室は忘れもやらぬ喜代子の顔を見て、嬉しさうに談話をしかけた、静江夫人も縁臺を離れて懐かし氣に喜代子の側へ寄つて來た、花柳子爵は輕く喜代子に會釋して、その顔をジロジロと正面から眺めてゐる、子爵の態度は何處とも無く間が拔けて、如何にもお人好しの人物と思はれる。

静江夫人も喜代子も久し振りて逢つた故、互に緩緩語り合ひ度いけれども、同伴者があるので、忍ふ様に話しも出來ない。

「あなたも中禪寺へお登りですか」

「ハイ、さうですよ、あなたも」

なぞと口數は多く利かねど、睦まし氣なる情味はその顔に露はれてゐる。

二人は自分の縁臺に戻つて腰掛けたが、間隔が近いから、談話は頻に交換される。

「好い景色でございますネ」

静江夫人「紅葉の時は此の邊が一番好い眺ですネ」

後室は喜代子の方を向いて、

「喜代子さん、今でも邸では毎年菊を作りますから、秋には是非お入來遊ばせ、どうぞ皆さんで」

此の言葉はお瀧の爲めに好いきつかけであつた、窃に喜代子から何處のお方と聞いたので、その華族さんと口を利き度く思つてゐた處だ、お瀧は急に後室の顔を見て默つて會釋した、喜代子は詮方無く、

「是れは母でございます」

と紹介した、得たり賢しとお瀧は頻に談話を爲始めた、

「あなた方は昨晩何處へお泊りで、ナニ矢張り小西へ泊りました」

それより日光廟の噂や、泣龍と眠猫の品評までも始まつた、叔父といふ人も口を出した、伯母もお崎も一緒になつて馴馴しい言葉を吐く様になつた、喜代子はハラハラ思つた、顔から火の出る様な事もあつた。

執事らしい老人は何と感じたか、窃に子爵を促して、遅くならぬ内にお立ち遊ばせと勸めてゐる。年増の女中は氣味惡るさうに人人の顔を見てゐる、華族の家に仕ふる者は兎角に自分の主人達を尊重し過ぎて、他の平民より遠ざけ度がる様な癖がある、旅先で主人達が他の客と懇意になる事なぞは、最も好まない所である、執事は表へ出て急に駕籠の人足を呼んだ、女中はせつせつと双眼鏡や手提袋を片付けた。

山駕籠が庭へ舁ぎ込まれた、後室は丁寧に會釋して立上られた、子爵は縁臺を離れながらも、頻に喜代子の顔を見るので、喜代子は極まりが惡い様であ

つた、静江夫人は惜しさうに別れを告げた。

山駕籠は茶屋を出て山の道へ登つて行つた、お瀧は羨ましさうに見送つて、

「わたし達も駕籠にすれば宜かつたネー」

伯母は首を振つた。

「駕籠は醉ふよ」

お崎「わたしは駕籠に乘つて見度いわ」

叔父「今朝駕籠も聞いたがあの人達が昨夜から約束したと見えて、人數だけ無かつたよ」

お瀧「あの人達は何のお座敷に居たんだらう、ちつとも知らなかつたよ」

お崎「奥の二階に居たのよ、わたしはあの殿樣を廊下で見かけたわ、あの殿樣は家の近所でよく見る人だネ」

伯母は笑ひながら、

「だつて横町に妾宅があるもの、此の春柳橋から落籍して、彼處へ圍つたんだよ」

お瀧「花柳さんは浮氣者だネ」

伯母「浮氣だとも、毎日の樣に柳橋へ遊びに來てゐるよ」

斯る談話を聞いて喜代子は急に靜江夫人の身を哀れに思つた、幸福に似て幸福ならぬは人の境遇、それを思ふと我身こそ理想に適つた良人を持つて、眞に此世の幸福であると、心に言ひ知れぬ愉快を感じた。

華嚴瀧

此の一行は劍が峯の茶屋を出て、次第に山上へ登つて行つた、大平と云ふ處へ着くと、是れから華嚴の瀧壺へ降りる道があると云ふので、一同は車から出た。

車夫を案内者として、人人は險しい小徑へ歩いて降りたが、一つ足を滑べらせると谷底へ陷りさうな細い坂で、上から大きな岩が今にも頭上へ落ちて來さうに突出てゐる處もある、二三町降ると、右手に白雲の瀧が見える、此の瀧は水が流れて瀧となるものて無い、見上げる樣な絶壁の間から、巖を絞つて噴出するのである、幸の湖の水が地下を潜つて、此に沸き出すといふ事である、その水勢の岩に激して斜めに流れる勢ひは、宛ら白雲の騷驀く如くである、瀧の下流に架した木の橋を渡る時は、飛沫が霧の樣に身體へ濺つて寒さが膚に沁み渡る。

鳥鵠の橋を渡つて坂道を少し登つて行くと、大きな岩角を廻つた處に一軒の茶屋が見える、是れは五郎平茶屋と云つて、初めて瀧壺への道を開いた特志家の名によつて聞えてゐる、人人は岩根を傳はり木の根を踏越へて漸く茶屋の庭へ進入ると百雷の一時に落つる樣な音がして、立つてゐる地面が何處とも無く震動してゐる。

喜代子は思はず我を忘れて庭の先へ進んだ、お崎も驅け出した、叔母もお瀧も叔父といふ人も、緣臺に腰も掛けずに、茫然と立つて前面を眺めた。

太古混沌の時代に、如何なる鬼神が鑿ち成したかと思はれる樣な高い絶壁が、三方から蔽ふ樣に大きな簗を圍んでゐる、その絶壁の中央に、幾千萬年の昔から、此の谿の王者として鎭座する華嚴の瀧が雄大崇嚴の姿して懸つてゐる、遙に高き空間より流れ出づる一道の水は白い布を幾重にも垂らした如く、層層相重なつて、水の木理を露はしながら、眼まぐるしい樣に落ちて來る、途中から其水は裂けて碎けて飛散して、霧の如く烟の如く、或は白玉の如き小塊となり、或は圓き大塊となつて、殆ど眼の追ふ暇も無く、折り重なつて瀧壺へ落下する、廣さ幾十間とも知れぬ瀧壺から、反撥された水が、噴溢となり急霰となり雨となり霧となつて、餘沫は數十間の外に飛んでゐる。

瀧壺を窺へば、水は宛ら沸き立つ樣に、躍り上り巻き上り、岸に近い處は巴の樣に渦を成してゐる、底知れぬ深潭の色は紺碧にして薄暗い、蛟龍棲むか、魔が棲むか、何か神秘が此中に在る樣な心地して、思はず身の毛が慄立つて來る。

瀧の背後は水の爲めに掘り鑿たれてや、大きく弓形に窪んで、鐵色や銅色の色彩を帶びた片岩が鋸

の齒の様に削り取られ、今にも崩れさうに見えてゐる、崖の上の大木も宛ら灌木の様に小さく思はれて天は遠く地は低く、觀る人は殆ど奈落の底に居る様な感じがする。

喜代子は此の天地の偉大な壯觀に接して、氣も魂も奪はれた、姑の側にゐる事も忘れて了つた、叔父といふ厭な人のゐる事も忘れて了つた、平生の苦勞も將來の希望も心に思つてゐる事は何も彼も忘れて了つた、瀧の水は幾万年の昔から斯の如く流れて、幾万年の未來も亦た斯の如く流れるかと思ふと、朝露の様な人生が果敢無く思はれて、人間の誇りが消えて了ふ。

獨り喜代子のみで無い、趣味に乏しき伯母やお瀧も暫く惘然として此の大景に心を拍たれた様であつた、突然後方からお崎の聲で、

「喜代ちやん御覽なさいよ、瀧壺の上にあんな小さな鳥が澤山飛んでゐますよ、とんと蜻蛉の様ネー」

叔父といふ人は心得顏に、

「あれは岩燕といふもんだよ、普通の燕より大きくつて尾が裂けてゐないのだ、此から見ると遠いからあんなに小さく見えるけれども、側で見ると大きいよ」

岩燕は幾百千も群をなして、瀧壺の上を我物顏に舞つてゐる　此時まで空は曇つて、谿の中は薄暗く、物凄い様な景色であつたが、忽ち空が晴れたと見えて、崖の上から日の光が射し込んだ。

「マア綺麗だこと、瀧壺へ虹が出て」

お崎が叫ぶより先に、人人も皆な此の美觀を見逃さなかつた。

一點の汚塵も混へない空氣の中で、清く澄んだ瀧の水に映ずる虹の美しさ、溺した様な紫に、紅や黄色の濃く淡く、中央の色彩鮮明にして、人の目に眩ゆ程であるが、水烟の廣く霧の様に飛ぶ處は、虹の尾が朦朧と夢の様に消えて行く、颯と吹き下す風が水烟を動かすと、虹も共に移動して、キラキラと閃く麗かさ、暗かりし谿も夜の曙けた様に明るくなつて岩に蒸した苔の色まで鮮かに見えて來た。

喜代子は思はずも心の中で快哉を叫んだ、斯る天地の一大美觀を良人の源次に見せないのが惜しい様な心地がする、ああ良人と共に此へ來たら嘸や樂しい事であらうと、今迄忘れてゐた良人が急に懷かしくなつて來た。

叔母や　姑はいつの間にか茶屋の店へ入り込んで繪葉書を撰つてゐる、叔父といふ人は先に茶屋を立出でた、お崎は喜代子を促して、

「遲くなるからモー行きませう」

と舊と來た道へ駈け出した、喜代子はまだ興味が殘きない、一日でも此の瀧を見てゐ度い様な氣がして立去るのが懶かつた。

一同は再び山に登つた、腕車は大平の平坦な道を進んで密林の中を過ぎた、草の間に白百合がまだ咲いてゐる、お崎は大きな蔦蔓の大蛇の様に木へ纏絡てゐるのが珍らしかつた。

やがて中禪寺の湖畔へ出て、湖水に臨んだ米屋と云ふ旅屋に着いた。

二階の座敷へ通ると、お崎は蒲團へも坐らずに、廣い廊下へ駈け出して、湖水の景色を眺めたが、横眼に隣座敷を覗いてそつと室内へ戻つた。

「叔母さん、先刻の華族さんがお隣にゐますよ」

喜代子には懷かしい靜江夫人の聲が隣室に聞えてゐる。

（つづく）

小兒胎毒の話

醫學博士　加藤照麿

胎毒には三種の區別あり

何でも子供に發疹ができたり、皮膚病に罹つたりすると、總て胎毒だといひます。しかし、世間で一口に胎毒といふうちには、三つの種類があります。

第一は、乳痂といつて、體質によつて起るもので、乳汁營養が勝つてきます。頭に青い**カサブタ**が一杯できるもので、俗に**クサ**といふのがそれです。

第二は、腺病質または憐出性體質の子供にできるいろいろの發疹です。

第三は、遺傳梅毒です。

かういふ風に三つの區別があるのに、世間の人はこれを一緒に考へて、乳痂などができても、親に毒があるためでせうから、母親に藥を飲ませませうかなどといひます。しかし、これは大きな間違です。

乳痂を癒しても內攻せず

乳痂などができても、治療すると內攻するといつて、そのままにしておく人があります。すると、化膿のために毛根がとれてしまつて、成長の後に禿になります。これを癒すには、**カサブタ**をとつて適當の藥をつけます。そして、この病氣は、乳汁營養の勝つために起るものですから、少し早くから澱粉を食べさせるやうにしなければなりません。

腺病質のものは、身體を丈夫にして、その體質を根本から癒すことが必要です。

遺傳梅毒は、非常に重ければ流產しますし、それほどでなければ早產するし、輕ければ無事に生れて、出生後に兆候をあらはします。まづ主な兆候は、唇に裂創ができて、鼻**カタル**を起します。それも、鼻汁が出ないで鼻のつまる乾いた鼻**カタル**です。素人は普通の風邪かと思つて湯にも入れずにおきますがそれは大間違です。それに、方方の淋巴腺が腫れたり、口中が荒れたり、掌や足の裏に發疹ができたり、肛門の周圍がただれたり、身體の方方に發疹ができたりします。

遺傳梅毒の子には母の乳

遺傳梅毒は、輕ければ治ることもありますが、重いのになると、肉や骨にまで入つて、遂に生命を奪ふやうになります。

遺傳梅毒の子には、牛乳は宜しくありません。人乳が最も必要です。殊に、その生母の乳が最も必要なものです。昔は、母に毒があるから、子供にその乳を飲ませたら惡からうといふ說もありましたが、近頃では、免疫學の進歩した結果、母が梅毒でも、その乳は決して子供に害なきのみか、却つて有効であることがわかつて來ました。

しかし、人間の乳がよいからといつて、乳母をつけることは宜しくありません。毒のある子供に乳母をつけると、子供の口から乳母の乳房に梅毒を移しますから、注意しなければなりません。

小兒科醫の常に困ること

また梅毒の乳母を健康な子供につけると、乳房から子供の口に梅毒を移します。それゆゑ、乳母の選定はよほど大切なものですが、梅毒には潛伏期がありますから、乳母に梅毒があるかどうかを見出すことはよほどむづかしいのです。

妊娠中に梅毒の治療を受けると、生れた子供が毒を受けずに生れることがあります。

小兒科の醫師の困ることは、胎毒だといつて連れて來た小兒を診察してみて、梅毒である時、それを母親に打明けることもできず、また近頃の學問ある母親のうちには、ただ胎毒といふだけでは承知せず、もつと具體的に說明して下さいなどといはれるので、氣の毒ながら梅毒だと打明けることもあります。

夏の食物と飲物

櫻井女塾長　櫻井ちか子

❀夏は誰も食物の進まぬ時

總て食物は何品に限らず、その季節に適した材料と調理法とを選ばなければならぬといふことは、料理法のうちで最も大切な心得の一つでございます。美味しくさへあれば、春夏秋冬のうち何時食べても構はぬといふわけにはまゐりません。

折角手をかけて美味しい料理を拵へても、その材料や料理の性質が季節と合はなければ、思つたほど美味しくないことがあります。殊に、夏は一般に食事が進みませんから、料理をする場合に一層注意する必要があると思ひます。

夏季に適した食物といつても種類が澤山ありますから、限りある誌上では全部お話するわけにはまゐりません。ここでは日常の料理のうちで一番實用的で手輕にできるものを二三種と、外に果物の食べ方と、それから清涼劑としての飲物の造り方を二つ三つお話しいたしませう。或は皆さんの御參考になるかも知れませんから。

❀ライスカレイ

ライスカレイは本來印度の食物でしたが、次第に四方に擴まるやうになつたのです。さすがは熱帶國の料理だけに、夏の食物としては、身體の上にも、嗜好の上にも適してゐるやうに思ひます。

材料。肉（牛肉まとは鳥肉）一斤、人參（中ぐらゐ）一本、玉葱（中ぐらゐ）二個、馬鈴薯二個、茹玉子三個、**カレイ**粉小匙一杯、**メリケン**粉大匙凡そ三杯、沸湯凡そ六合、鹽茶匙摺切三杯。

製法。初めに肉と人參と馬鈴薯を刻んでおきます。鍋の中へは**バタ**か**ラアド**を少し入れ、火にかけて溶して煮立つたところへ人參と葱を入れて攪きまぜながら十分ほど煮ます。そこへ**カレイ**粉を加へて攪きまぜてから沸湯を加へ、同時に馬鈴薯を入れて、一時間半か二時間ぐらゐの文火で煮ます。それに食鹽を加へ、更に**メリケン**粉を粒粒のないやうに水で溶いてから、固まらないやうに攪きまぜながら鍋に入れ、一旦煮立たせて火から下します。次に茹玉子を細かく刻んで、その中へ混ぜ込んで、お膳につけるのですが、好みに依つては、醬油を少し加へてもようございます。またカレイ粉も、人の好みによつて多少加減をしなければなりません。

注意。**ライスカレイ**には附物として**サラド**か冷し豆腐の類を添へて出せばよいと思ひます。また**メリケン**粉を入れる分量は、通常の淡い葛湯ぐらゐになるのを程度とすれば間違はありません。この分量で十人前ぐらゐできますから、家族の人數によつて加減すれば宜しうございます。

* * *

❀牛肉と赤茄子の煮込

赤茄子を一分間ほど湯に浸けておいて、その皮をむいて四つぐらゐに切り、鹽と胡椒とを適宜に振りかけます。それを、肉の大切と共に深鍋に入れて、**メリケン**粉、**バタ**、砂糖を少しづつ加へ、それに玉葱を刻み込んで火にかけます。そして、肉が煮え、赤茄子も煮え潰れてしまふまで煮ます。それが煮えあがつたらば、肉を適宜に切つて、赤茄子の汁をかけて出すのです。

❀干鱈の玉子とぢ

材料。干鱈（軟くなるまで浸し細かくむしりたるもの）一合、茶椀一杯、牛乳一合、玉子一個（よく打ち混ぜたもの）

製法。初めに前の鱈と牛乳とを一緒に鍋に入れて文火にかけてよく煮立て、固まらぬやうに玉子を攪き交ぜながら加へて、直ぐ火から下して適宜に盛つて出せばようございます。

注意。 材料の鰹に鹽がきいてをれば、そのままでようございますが、若しあまり鹽てあれば、少し鹽を加へなければなりません。またトオスト（燒パン）を拵へて、それにかけて食べてもよいものです。これは淡白なものですから、西洋では多く朝飯に用ゐますが、日本食のおかずにしても、酒の肴にしても、チヨツとよいものです。

防風（草の名）の甘酢漬

製法。 まづ防風の大きな葉を取つて、小さな若葉ばかりを洗つてザツと茹でておき、別に酢と砂糖を沸かして冷してから前の防風を漬けておくのです。さうすれば、中の防風は甘酢を赤く染めて美しい色になります。これは、長く保存しておくことができますから、何時でも食膳に供することができますし、他の料理のあしらひにもなります。例へば、土當歸を短冊形に切つて水に浸してから、よく水を切つて右の防風にまぜて出せば、土當歸は淡紅梅色に染まつて美しく食膳を飾り、且風味を添へます。また五目ずしや膾などの飾にもなります。

防風は海岸の砂地に生える草で、濱邊に遊ぶ時など澤山摘んで來ても、その料理法を知らないために枯らすことがありますから、用法を說明したのです。

パインアツプル

パインアツプルは丁度松毬のやうな形で、普通大きさは夏蜜柑を長くしたやうなものですが、大抵は鑵詰になつたものの外、生で食べることを知らない方が多いやうですから、お話しいたしませう。

初めには皮を剝き取るのですが、黑い點のないやうに厚く剝かなければ澁味が殘ります。よく皮を剝いてから竪に二つに割り、中の堅い心を取出して、小口から一二分ぐらゐの厚さに切ります。そして、砂糖をかけて十分間ぐらゐもおきますと、結構な風味になります。夏の食料にはよいものです。

注意。 パインアツプルを買ふには、なるべく艷のある新らしいのを選ばなければなりません。

夏蜜柑

夏蜜柑は、橙や柚子などに次いで酸味の強いもので、何方の嗜好にも適するとはいはれませんから、美味しく調理しなければなりません。

初め小刀で横に二つに切つて、實と皮の間に小刀を入れてグルグルと廻して、中實を袋と共にえぐり取るのです。實を出した後の皮には緣に花形のやうな切目を入れます。そして、初め取出した實から種子と袋を丁寧に取除けて、實ばかりをもと通り皮の內に詰めて、一面に砂糖を振りかけます。次ぎに、中心のところへ葡萄のジエレイを花の心のやうに置きます。暫くたつと砂糖が溶けて蜜柑の汁が甘くなるから、その時に食べるのです。また苺のジヤミを心に入れてもようございます。

注意。 中實を、えぐり取る時にくづれぬやうにして、そつと袋を取り、もとのまま納めねばいけません。

三色漬

この三色漬といふのは、西洋ではフルウトサラドといひますが、日本では適當な名がありませんから、不便ながらこの名をつけました。

材料。 林檎、バナナ、夏蜜柑。

製法。 初め林檎の皮を剝いて竪に五つか六つに割り一一內の心を抉取り、一二分ぐらゐの厚さに小口から切り、次ぎにバナナも同じやうに皮を取り、一二分ぐらゐに小口切とし、夏蜜柑も皮を剝いて一一袋と種子を取除けて、小さくむしります。そして、この三種を一緒に器に入れ、砂糖を振りかけて暫く置きますと、砂糖が溶けて三つの果物の汁と混和しますから、美味しい味が出てまゐります。

この水菓子にはクラツカアか甘味の淡いカステイラのやうな菓子を添へて出すとようございます。

苺のジヤミ

まづ蒋のヘタを取つて澤山な水の中で洗ひ、よく水を切つてから、蒋一合に砂糖一合の割合で鍋に入れ、三十分以上煮詰めればようございます。

注意。砂糖は防腐劑ですから、長く保存するには砂糖が少なくてはいけません。もし砂糖が少ないと早く醱酵しますから、注意しなければなりません。直きに食べてしまふ時には砂糖が少くても構ひません。これを煮るには瀬戸ひき鍋に限ります。

❀夏の飲みもの

夏になると、何方でも咽喉が渇きます。そして、何か冷たいものか、あつさりした飲物が欲しくなります。中にも子供たちは一層咽喉が渇くために、毒な生水や露店などのよくない飲物を飲んで、お腹を悪くすることがございます。今私の平生用ゐてゐる清涼飲物を御紹介いたしませう。

一、蜜柑水。

材料。ポンス（橙類から製したるもの）

この飲料は、味が蜜柑のやうですから俗に蜜柑水といつてをります。このポンスは大抵の藥種屋に賣つてをります。一瓶十錢ぐらゐのものです。分量は、水一合にポンス茶匙に一杯ぐらゐの割合で、砂糖は適宜に入れて差支ありません。

二、稀鹽酸水

材料。水一合、砂糖大匙一杯、稀鹽酸二三滴。

製法。右の材料を皆一緒に入れて砂糖がよく溶けてしまふまで攪きまぜるのです。

注意。稀鹽酸が少しでも多過ぎますと、酸味が強くて却つてまづくなりますから、入れ過ぎないやうにしなければなりません。それには、初め稀鹽酸を箸の先にでもつけて水に加へ、次第に味を試みて掻きまぜて行くやうにすればようございます。

この飲料水は、家庭の飲物としては何方にもでき易く、また味もようございます。殊に、稀鹽酸は水の中の黴菌を殺す力のあるものですから、これを水に加へれば、水にあたる心配はありません。

大阪の婦人博覽會を觀る記

一記者

❀大阪人は遊ぶことが好き

惡口を申しては申譯がないが、大阪の人は非常に遊ぶことが好きですね。そして、始終、

『何か面白いことはないかな。』

と、遊ぶ工風ばかり考へてゐるやうにみえます。千日前や道頓堀の賑はしさはいふも愚か、天王寺公園に新らしくできた新世界の繁昌、郊外へ遊びに行く人が何時も一杯に乘込んでゐる市外電車の盛況、團體旅行や團體遊山の催しの引續きあること、何れも『大阪人の遊び好き』を正直に證明してゐるではありませんか。殊に箕面有馬電氣軌道會社の拔目ない

やり方は、東京あたりの人人の及びもつかぬほど機敏なもので、市外に新らしい町を作ることや、遊園地を開くことには、全力を傾注してをります。

❀博覽會見物に大阪まで

大阪の西北の郊外にある寶塚は、昔から溫泉て有名ですが、今度電氣軌道會社がそこに一大浴場を設け、**パラダイス**といふ遊び場を作つて、盛んに客を呼んでをります。しかも、それだけではまだ足りぬかして、今年三月末から『婦人博覽會』を開催したといふ噂を聞き、一つどんなものか覗いてみようと思つて出掛けたのは、去る四月中旬のことでした。

大阪の梅田から出る寶塚行きの電車は、車體が大きくて綺麗で、見るから氣持のよいものでした。新淀川を渡ると、左右一面に黃金花咲く菜畑、咽せかへるやうな柔かい花の香は、車の窓から親しげに入つて來ました。乘合の客は、大抵『婦人博覽會』行きの人か、沿道の農家の家族らしい人人でした。

女工の作つた藤の造花

三十分ばかりて、電車は寶塚に着きました。停車場を出て少し道を戻ると、白堊の門があつて、その前には、萬國旗が晩春の風に飜つてゐました。入口は誠に立派だが、浴場の入口と博覽會の入口とが一つになつてゐるには驚きました。入口のところは、呉服店や下駄屋の廣告陳列場です。帶を吉彌に締めた舞姫の人形を美しいと思ひました。

本館の入口のところには、ガラス張の陳列棚の中に女工と女學校の成績品が出てをりました。福岡紡績會社の女工の作つた造花の藤の花は眞に迫つてをりました。傍らの紙札の說明を讀んでみると、女工たちは、毎日執務の餘暇に一二時間づつ學問手藝を學ぶので、もとより完全な敎育を受けるわけではないでせうが、切磋琢磨の功を積めば、かくまで進歩するものかと、感心してしまひました。

ボオル紙で作つた家

三重紡績會社の木村ことといふ十九歲の女工が、女仙細細の美しい人形の着物を出してゐました。美しい柄のものでしたが、女工の製作品としては、あまり立派過ぎると思ひました。裁縫の手際を見せるつもりならば、木綿物か、せめてメリンスぐらゐに止めておいて欲しかつたと思ひます。同じ會社の山田まさといふ二十二歲の女工が合財袋を作つてゐましたが、これも見事なものでした。

麻田小學校の生徒の製作品として、ボオル紙の家の模型が出てゐました。二尺ばかりの小さいものですが、家具や調度まで殘らず揃つてゐるのには驚きました。田舍者らしいお婆さんが、臺所にある石炭を摘んでみて、これは紙ぢやない、ホンマの石炭やというたので、皆ドッと笑ひました。

屑布を集めて作つた敷物

大阪の育英手藝女學校の製作品として、花籠と、縮緬細工の大きな鯛とが出てゐました。見事なものには違ひないが、贅澤なものだと思ひました。

第一高等女學校の附屬女子手藝學校では、刺繍の半襟を出品してをりました。強烈な色を用ゐた華やかなもので、舞子にでも掛けさせたら美しからうと思ひましたが、これを作つた女學生方には、ゆめゆめ掛けていただきたくないと、神經質な記者は、その半襟の落着きどころが妙に氣になりました。

東江裁縫女學校では、校內に落ちてゐた小布を集めて作つたのだといつて、一寸か五分ぐらゐの小布を無數に集めた敷物を出品してをりました。曾て東京の成女高等女學校に催された廢物利用展覽會でも、同樣の品を見ましたが、女學校の出品としては最も適當な、また最も有益なものと思ひました。

乃木大將夫人の押繪肖像

汎愛裁縫女學校では、乃木大將夫人の肖像と、『出てましてかへります日のなしと聞く今日の御幸に逢ふぞ悲しき』といふ辭世の和歌とを押繪細工にしたものを出品してありました。

豫ねて關西の女學校では、手藝が盛んだと聞いてをりましたが、今度の女學校の出品をみて、その言の眞なることを知りました。しかし、あまり材料の立派なものや、ホンの贅澤な飾りものなどは、體裁はよいけれども、要するに無益なことだと思ひました。

そして、あまり立派な製作品に對しては、『大分お手傳が入つてゐるらしい』といふ失禮な憶測を免れることはできまいと思ひます。

臺灣の女の結婚の服裝

大阪博物館で出品した臺灣の女の結婚服裝は、珍らしい、美しいものだと思ひました。昔の御殿女中が使つたといふ簀入、煙管、はこせこなど、私どもの眼には珍らしいと思ひました。

大阪の女優が演劇に用ゐた鬘は、昔からの髪形の變遷を知るによい參考だと思ひました。

歷代婦人風俗として、奈良朝時代、鎌倉時代、室町時代、元祿時代の婦人の人形が出てをりました。中にも室町時代の扇賣の風俗は、清楚な、氣持のよいものと見ました。

何時の頃のものか、說明がないので解らなかつたが、昔の大きな羽子板が出てをりました。板へぢかに繪具で描いたもので、辨天樣か乙姫樣かの繪が、時の手に摺れて剝げかかつてをりました。

與謝野夫人の散らし書

その次に、與謝野晶子夫人の歌を散らし書きした二つ折の屏風が出てゐました。あまり細かく書いてあるので、トンと蜻蛉が飛んでゐるやうに見えました。そして、まん中に一首、筆太く大きく書いたのが妙に眼についてなりません。當代詩壇の第一人者にかう申しては失禮ですが、字の大きさを同じくらゐにして、もつと文字を疎らに書いてあつたら、一層引立つてあらうにと、素人眼には思はれました。

長磯の琴は、總金蒔繪の、それはそれは古雅な、結構なものでした。美しい振袖の姫君の玉手に觸れしめばなど、由なき空想を描いたのは、私ばかりではなかつたでせう。

高さ一尺もある女の枕

大阪朝日新聞の寫眞部の出品で、現代婦人風俗といふ大きな寫眞がありました。そのうちに、『新らしがつた女』といふ題で、**マント**を着て眼鏡をかけた婦人があつたのは、皮肉だと思ひました。

嘉永年間の藝妓の下駄といふのが出てゐましたが、幅三寸ばかりの細長い、鼻緒の恐ろしく太いもので、高さは七寸もありました。これが雨天の時の下駄ではなくて、天氣の時に穿くのだと聞いては、愈よ驚くの外ありません。その次に出てゐた遊女道中の下駄といふのは、それよりも更に高いもので、一尺ばかりもありました。

それよりも驚いたのは、天保時代に用ゐたのだといふ蒔繪の枕です。これは、高さ一尺もあるので、こんな枕をして寢たら、さぞ首が痛いだらうと思ひました。しかし、昔の婦人は、髪を大切にするといふところから、わざと苦しい思ひをしてまで、こんな高い枕をしてゐたものと見えます。

西洋人の書いた掛けもの

大阪の青年畫家が古烈女名婦を題材として描いた繪は、いかにも上方式の氣分のあらはれた、ゆツたりした筆つきだと思ひました。中には可なり上手なのもあつたが、恐ろしく拙いのも眼につきました。化學者の見たる婦人と題して、婦人の服裝を化學的に解剖してあるのは、よい思ひつきと思ひました。かうして笑ひのうちに科學の知識を授ける方法は、近ごろ大分進歩して來ましたが、まだまだ十分とはいはれません。殊に、婦人は、科學の知識に乏しいといはれてゐるくらゐですから、かういふ思ひつきを一層進歩させたいと思ひました。

信愛高等女學校の生徒の**ストゲン**とかいふ西洋婦人が唐紙に詩を大書したのが出てゐましたが、西洋人とは思はれぬほど立派なものでした。夕陽丘高等女學校の四年生の高田治子の書は、男子も及ばぬ雄渾なもので、皆が見惚れてをりました。

濃艶な紅屋の繪看板

大阪の電話交換局の交換手の製作品が出てゐましたが、中に、島成園そつくりの畫が出てゐたのは、可笑しく思ひました。

記者と同行した青年畫家の水島君が垂涎三尺して喜んだのは、慶安時代の紅屋の繪看板でした。強い明

るい色と太い線とを用ゐて、その時代の婦人の半身像を描いた丸い板看板で、實に濃艶な、それこそ晶子夫人の歌にでもなりさうなものでした。

德川時代の櫛といふのは、幅三寸、長さ五寸ぐらゐの非常に大きなもので、見るからに頭痛がしさうに思はれました。鴛鴦の形をした蒔繪の櫛、看板のやうな大きな簪、皆珍らしく思ひました。

❀名工の手に成つた家具

京都の宮崎平七氏が出品した新婦の書齋飾といふのは、實に凝つたもので、机から茶器に至るまで、悉く當代第一人といはれる名工の手に成つたものださうです。宮崎氏は京都の有名な家具商ですが、この人ならでは到底集められぬと、その道に精しさうな人が話してをりました。

その前に、直徑三尺ばかりの大きな鏡が出てをりました。元祿時代のものださうです。

緒方醫學博士の考案されたものだといふ小兒の、香枕といつて、箱形に細い孔を幾つか開けた枕が出てをりました。これは、その箱の中で香を焚いて寢ると、いい匂ひがするばかりか、髮の中にまで匂ひが移るといふので、昔のしやれものが專ら用ゐたものださうです。これも、文金の高髷が、昔風のお下げ髮ならよいが、ダイヤ入の櫛をさした束髮では誠に不釣合だと、見物人の一人が笑つてをりました。

❀失敗に歸した表情寫眞

大阪女優養成所の出品として、女優生徒表情寫眞といふのが陳列してありました。恐れ、悲しみ、喜び、あこがれなどと、題はついてをりましたが、あまりそれらしく見えなかつたのは、どういふものでせうか。舞臺での表情は幾らか極端にせねばならず、また極端にしても可笑しくはありませんが、かう寫眞になつてみると、いかにも態とらしくみえて、折角の思ひつきも無意味に終つたやうな氣がします。

一體に、今度の『婦人博覽會』は、決して成功といふことはできません。場所は狹いし、廣告的のものが多いし、說明の不完全なのが缺點だと思ひました。殊に、主任者某の不遜な態度には、新聞記者が悉く同盟反對を企てたくらゐださうです。

❀嬉しかつた箕面の動物園

しかし、一會社の事業として、殊に、大阪の郊外に婦人博覽會を開催した大膽なやり方には、只管敬服の外ありません。慾には、もう少しかういふ仕事に趣味を持つた人の手によつて、もつと秩序正しく、もつと整頓したものを開くことができたらば、更に一層有益であつたらうにと、殘念に思ひました。寶塚から引返して、電車で箕面へゆきました。その動物園は、山の形と溪の姿とをそのまま利用して作つたものですから、東京の動物園などよりは、見た眼には非常に興深く眺められました。寶塚で少ながらず興奮した神經は、箕面山の新綠によつて忽ちに鎭靜せしめられたやうに感じました。

また、抱蒲團、三角おしめなどが出てをりました。何れも重寶なものですが、東京あたりでは隨分家庭で用ゐてゐますから、珍らしいものとは申されますまい。それよりは、大阪朝日新聞の辻村秋峰君の考案された『小さき理想の臺所』といふのが、なかなかよくできてゐると思ひました。しかし、それは部分部分によくできてゐるので、一つの臺所としてはまだまだ排列や位置に一層の考案が必要であらうと思ひました。

❀村井弦齋夫人の料理用具

村井弦齋氏夫人の出品として、西洋料理用の器具と、その寫眞とが體裁よく陳列してありました。さすが料理界に名ある方とて、その材料の豐富なのには、誰も彼も驚いてをりました。

御俵公人形といつて、丸い顏の人形が出てをりました。その說明によると、武官の娘が嫁入の時に、乘輿の中で抱擁するものださうです。

實說不如歸

つゆ子

『大山公爵夫人と繁子』

浪さんのお母さんが亡くなられたのは、浪さんの八歳の時で、小說のうちにも、

『浪や、阿母は遠いところに行くからね、おとなしくして阿爺を大事にして、駒ちやんを可愛がつてやらなければなりませんよ、もう五六年……。』

といつて、浪さんの頭を撫でて永眠したとあります。それから一年ほど過ぎて、後妻の繁子夫人が來ました。

『……三十九の丈高き婦人なり、束髪の前髪をきりて、綾らしたるを、隘き額の上にて二つに分けたり、やや大なる眼少しく釣りて、何處やら險あるところあり、地色の黒きに薄つすり刷きて、唇を漏るる齒は、眩ゆきまで皓く艶きぬ。』

これは小說中にある繁子夫人の風采ですが、大山公爵夫人捨松子の方に、よほどよく似通うた點があります。

『西洋風を喜ぶ繁子夫人』

私も他處ながらお眼にかかつたことがございますが、公爵夫人は、お眷の高い、お眼のきりりとした方で、房々した厚いお髪の前を惜し氣もなく短く縮らして、丈に餘る黒髪を無雜作にぐるぐる卷いていらつしやいました。

『繁子夫人は、長州の名ある武士の娘にて、久しく英國ロンドンに留學してゐたため、英語は大抵の男子も及ばぬほど達者で、何事いふ方ですから、お子さん方でも、大人しい內氣な性質の人よりは、快活な性質の人をお好みになることは申すまでもありません。

片岡中將夫人繁子の方も、男勝りの女丈夫といふやうな方で、片岡子爵に對しても遠慮なく議論をするので、中將は何時も笑ひながら、

『よしよし、乃公が負ぢや、負ぢや。』

といはれるのが常でした。繁子夫人は、活潑な駒子が好きでしたが、內氣な浪子をば、

『本當にあの子はさツぱりしたところがないいやに執念な人だよ。』

といつて、押隔てました。さなきだに氣の小さい浪子は、取りつく島もなく、窓掛の蔭に泣いては心を慰めてをりました。

かうしてみますと、子供を可愛がる可愛がらぬは別として、小說の片岡夫人と、**モデルに擬せられた大山公爵夫人**との性質に、多少符合してゐる點のないでもありません。

『九歳の時に繼母を迎ふ』

次に浪子の方を調べてみませう。前にも申しましたやうに、浪子が八歳の時、お母さんに別れて、それから一年ほど經つて繁子夫人が來たとありますから、丁度浪子が九歳の時に繁子夫人を迎へたのです。

戶籍謄本を見ますと、明治十七年一月四日入籍とあります。信子は明治十年生ですから、その時は數へ年の八歳です。これは小說とは少し違つてをりますが、お母さんが亡くなつてから一年ばかり經つて後妻を迎へたといふのは事實だといふことです。

信子の妹の留子は、明治十五年七月生ですが、お母さんは、この留子を產んでから、產後の肥立が惡くて、同じ年の十一月に亡くなられたのだといふことです。

『東京女學館時代の信子』

信子やその妹たちは、お母さんに別れて、悲しい涙のまだ消えやらぬうちに、更に新らしいお母樣として捨松夫人を迎へました。かくて捨松夫人の膝下に淋しい月日を送つてゐる

（第八卷第七號）（八四）

によらず西洋風を重んじ、家政の整理、子供の教育などまで、皆洋風を好んだ。』

とあります。

大山公爵夫人は、薩會津藩士男爵故山川浩將軍の令妹で、長州ではありませんが、有名な武士の娘であるといふことは一致してをります。捨松夫人は、八歳の時、振袖姿で、津田梅子女史や、瓜生大將夫人と共に、米國に渡つて、紐育のボツケプシイ女學校で教育を受けられた方です。日本婦人が西洋に留學したのは、これが初まりでございませう。

『內氣な浪子は嫌はる』

少さい時から西洋の空氣を吸つてをられたゞけに、公爵夫人は、隨分氣の勝つた、快活な方だといふことです。世にいふ華族の奥樣方のやうに、窓深く閉籠つておいでになるといふやうな方ではなく、お一人で電車に乘つてお買物にお出掛けになるなどは普通のこと、お客來の時などは、御自身で廊下に出て、オイオイと女中をお呼びになるさうです。かうして捨松夫人を迎へました。かくて捨松夫人の膝下に淋しい月日を送つてゐる

（第八卷第七號）（八五）



大山元帥　大山夫人　三島子爵　大倉喜八郎氏

うちに、信子が十二歳の春となりました。この時、赤坂見附の今の閑院宮邸のところに、現に虎の門にある東京女學館が開校されました。今から二十何年も前のことですから、勿論今日ほど女子教育は盛んでなく、女學館に入學する生徒も極く少なかったといふことです。殊に、この學校は身もと調べがやかましくて、宮家のお姫樣方とか、華族の令孃とかの外は、一切入學を許さなかったといふことです。學校は、高等小學校と、高等女學校との二つに分れてをりまして、高等小學校ともいふべき方には、十歳ぐらゐからの令孃が入學して、この方には寄宿舍の設けがあり、大抵は寄宿をしてをりましたさうです。

信子も、捨松夫人の計らひで高等小學校の方に入學して、寄宿舍に泊つたり、青山の大山家から伸ばかり通つたりして、一年ばかり在學してをりました。

『顏の蒼い弱弱しい娘』

その頃、女學館には西洋人の教師が八人ばかりゐて、凡てをやつてをりました。當時同校に勤めてゐた人の話によりますと、

『東京女學館に通つてゐた頃の信子は、小說に出て來る浪さんのやうな弱弱しい人で、非常に優しい子供さんでした。十二三歳といへば、活潑な遊び盛の年頃ですのに、信子は始終人の蔭に隱れて、小さくなつてゐるといふ風でした。顏色の青白い、大きな瞳ではものもいへないやうな人でした。』

といふことでした。こんな子供ですから、同級の誰彼に、

『大山さんはお母さんがお造ひになるから、大變な苦勞をなさるんで、それであんなにおとなしいのですやう。』

などと噂されたとやら。かくて一年ばかり在學してゐるうちに、病を得て學校を退いてしまはれました。

『小說では華族女學校』

信子が女學館時代には、松方侯爵の令息乙彥氏夫人登美子（山本總理大臣令孃）や、川崎乙彥夫人は、信子さんとは非常にお親しかつたさうで、それに遠緣に當つてゐるとかいふから、あの方がきつと千鶴子でせう。川崎夫人は、舊姓を鄕幸子さんといつて、新男爵の娘さんですが、良人の川崎金三郎氏は銀行家で、三島子爵とはよく御交際をなさるし、それに成金といふ風の方ださうですから、川崎夫人がお豐ではないか知らんなんて、女學館ではよくこんな噂をしてゐました。』

といふことを聞きました。また或る人の話に

『大山家には「開けずの室」といつて、信子さんと信子さんとのお母さんの死んだお部屋があるさうですが、誰にも見せないんですつてねえ。それに、信子さんが亡くなつてから、まだ一度も開けたことがないさうですよ。』

しかし、これは世評に過ぎないことだらうと思ひます。けれど、「開けずの室」といふことは私も二三度耳にしたことがありますから、或は本當かも知れません。

『實說に近き小說の大團圓』

しかし、川崎夫人をお豐とは、あの評判のいい夫人に對してお氣の毒でもあり、また鄕男爵家とも、川崎家とも、山木兵造家とは大分かけ離れてをります。

山木兵造とは大倉喜八郎氏のことで、お豐は今の大倉粂馬氏夫人とき子（喜八郎氏令孃）だといふ說もあります。小說中に、お豐は法學士に嫁ぐとありますが、粂馬氏は法學士でなくて工學士です。そして、その二男の名が豐治郎といふのも妙ではありませんか。

三島子爵家に親しく出入する人の話に、

『小說のうちに、浪さんのお葬式の時に川島家から花を贈つたのを、片岡家が怒つて突返したとありますが、信子さんのお葬式の時も、三島家から花を贈つたのを、大山家では突返されました。』

といふことでした。これが事實だとすると、小說不如歸と實說不如歸とは、いよいよ符合するやうになつてまゐります。（をはり）

（第八卷第七號）（八七）

（第八卷第七號）（八六）

銀行頭取川崎金三郎氏夫人幸子（男爵鄕誠之助氏令妹）などが同級でいらつしやいました。不如歸の浪さんは、華族女學校の卒業生といふことになつてをります。小說のうちに伊香保へ新婚旅行をした時の物語に、

『浪さんなんざ東京の土を踏んだこともあるまい。』

といはれて、

『まあ、あんなことを。』

と、ニツコリ顏を赧らめ、

『それでも學校では體操もいたしました。』

『ふふふふ、華族女學校の體操ぢや仕方がない、さうさう、何時だつけ參觀に行つたら、琴だか何だかコロンコロンやつて、一方で「地球の上に國はいふ國は」何とか歌ふと、皆んなが扇を持つて起つたり踞んだりグルリ廻つたりしとるから、踊の溫習かと思つたら、あれが體操さ、あははは。』

『まあ、お口が惡い……。』

と、二人で笑ひました。しかし、東京女學館でも、こんなことであつたかも知れません。

『父公爵に愛された信子』

前にも申しましたやうに、信子は、非常に身體の弱い人で、怜悧な大人しい娘さんであつたさうです。信子の實母といふ人は、大山公爵には大層愛された人で、その母さんに生き寫しといはれた信子は、大勢の姉妹のうちで最も父公爵に可愛がられたといふことです公爵が外からお歸りになると、澤山お出迎ひする子供のうちから、まづ第一に皆の後の方でしとやかに控へてゐる信子を見出され、

『おお、信か、父さんの前へ來い。』

と、大きい手で靜かに背を撫でられるのが常でありました。これは、信子が病氣であつたためもありませうが、公爵が口癖のやうにいはれる信信といふ言葉は、いたく捨松夫人の氣に障つて、信子につらく當つたといふ說もありますが、これは何うでせうか。

『加藤千鶴子と山本お豐』

虎の門を卒業した人の話に、

私の朝の二三時間

拭掃除を自らする

嘉悦孝子

私は、日曜日の外は毎朝五時に起きます。私のところには十人ぐらゐの苦學生が絶えず起臥してをりますから、この人たちに知らせるために、毎朝五時には學校の小使がベルを鳴らします。私は、平生このベルよりも早く起きたいと心がけてをりますが、前の晩に遲く起きてゐたりすると、ベルが鳴っても知らずに寢てゐることがございます。そして、私より先に起きた人が雨戸を開けるのに驚いて起きることがございます。今朝は何うしたのか、幸ひ五時五分前に起きられました。

❀起きると學校へお掃除に

寢具は、平生そのまま疊んで押入へしまひます、疊み方は普通の方のと變りません。それが濟みますと、直ぐ學校の方へ掃除に參ります。二階と、二階の下の廊下全體と、教室のうちで通學生が掃除しない室がありますが、その室と、應接間、その他を合せて七ケ所ばかりの室の掃き掃除から雜巾がけまでいたすのでございます。

掃除をする人は、苦學生を入れて十人以上もございますから、三十分ぐらゐで濟みます。雜巾がけをすることがございます。

❀時間の長短で髷の形が變る

そのかはり元結は毎日一本しか使ひません。今日根をグルグルと巻いた元結は、その翌日髪を解く時に結び目だけ切っておきますと、その日の前髪を結ぶ時に用ゐるくらゐの長さは取れますから、それで前髪の毛を結へます。

根を纏めた時にもう時間がなくなつて、ゆッくりしてゐることができないと思へば、形も構はず、髷をグルグル巻にして、ピンで止めておきますが、時を見て、もし時間に餘裕があれば、髷らしい形を拵へて、四本のピンで止めておきます。

時時は、この鏡に映つてゐる時計を見違へたりなどして、六時にまだ二十分もあるのに、もう二十分も過ぎてしまつたのかと思つて、あわてるやうな滑稽もございます。

❀洗粉は有合せものを用ふ

時は全部水を用ゐますが、井戸水ですから、冬でもさう冷たいとは思ひません。それに、一生懸命に働きますから、寒いと思ふことはありません。

❀鏡に時計を映して髪あげ

私の部屋は、學校へ行かないで自宅の方を掃除する人が綺麗にしておいてくれますから、歸つて來ると直ぐ自分の部屋で髪を結ひます。

私は、髪を結ふ時には、鏡に時計を映して、時間を見ながら結ひますが、十分前後でで上ります。御承知でもございませうが、學校は埃が澤山たちますから、極まつたやうに、櫛巻を入れて、元結でキチンと結へます。その結へ方は、一日中いくら身體を動かしても解けないやうにしておきます。

よく他所の方は、紐で髪を結へるとか、紙撚を用ゐるとかいはれますが、私は何うしてもさうすることはできません。さういふもので結へると、直ぐ根が拔けて來るので閉口します。

それから、歯を磨いて顔を洗ひますが、雑巾がけにさへ水を使つてゐるくらゐですから、お湯などを用ゐることは殆んどございません。どんな寒い時でも、水ばかり使つてをります。

洗粉は、別にこれと極まつたものを使つてをりません。何時も有合せのものを使つて間に合せてをりますが、それも、僅かの時間に濟ませます。

それが濟むと、急いで袴をつけますが、それで一先づ片がつくのです。その間は一時間と定めてありますが、さう行かぬこともございます。凡てのことが六時までにキチンと終れば、その日は一日心持がようございます。

❀教場で教へることに反く

かうしてすつかり仕度ができると、六時から六時三十分まで、三十分間習字をすることにしてをります。この頃は繪を習つてをりますが、繪もこの三十分間に習はなければなりませんから、自分ながら感心ほど忙しうございます。ですから、平生部屋はよく片づけておかなければならないものだと教へながら、私の部屋には筆洗や硯が机の上に出しばなしにしてあります。そして、それは決してしまつてくれるな、今度探すのに暇がとれて困るからと、掃除する人に豫め頼んでおきます。

❀新聞は重要記事のみ讀む

尤も、朝飯前に繪を習ふ時には、チヨッと菊の葉なり花なりを、習字筆で書いておくだけです。そして、一週一度の稽古日に度度習ふやうにしてをります。繪を習ひ始めてからは、繪の上へ字を習ふので、お草紙を二重に用ゐてをります。そして、もう少し習ひたいと思つてゐるうちに朝飯になります。

六時半には朝飯を食べます。それから四五種の新聞の標題に眼を通して、主要な記事だけ讀みます。手紙や葉書の類も、その日に來たものは皆讀んで、七時半から學校の方へまゐることにしてをります。

良人の代に新聞を讀む

法學士吉崎龜之助氏夫人　吉崎李枝子

記者曰く、夫人は關西の社交界の花形といはれるお方です。御縹緻がお美しい上に、御交際が廣いから、吉崎さんといへば知らぬ人はございません、學校はお茶の水の出身で、英語、漢學を始め、歌澤、長唄、三味線、諸曲、鼓などの遊藝まで御熱心で、多能多藝のお方でございます。しかも、お家の内は非常に規律正しく整つてをります。

❀女中のお掃除を見てやる

この頃は、朝起きるのは大抵七時ぐらゐになります。それから着物を改めて、ザッと顔を洗ひます。歯は上下に磨きますが、歯磨粉は、よその方に頼んで拵へてもらふので、別に名前はありませんが、薄荷が餘分に入つてゐて心持がようございます。それから、女中が掃除するのを見てやつて、惡いところがあれば直させます。掃除が濟むと、から拭をいたしますが、それは私の役目になつてをります。から拭が濟むと良人の御飯の仕度をいたします。同じものだと飽きますから、一週間ぐらゐていろいろに取換へます。例へば、この週間はハムと牛乳とパンとコオヒイだと、その次ぎの週にはスウプとハムと鰯の鑵詰を添へたり、または日本食の御飯に味噌汁を出したりします。

❀新聞は良人のために讀む

スウプの加減を見たり、お茶を焙じたりしながら、その日の新聞に眼を通します。大坂市内の新聞は皆まゐりますが、初めに大きい新聞を一つ二つ見ることにしてをります。第一に眼を止めるのは來往の欄で、知合の方が來られはしなかつたかと探します。そして、知合のお方の名が出てをれば、朱で記號を

つけておきます。

それから、主人の職業の辯護士のこと、主人の關係してゐる事件のこと、または知合の方のことなどが出てはゐないかと、一應調べて見ます。そして、序に天氣豫報もチヨッと見ておきます。

私が新聞を讀むのは大抵夜分ですが、主人は非常に忙しいので、夜も遲くなり勝ですし、從つて朝寢坊をいたします。そこへお客樣があつたり、または急いで裁判所へ參らなければならないので、新聞を讀む間がなくなることがございます。

私は、それではよくないと思ひまして、主人が知つておかなければならぬことを、主人が起きるまでに調べて、記號をつけておくのでございます。これは、どんな日にも忘らずにいたしますが、主人はそれを重寶だといつて喜んでをります。

❀毎日朝湯で體を綺麗にす

そのうちに、お湯が沸きますから、入浴します。私は、毎日朝夕二度づつ入浴することにしてをります。朝は何うしてもお掃除で汚れますから、そのままでは心地が惡うございますから。

身體を洗ふには、**キユウチクラ**といふ極めて刺戟の少ない舶來の石鹼を用ゐます。その他には糠も洗粉も使ひません。手拭は、使ひようございますから、柔かな三巾金巾に極めてをります。

お湯から出ると、髮を掻き上げます。髮は四五日に一度づつ洗ふことにしてをりますが、それは大抵七時半か八時ごろて、お湯に入る前です。

❀化粧品は使ひ慣れたもの

お湯から出るとお化粧をします。世間では私をおしやれのやうにいつてゐますが、さう手の掛ることはいたしません。白粉をつける前に、白粉下として、長い間使ひ慣れてゐる小町水をつけます。

それから、大學練白粉を小町水で溶かして摺込みます。白粉は、上にチヨッとつけるだけではダメです。しかし、一枚の着物ばかり着るのは德用ではございません。骨惜みをせずに洗濯をすると、二倍も三倍も持ちます。私は一枚の着物を十五日より長く着たことはございません。

❀掛蒲團は私が染めたもの

私どもの敷蒲團はうこん木綿ばかりて、掛蒲團は大巾の輸出羽二重です。この羽二重は私が染めたので、主人のは手綢絞で紫、私のは赤でございます。綿はパンヤの綿と日本の普通の綿を交ぜて入れます。疊む時には敷布の表を中にして、夜具を一一包ませて押入の內へしまひます。その敷布といふのは、柔い三巾金巾で、一週に二度づつ煮ては洗濯することにしてをります。

敷蒲團も月に二度ぐらゐづつ綿だけ取つて、袋だけを粉末石鹼で煮て洗濯します。うこん木綿だから色がさめても、宅で造作なく色上げをすることができますから便利です。

よく摺込まないと直ぐくづれます。

白粉や化粧水を、あれがいいとか、これがいいとかいつて取換へる人がございますが、私は、長い間使ひなれたものが一番肌に合ふやうに思ひます。小町水も、これが他の化粧水より勝れてゐると思ふのではございませんが、長い間使つてゐて私の肌に慣れてゐるから使つてゐるだけです。

❀お召は一番德用なもの

顏も髮も綺麗になりますと、不斷着に着換へます。不斷着は外出着の惡くなつたのを下しますから、不斷着として拵へたことはありません。それですから、地質はお召や大島絣で、他のものはございません。平生お召を着るといへば贅澤なやうに聞えますが、實はお召が一番德用なやうです。世間では銘仙が德用だといひますが、この頃の銘仙は弱くなつて、お召には及びません。私は、一枚のお召を十年ぐらゐ着ることができると思ひます。

冷水摩擦を勵行す

法學士鳩山一郎氏夫人　鳩山薫子

私どもの寢室は二階て、私は寢臺に子供を抱いて寢ることにしてをります。朝は六時少し前に眼が覺めますが、その頃は子供は大抵眠つてをります。仕方がありませんから、子供が眼を覺ますまで靜に床の中に入つてをります。

子供は、この頃百日咳に罹つてをりますから、なるべく風に當てないやうにしてをりますが、さうでない時は、眼を覺ますと直ぐ女中を呼んで、靜かに雨戸をあけさせます。同時に寢室の硝子戸も少し開けさせて、朝の新らしい空氣を室内に入れます。

子供を連れて洗面所へ

そのうちに子供が眼を覺ますと、私は直ぐ起きて、初めに、顏、襟、腕などを石鹸をつけてザッと洗つてから、手拭を搾つて身體全體を拭きます。この冷水摩擦は、十年以上も續けてをりますが、今では一日でも怠けると非常に心持が惡うございますから、大抵な日はいたしてをります。

食堂へ行くのは八時ごろ

それが濟みますと、今度は自分で髪を結ひます。髪は毎晩寢る時に解いておきますから、朝は何うしても結はなければならないのてす。これも、私の長い間の習慣でございます。

髪を結つてしまひますと、直ぐ子供に着物を着替へさせます。次ぎに自分も着替へて、その次ぎには良人の外出の仕度をいたします。

良人の仕度ができますと、私は、子供を連れて階下へ下ります。そこて、子供は子守に任せてしまつて、私どもは、食堂へまゐります。時間はしつかり極まつてをりませんが、大抵八時頃になります。

寢衣の上へ何時も用意しておく綿の入つた羽織を着て、それから子供を起します。

かうして、私の起きるのは毎日六時から六時半までの間てす。時時、良人の方が私よりも早く起きることもございますが、これは子供ができてからです。起きると直ぐ、子供をつれて洗面所へまゐります。私どもの洗面所は寢室の前の廊下に設けてあります。そこて、子供に先きへ顏を洗はせて、それから私が洗ふことにしてをります。

冷水摩擦は十年以上繼續

子供は齒磨粉なしに楊子だけを使ひますが、私は、醫者の勸めに從つて、長い間モデル齒磨粉を使つてをります。顏を洗ふには、子供も私もお湯を用ゐません。年中水ばかりてす。

それに、朝は忙しうございますから、洗粉や糠は用ゐる暇がございません。いつも手輕な石鹸ばかり使ふことにしてをります。

晝は野菜畑で百姓の眞似

食堂には毎朝來る新聞や郵便物が揃へてあります。良人は食事が濟むと、それに一通り眼を通してから外出いたします。私が新聞を讀むのは、良人が外出してから、子供にお乳を飲ませる時てすから、大抵九時頃になります。

朝の運動や深呼吸は、よいと思ひましても、子供が二人もあつては怠け勝になるだらうと思つていたしません。その變り、日中になれば、毎日のやうに催かばかりの畑へ出て、慰み半分に鍬を取ります。寢室の始末は、私はいたしません。私どもが朝御飯を頂いてゐるうちに女中が取片づけることになつてをります。寢床は、前にも申しました通り、寢臺ですから、日本の床のやうに蒲團をたたむ必要がありませんから、手輕なものです。大抵そのままにして風に當てさせますが、時時は緣側へ出して日にあてることにしてをります。

座敷の隅を掃く役

法學士林龍太郎氏夫人　林よね子

記者曰く、大坂の林龍太郎氏夫人は東京女子高等師範學校の出身で、兩三年前に御良人と共に一年あまり外國を漫遊せられた見聞の廣いお方です。お子さんは四人で、上の三人がお嬢さん、末が坊ちやんで、今年五つでいらつしやいます。

眼を覺すと子供にお伽噺

子供がありますから、つひその方へ氣を取られて不規則になり勝でございます。

朝眼をさますのは五時頃でございませう。子供は夜分早く休みますから、朝は早く起るので困ります。そして、お話などしてゐるうちに六時を打ちますと、婆やを起して子供を預け、續いて私も起きます。起ると直ぐ顏を洗ひます。私は、年中水ばかりです。極寒でも冷たい水の方が心地がようございます。この習慣は、學校の寄宿舍にゐた時についたのです。寄宿舍では、お正月の元日と卒業式の朝だけはお湯をくれますが、あとは氷を破つてでも水で洗ふことに極まつてをりました。

私がさういふ風ですから、子供も水で顏を洗ふことになつてをります。

齒磨粉も洗粉も皆クラブ

それから冷水摩擦をしますが、これも學校にゐた時からの習慣で、一日でも休めば心持がよくないやうに感じます。主人は毎朝冷水浴をいたします。寒中でも水道の水を用ゐますから、隨分冷たいことでせうと思ひます。

齒磨粉はクラブで、齒は上下に摩ります。日本人は齒を磨く時に普通横にこすりますが、あれでは齒の間に入つたものは取れません。齒は、朝晩二回づつ

此廣告を見て御申込の方は必ず婦人世界愛讀者なる旨御申添を乞ふ

子寶！子寶！

何と云ても婦人の命！家庭の花であります。

お子さんは



昔から子寶と申して、上下共推統べて、子供が一番大事の〳〵寶である事は今更申す迄もありません。折角平和な家庭でありましても、若しこの子寶がなかつたならば、それこそ火が消えた樣に淋しく心細う御座いませう、横濱市岩竹町一安藤せい子夫人は、怜來至つて御病身でありまして一人のお子さんもなく、味氣なき月日を送つて居られましたが、幸に女一代の衛生と云ふ書物を御讀みになりましたお蔭で、萬金にも替へられぬ子寶と、權力で得られぬ健康とを授つて、人としての最大の幸福に浴して、此可愛い坊ちやんは安藤樣の御子息さんの御居られます寫眞でムいますが、何んと云ふ、可愛らしいお坊ちやんて御座いませう。

女一代の衛生は東京築地新栄町一徳岡省三郎御申込になれば無代進呈致します

此廣告を見て御申込の方は必ず婦人世界愛讀者なる旨御申添を乞ふ

第五回 新學期開始 校外生募集

女子大學家政講義

入會の最好機會○入會金を全免す

獨學者の良師友としてと本講義を天下に推薦す

毎日通學せる日本女子大學の程度を卒業し得る便法として此講義錄あり

講師は都下第一流の女子教育大家にて

全科卒業貳個年程度は高等女學校三四年級位ふり假名付註釋平易簡明

講義錄は毎月二回五日廿日發行

半年二圓八十錢 一年五圓四十錢 一冊凡百六十頁位

月謝五拾錢

見本は會則次第無代進呈

學科目及講師

○修身講話 諸名士
○教育大家 成瀬仁藏
○實驗心理學 文學博士 松本亦太郎
○兒童研究 法學博士 高島平三郎
○家庭 社會衛生 醫學博士 三宅秀
○經濟 文學士 中島半次郎
○法制大意 文學士 奥田義人
○家事 家庭理 事 近藤井上
○作法 小笠原清務
○日本料理 笹木辛子
○洋裁縫手藝 櫻楓會研究部
○西洋かね手藝 兒島晩翠
○挿花 佐々木祐太郎
○家庭園藝 農學士 大橋ひろ子
○自然研究 文學士 武島羽衣
○美文評釋 文學士 下村莫
○科外講話 女子演劇歐劇結婚問題家庭衛生問題

申込所 東京神田區鍛冶町大通 電話本局 三三八三番 四三九七番

精美堂 振替東京二八三八番

女子大學校通信教育會 東京小石川區目白臺

■本書は家庭和樂の源泉也■

新刊

名花寫眞圖說

松方侯爵・貴族院議員 小牧昌業題 東京府立農事試驗場長 難波農學士・梅邑右源治君序・森田喜平君共著

菊判上製 定價 郵稅 美本十六錢

發行所 東京南紺屋町 實業之日本社 振替貯金口座 東京參武六番

目次一斑

△水仙 △千鳥草 △睡蓮
△葛 △勿忘草 △罌粟子
△藤牡丹 △百合 △金鳳草
△美人櫻 △金魚草 △虞美人草
△芍藥 △旋蓮 △普賢象
△竹 △蜀葵 △草夾竹桃
△牡丹 △三色菫 △天人菊
△翠菊 △金盞花 △松葉菊
△石竹 △矢車草 △カンナ
△水仙翁 △金魚草 △大岩蓮華
△香菫 △西洋蘭 △アネモネ
△ストック △グロキニア △アカパンサス
△シクラメン △アマリリス △アグラオネマ
△ヒヤシンス △フリージヤ △アリストロヘヤ
△ベゴニア △花園の造り方 ▲花壇の造り方

盛りいみじき海棠に
灑ぐもおもし春の雨
花のうらみか喜びか
問はんとすれど露もだし
聞かんとすれど花いはず

草花に關する書類は澤山ありますが、或は單に冗長な說明許りしたり或は簡單すぎるとかどちらにしても、そういう書物によつて花を知り花を作る事はできません。これはそんな不都合のないやうにここに說明しました花は各一頁大の美しい寫眞を入れて其の種類や植付け方や施肥、栽培等からお庭の作り方まで單簡明瞭に說いてあります。皆さんの愛する名花の寫眞狀でもあり園藝の手引ともなります。製本はたいそう美麗ですから、皆さんの机の上を飾るに、もつともよい本で御座います。



此廣告を見て御申込の方は必ず婦人世界愛讀者なる旨御申添を乞ふ

見よ◎月經なき女子◎病める婦人

婦人病の多くは月經不順月やく止り發する者少なからず故に一日も早く女月丸を服用して健康となれよ本劑は學理上有理なる藥種を蒐集し製劑したる良藥なれば婦人血の道月經不順月やく滯り又は**血塊**など稱へ永き間經水なき爲腹痛する人或は女子十七八歲に至り月經なき人等に用ゐて特効あり必ず服用試られよ

改良 月經 女月丸

藥價 一劑六十錢 二劑一圓十錢 特製 二圓二十錢 三圓三十錢 送料各四錢

●肥滿病藥

美人となる やせる藥

子供の折は美愛と賞せられし人も年頃になりて脂肪多くぶと〳〵太り血太りニキビ吹出物ソバカス等の爲めに醜婦となる人少なしとせず故に美容白色ならんと思へば是非本劑を御試用あれ全くキレーに艶美白色と成る事を信じます

本劑は肥滿病の服藥と皮膚外用藥との二種有れば御注文の時は必ず患部御容體を書き添へ御申込有れば其容體に適合の方を送付致します

藥價 一劑一圓五十錢 二劑二圓九十錢 三劑四圓三十錢 四劑五圓半 送料各八錢

惡性固疾の方は三四劑分の多き方が御利益になります必ず御試用下さい

一手販賣 東京京橋中橋和泉町一 振替口座壹〇六七七番 愛生堂藥舖

妊娠十ヶ月

○新家庭の若御夫婦●御年頃の御令孃樣方●目下姙娠中の奥樣方へ本書の精讀を御薦め致します

醫學士大友道之先生監修 產婆指田たね子編

和綴極美(總ふりかな付)新案姙婦解剖摸型圖挿入

全一冊正價金六拾五錢 小包送料金八錢

女は姙娠すべきもので御產は御婦人方の最も重大なる御務めです本書は姙娠不姙の理由より姙婦一般の心得と十ヶ月間に於ける母體の變化胎兒生育の狀態良人の守るべき事項等月々に分ち尙產後の注意病氣の手當て迄殘らず通俗平易に委しく述べてあります故本書に依て妊娠中の氣鬱秘密の御心配事は立所に判明し安心して御產が出來ます、誠に御嫁入道具の一つで又新家庭への贈答用適當書であります

女子のふみ

與謝野晶子女史新著(菊判美裝金四拾五錢送料八錢)

閨秀作家晶子女史が候文言文一致雅俗折衷等の諸文體を以て現代婦人界の必要に應じ實用と文學とを調和せる女子書翰文の一新例を示されたるもの也(好評第拾版)

坂先生著 **かな帖** 石井先生 松岡先生著 明治 **禮式作法**

和綴金五十錢 送料四錢 和綴極美全金六拾錢送料金八錢

發行 東京日本橋檜物町 振替東京二三〇番 弘學館 大阪備後町四丁目 金正堂書店

新婦人必讀の大寶典

前田不二三先生新著 定價七十錢郵稅六錢中版全一冊總布美本

最新刊發賣

文明日常の禮節

著者曰く……予は十年以來、獨、墺、蘭三國の外交官、飜譯官、大學教授又京濱に居る外國の紳商と親しく交際した。只單に交際でなく、通譯やら研究助手、又は大使館、公使館で日本語の講師となつたりして毎日々々外人と接觸して居る。此間自然と會得もし聞かされ敎へられ歐洲の高等社會の禮節の一般を知つた。

又吾輩は歐洲の禮儀作法に大に興味をもつて交際する人毎に根ほり葉ほり聞き訂した。此の書は實に予の直接經驗したことをそつくりその儘書いたものである……と。

■近頃の日本人は兎角禮を重じない。內地人間の場合は大きな誤解を生ずることは少いが外人に對しては隨分注意せないと少からず不利の事がある。例へは航海中熱帶を通過する時日本人は堂々たる紳士でも素裸になつて甲板を散步することがある、外人は之を見て甚しく不快の感をなし直に之を目して野蠻人としてしまう。個人としても國家としても此の誤解は非常に不利不得であり不面目である此等の恥を知る人は是非此書を御覽なさい、歐洲日常の禮節は勿論我が禮節との差違や吾人の注意すべき事柄がすべて實例に依つて面白く書いてある。廿世紀の新婦人及新家庭には必ず備へなくてはならない寶典です。

發行所 東京京橋南紺屋町 實業之日本社 振替貯金口座東京三二六番

大歡迎忽ち四版

婦人と交際

婦人世界主筆 高信峡水新著

△定價六十錢郵稅八錢菊判美本

全國各新聞は筆を揃へて本書を激賞せり試に國民新聞の批評を見られよ！

精神、容姿、動作、服裝、約束、訪問、接客、郵便、賜物、食事、集會、年賀、祝ひ、見舞、凶事、近隣、遠人に分ちて八年間著者が具さに見聞し來りたる婦人の交際を陳述したるもの、著者によりて觀察されたる人々の中には貴婦人もあれば女流教育家もあれば女醫あり女學生あり奥様あり女中あり多種多方面に亘りて趣味も智識も教訓もあり愛讀に値す

婦女處世心得

京都大學教授 谷本富博士著

女子教育

△定價壹圓郵稅壹錢菊判上製美本

本書は博士が再度歐米を觀察研究し泰西女子教育の實際を研め歸來早々我婦人界の爲に著はされたるもの、而かも極力實際に適切ならんことを期し、興味ある實例を幾多引用し平易明快なる說明をなす、婦人に實際的才幹と與へ德性を涵養し感情を和げ智慧を增し健康と幸福とを增加し得讀むからに婦人に多大の慰藉を與ふるは本書の一大特色といふべし。

△女子教育の目的△妻としての教育△主婦としての教育△母としての女子教育△婦人將來の任務△まことの賣△將來の家庭

發行所 東京南紺屋町 實業之日本社 振替貯金口座 東京參武六番

料理界の好評を博せる三大名著

再版

和洋惣菜料理

櫻井ちか子先生新著

定價四十五錢 郵稅六錢 四六版美本

△朝夕三度の食事を最も愉快に過させんとする人△臺所の改良に苦心せらるる人△日常の惣菜を簡單でおいしく料理せんとせる人△勝手道具の始末に苦心する人△夫や子供に樂しく吾が料理を進めんとする人△經濟的で美味を作らんとする人（一覽んない。）

五版

弦齋夫人の料理談

石塚月亭君編

一、二、三編 定價各六十錢 郵稅各八錢

△本書は料理法の大家弦齋夫人が多年の間苦心研究せられしものにして出來得る限り實用向にして簡易なるものを主とし平易親切に叙述したるものなれば一讀して直に實地に應用するを得べし婦人及び家庭には必ず一本を備へざるべからざる寶典也。

五版

日本料理法

◎赤堀吉松 三共著

◎赤堀峯吉 先生著

◎赤堀菊子 生著

定價七十錢 郵稅八錢 全一冊美本

△日本料理の大家、赤堀先生が自家教授の實驗に依り家庭料理を主として叮嚀にその調理法を述べたるもの、特色は野菜、海草、乾物、鳥、獸、魚介等のあらゆる手近の材料を用ひて美味にして滋養ある料理法を教へ何れも直に實地活用し得るにあり。

發行所 東京南紺屋町 實業之日本社 振替貯金口座 東京參武六番 郵便振替貯金口座 東京參武六番 全國各地書店

此廣告を見て御申込の御方は必ず婦人世界愛讀者なる旨御申添を乞ふ

重い子宮病患者に謹告す

目下！重い『子宮病』『血の道』の病にて御苦惱の方々は
安全湯
と名くる新藥に依りて一日も早く其苦惱を免れ玉へかし。本劑は！
是迄家傳の秘密藥なりしを今回多くの人助けの爲め發賣致し候。其効能の確實にして如何なる難症の婦人病者にも不思議の奇功を奏するは數多の實驗上確く保證致し候。故に今迄名醫大家に掛りて匙を投げられたる方々及び種々の賣藥を服用して効なくお困りの方々は是非本劑を御試用の上此言の妄ならざるを知り玉へ

主治効能

子宮病 肉膜炎 カタル 白血赤血 難産流産の癖ある人 月經不順 逆上 頭痛 眩暈 ヒステリー 産前産後の諸病 月經前後の腹痛 其他婦人病一切

本舗 大阪西區阿波座上一電車道角（振替大阪壹壹四六壹番）洋々堂分店
本舗 東京下谷區池ノ端七軒町四二）安全堂 小原與三郎敬白）
（右洋々堂分店並ニ安全堂主人

定價 一二日分卅錢、七日分九拾五錢、二週間分壹圓八拾錢、三週間分武圓九拾錢、五週間分四圓也（內地は無運送料）

恐るべき婦人世界の勢力と月經帶の王安全帶

婦人世界の發行部數は我國雜誌界の巨擘なりとは兼て聞き及ぶ所なるが、近來廣告の實驗に因りて愈々然るを覺ゆ、我內地は言ふに及ばず朝鮮滿洲樺太臺灣遠きは歐米各國を始めとして布哇マニラ印度南洋諸島より日々續々として我安全帶を註文する方は皆本誌の愛讀者也殊に歐米よりの註文日に月に增加するは我が安全帶が如何に月經帶中の大王なるかを證し得て餘りあり、是れ本品が歐米月經帶中の長を採り短を補ひて考案せしが故也、今や暑氣に向ひ日々お召し物の薄らぎ行く折柄益々本品の必要に相迫り候、乞ふ續々御註文の榮を垂れ給へ。



本舗（東京下谷區池ノ端七軒町四二）安全堂
本舗（振替東京六九一〇番）洋々堂分店
（右安全堂並に洋々堂分店主人 小原與三郎敬白）

定價 安全帶一筋（甲壹圓貳拾錢、乙八拾錢、丙九拾錢）一筋にて永年使へ升）安全衣一打金四拾錢（送料一組帶衣共金八錢）一組帶衣共金八錢（外國當小包料金廿錢）外國當（陸送鮮金卅錢也）

磨くことにしてをります。洗粉はやはりクラブを用ゐます。白粉をつける時にはまづ下にクラブゼリイを引いて、その上に練白粉をつけます。それが終ると、今度は粉白粉をセイム皮で摺込んでおきます。

私は座敷の隅の方を掃く

それが終ると、チヨッと髮を掻きつけて、粗末な仕事着のままで、女中と一緒に働きます。女中は三人をりますが、一人は末子の世話に掛つてをりますし、一人は臺所の仕事をしてをりますから、一人では、なかなか掃除がし切れません。そこで、私が手傳つてやるのですが、女中任せにしておきますと、座敷の隅などへ手が屆きかねますから、私は、主に隅の方を掃き出して、眞中は女中にさせるやうにしてをります。

子供の辨當のお菜に困る

大きい子供の方は學校へまゐりますから、朝飯は早うございます。大抵七時頃です。

それから、御飯前にお辨當を拵へてやりますが、たまに子供に拵へさせることもございます。しかし、何時も困りますのは、お辨當のお菜で、いろいろに取換へてやらなければなりません。野菜、佃煮、お煮しめなどが主になりますが、一週間に一度ぐらゐづつ肉を入れてやることにしてをります。またパンにすることもございます。

これからはようございますが、冬などは冷たくなつて困るでせう。外國では毎日子供に二十錢づつ出させて、學校で辨當を拵へてやるところもありましたが、日本でもさうしたら何うでせう。

主人は毎朝缺かさず運動

私どもの食事がすみますと、主人は朝の散歩から歸つて食事をいたします。主人は必ず中之島の公園や梅田などの近い所や、時としては電車で天王寺あ

たりの公園へ參ることもございます。雨でも降つて散歩に出られないやうな日には、地下室へ行つて柔道の復習をして、汗びつしよりになります。柔道は一週間に一二度づつ先生がおいでになるので、もう二三年も稽古してをります。

主人の食事は、果物とパンにすることもあれば、普通の味噌汁で御飯にしたり、お握飯にしたりして、時時取替へます。

❀西洋人の朝飯は簡單なり

外國へまゐります前には、朝はどんなものにしたらよからうかと迷つたり考へたりしたこともありましたが、外國から歸つてからは、成るべく輕いものの方がよからうと思ひますし、主人もさう申してをられます。そして、朝食べ過ぎると何うもよくないと申すので、重くないものにしてをります。

外國といつても、アメリカなどは隨分贅澤で、朝から肉類をつけてをります。また最も贅澤だといはれる果物も必ずついてをりました。それが英國へまゐりますと、果物だけなくなり、大陸へまゐりますと、獨逸でも佛蘭西でも、簡單な紅茶とパンぐらゐで、極めて質素なものでございました。

❀林檎やバナナにもお砂糖

果物は、林檎、バナナ、蜜柑などを交ぜて出すことにしてをります。これは、林檎やバナナを細かく切つて、その上へ蜜柑の汁をチヨッと搾込みます。搾つた滓は、やはり細かに切つて交ぜて、上から牛乳と砂糖を掛けるのでございます。

外國では、よくかういふ風にして出されましたから、さういたしてをります。バナナだけでも、小さく切つて、その上から牛乳とお砂糖をかけますと、美味しうございます。夏など硝子の皿に入れて銀の小さい匙でもつけますと、いかにも涼しさうに見えます。皆さんにお話しますと、苺には牛乳や砂糖をかけるが、他の果物には珍らしいと仰しやいます。

❀髪を上げると不斷着に改む

髪は、大抵主人の御飯が濟んで、ゆつくりしてからのことにしてをります。髪も西洋で教へて貰つたままの結ひ方で、かもじも西洋の通りなのを注文して作らせてをります。それは、前髪のところへ簪のやうなものを入れるのです。

日本のかもじは何でも眞黒にいたしますが、私のは、自分の毛と同じ色なのを入れてをります。そして、前髪を三つに分けて、横は横にし、前はまた別にするので、後と中を入れれば都合五つに分ります。髪が濟むと不斷着に着替へます。西洋でも、私の泊つた中流の家庭の奥さんは、午前中に粗末なものを着て、午後はキチンと身なりを整へてをりました。かうすると、普通の日本の婦人のやうにお客樣にお眼に掛るにも、チヨッと買物に行くにも、着替への面倒がありませんから、臆劫に思ふやうなことがなくて便利だと思ひます。

五分間で髪を結ふ

三井物産會社常務取締役福井菊三郎氏夫人　福井夏子

私どもでは、主人も私も、毎日のやうにお客樣がお見えになつたり、または人樣を訪問いたしますので、いろいろの用事がございます。一日中落ちついて家にゐて、子供と一緒に食事する機會は殆んどありません。それゆゑ、私は、せめて朝だけでも皆が集つて賑かに食事したいと思つて、學校へ行く子供と一緒に朝飯を頂くことにしてをります。しかし、その頃は、主人はまだ起きませんから、私と子供だけでございます。私のところでは、朝起きてから朝飯までの時間といふものは、非常に短いのでございます。

❀朝は水でザッと洗ふのみ

私の朝の二時間

私の起きるのは、大抵六時頃でございます。起きると直ぐ着物を着換へて、口を漱いで顔を洗ひます。私は、歯がよくありませんから、口はよく洗ひます。歯磨粉は**ライオン**を用ゐます。

顔も、朝は水でザッと洗つておきますが、御飯が濟んで何處かへ出かける時は、お湯で洗ひ直します。顔を洗ふには、糠は顔が荒れないばかりか、艶が出てようございますが、面倒ですから洗粉を用ゐます。顔を洗つてしまふと、僅かの間『御祈禱』をいたします。それが濟むと御飯にいたします。

髪上げに要する時間は五分

かういふ風で、朝起きてから御飯までの間は、何をすることもできません。食事が濟んで子供が學校へまゐりますと、今度は髪を結ひます。

私が髪を結ふのは非常に早うございます。時間でいつたら五分間もかかるでせうか。いつも束髪で油もつけず、癖直しをする必要もありません。私は、外國にゐる時に焼いたりなどして後毛がございますから、そこだけチョッと結びあげて、びんつけを少しばかりつけて撫でつけておきます。

朝飯後は小さい子供の守をしながら庭の草花を見たりしますが、これも運動が目的ではございません。子供を連れて歩くといふのが主になつてをります。

新聞は早く讀むことにす

私は、新聞はなるべく朝早く見ておきたいと思ひます。お客様がいらしつても、また自分の方から訪問しても、その日の新聞を一通り讀んでおきますと、非常に心強いやうに思ひます。

しかし、朝はなかなかゆつくり讀んでゐることができません。主人が食事をする時に、その傍で用事をしながら、主人に關係のある外國電報を讀んで聞かせます。蒲團のしまひ方は別にございません。私どもは寢臺に寢みますから、そのまま起きます。そして、一時間ぐらゐ風にあてておきます。

唇の形は變り易いもの

ドクトル　志村誠麿

唇の形は、歯並によつて、いろいろに變ることは申すまでもありませんが、その外に、氣候、言語、習慣、笑ひ方、表情の使ひ方、食物の食べ方、病氣、精神作用などのためにも、變化するものです。

歯並によつて唇が變る

歯並によつて、唇の形の變ることは、何方にもお解りになります。即ち、特別に歯並の引込んでゐる人や、飛出してゐるのは、切つて繼歯手術をするか、矯正術を施せば、口もとが美しくなります。これは全く唇が歯のために變化した實證であります。それゆゑ歯科醫が、どういふ唇が美しいか、またどうすれば唇の形が美しくなるかといふ所謂美術學的の範圍にまで入ることは、自ら當然のことと思ひます。

最も美しい唇の形

口もとの形は、歯、上唇、下唇、口角、鼻唇溝などから成立つてゐるのですが、口もとの美しいものは必ず歯並がよい、それで、上唇の曲線が富士山のやうな美しい線をなしてをります。その山の頂上、即ち、鼻唇溝（鼻の下の溝）の下の方はあまり凹まず、平らでもなく、丁度よい加減に凹んでをります。口角は少し凹んで、少し上へあがるやうになつてをります。かういふ口もとが一番美しいのです。次の圖

のロの形が一番美しいのです。

イ　ロ　ハ

イは、勾配が急で、威風を示すといふ形ですが、美しいといふことはできません。ロは勾配がなだらかで、いはゆる希臘式の美線があらはれてをります。ハは頂上の凹みが深く廣いために、兩側が短かくなつてゐますが、からいふ口もとは、一種犯すべからざる風があつて、俗に澁い口もとと申すのです。

英國第一の美人の唇

第一圖は、英國第一の美人ですが、上唇の美線が希臘風で、前のロの形になつてをります。この美人の下の方にあるのは、日本美人の口もとですが、やや理想に近いものと思ひます。日本にも口もとの美しい婦人は幾らもありますが、ただ私の調べましたところによりますと、唇の形は何時も一定してゐる人の下唇は、非常に厚く大きいものです。巻舌と齒とを主に使ひますから、口を大きく開かないで濟みますが、英語は、口をよほど大きく開く必要があります。また獨逸語やイタリイ語は、英語ほど大きく口を開かないで濟みます。

私どもの實驗するところによりますと、英國婦人は、通常話をする時に音樂の三種音律を用ゐるやうです。現に、英國の紳士は、八音律を用ゐて談話すると申します。言語も一種の音樂ですから、かやうに注意することは交際上最も必要なことで、從つて唇の形もこれによつて美しくなります。



習慣によつて唇が變る

習慣は非常に唇に影響します。上齒の門齒の先で下唇を噛む癖の人がありますが、かういふ人の唇は必ず厚く大きくなつてをります。また下齒が前へ出てゐる人の下唇は、非常に厚く大きいものです。

土地の寒暑によつて變る

寒國の人の唇は、一體に薄くて小さいものですが、熱い國の人の唇は、割合に厚くて大きいために、口もとが大きく見えます。即ち、露國のコオカサス地方の婦人は、口が小さいが、アフリカ人や印度人の口もとは非常に大きいものです。これは、寒國の人は筋肉が締まつてゐる外に、寒いために口を大きく開かぬためではありますまいか、また熱帶の人は、筋肉が緩んでゐる上に、精神も緩んで、自然欠伸なども多くするし、ものをいふ時に口を大きく開くためではありますまいか。

言葉によつて唇が變る

言葉の違ふためにも、唇の形が變ります。日本語は

煙草や煙管を横啣へにする癖の人は、そこだけ唇が厚くなつてをります。尺八を吹いたり、喇叭を吹いたりする人の唇も、大きくなるものです。

昔の西洋人の食事の仕方

食物の食べ方は、國國によつて多少趣きが違ひますが、ズッと昔は、手づかみで食べたものです。西洋でナイフやフォオクを使ひはじめたのは、十三世紀から十四世紀頃、即ち、英國の女王エリサベス時代です。フォオクを使ひはじめたのは、伊太利のベニスで、それを英國人が眞似て、一般にフォオクを使ふやうになつたのは、今から百年ばかり前のことです。それまでは、よほど上流の貴族でなければ、フォオクを使はなかつたものです。

耶蘇時代、即ち羅馬帝國の全盛時代は、僅か千九百年以前のことですが、當時食卓の上にフォオクはなかつたので、皆手づかみであつたやうに思はれます。この時代の書をみると、食卓の上にはただ大きい鉢のやうなものがおいてあるばかりです。

日本では神代の昔から箸を使つてゐたものとみえて和名類聚抄といふ本に、素盞嗚尊出雲國の簸の川上にて箸の流れ來るを取ると書いてあります。してみると、日本人は昔から上品な食べ方をしてゐたものとみえます。

日本人は唇が小さい

支那では、紂王初めて象牙の箸を作ると史記にありますから、古くから箸を用ゐたに相違ありません。紂王は商朝の最終の王ですから、二千年ばかり前から支那では象牙の箸を用ゐてゐたので、木の箸はもつと以前からあつたかも知れません。

日本人の口が西洋人より割合に小さいのは、まつたく昔から箸で食べたために、口を大きく開かなかつたのと、直接に口で食物を取らなかつたためではありますまいか。歐米人はフォオクやナイフを使ひますが、時には、食物を手に持つて、じかに口に入れることもあります。即ち、チキンフライとか、ロオストした玉蜀黍などは、手で持つて口で食ひ切るといふやうにしてをります。

ところが、決して道具を使はないで、獸類のやうに、總て食物を口でとる人種があります。アフリカ人や、臺灣の生蕃などは、獸類の肉を生のまま、口で骨や皮を剝がして食べます。かういふ人種の口は從つて大きく、唇も厚くなつてをります。

鳥のやうな唇の人種あり

シンガポオル附近のある人種は、唇のあたりへ一切食物を觸れないやうにして食べます。即ち、ものを食べる時は、仰向いて口を大きく開き、食物を五六寸も上から巧みに落すのです。それゆゑ、この人種の口は非常に大きくなつてをります。

アフリカのある人種は第二圖のやうに、鳥のやうに、唇を長くするのを美としてをります。これは、木片を唇の内側に入れて、靜かに外へ押出すのです。それゆゑ、圖のやうに唇が尖つてをります。歐米人のやうにナイフやフォオクを用ゐる人種は、口が横に擴がつて、口角が鋭く切込んでをります。歐米人と日本人との口もとを比べてみますと、この點が著しく違つてゐるやうに思はれます。

惡い病氣のために變化す

これは甚だ面白くないお話ですが、ある惡い病氣に罹りますと、唇の内側に潰瘍ができて、そのために唇が腫れて形が變つたり、色が惡くなつたりします。その病毒のために、子孫のうちに兎唇——俗に三つ口となつて生れるものがあります。勿論、三つ口にも他の原因はありますが、惡い病氣が主な原因になつてをります。また卷煙草などを吸ふ習慣の人は、その刺撃のために、唇などに恐ろしい腫物ができることがあります。これは非常に唇の形を變へるものです。また顔面神經麻痺などといふ病氣に罹ると、唇が一方へ曲つて、恐ろしい形に變つて

しまひます。

日本の俳優の唇の變り方

表情を使ふといふことは、強ち俳優にのみ限つたことではありません。ある人は常に威信をあらはすために、口角を下の方へ引下げる結果、口の角が自然に下へ降つて、上唇の形が甚だしく急勾配の山形となるものがあります。わが國の俳優は多くこの傾きがあるやうです。

歐洲の**クラシック**では、主に鼻から上を動かすやうに表情を使ひますから、從つて、その使ふ鬘も絹で柔かく作つてあります。ところが、日本の俳優は、主に鼻から下ばかり使ふ習慣があります。尤も、日本の鬘は一部金屬でできてゐるために、堅くて、鼻から上の筋肉を動かすことができないのかも知れません。とにかく鼻の下部——殊に口角を下に引下げるために、自然第三圖のやうに唇の變化を來す傾きのあることは事實です。

日本婦人の態とらしい笑ひ方

笑ふといふことは人間に限るもので、ある人は、馬が笑ふといひますが、アテにはなりません。全く人間ばかりが笑ふことができるのです。その笑ひ方も國國によつて多少違ひます。日本婦人は、笑ふ時に手で口もとを隱すか、口をすぼめて、わざと小さくして笑ふのを上品としてをりますが、西洋では、自然に任せるのが多いやうです。

西洋婦人が笑ふ時は、口角が少し上へあがり、中には鼻の上に皺を寄せる人がありまず。私が曾てある英國婦人に、日本婦人の笑ひ方を見て何と感じますかと尋ねましたところ、その婦人の申すには、日本婦人が英國へおいでになつた時は、笑ふ時に口をすぼめたり、手で口を隱したりなさらぬ方がよいと申されました。笑ふ時に一番美しい形は、第五圖にあるやうに、口角が凹んで、鼻の兩側に溝ができて、頰の笑筋がふつくりとなるのです。一體笑筋は、口の角から耳の前のところについてをりますので、この筋が動くと笑顏になるのです。

不良少年に特有の唇の形

精神作用が唇に影響することは著しいもので、卑劣な精神も、高尙な志も、正直親切の情も、皆唇の形にあらはれるものです。伊太利の**ロンブロソオ**氏や米國の**エリス**博士などは、このことについて、よほど書いてをります。殊に、不良少年の唇などは、注意する必要がありますから、ザッとお話しいたしますが、かういふ少年の唇は、第四圖のやうに、緩んでだらけて、上下の唇が外へ飜轉してをります。顏面筋肉や唇ばかりでなく、全身の筋肉が弱くて柔かて、男らしい體格をしてをりません。これは、兒童の時代に身體の發育が妨げられ、適當な運動をしなかつたために、精神敎育の不足した結果です。それゆゑ、父母は勿論、學校醫なども、體格檢査の時にこの點に注意して、よく補導することは、不良少年を未發に防ぐ根本の方法ではありますまいか。

子供の笑顏と唇の美

笑ふ時の口もとは、兒童が一番美しいものです。第五圖のやうに、子供の笑顏をみると、唇の形が實に美しくみえます。これは、兒童の自然にして僞らざる精神があらはれてゐるためでありませう。基督も、汝等この小兒の如くならずば天國に入り難しと申され、また兒童を指して、かくの如きは即ち天國なりと申されました。佛敎の極樂も天國と同じく人の精神狀態を指したもので、兒童は即ち天國であり極樂であります。かやうに、精神作用は唇の形を變化させるものですから、美しい唇を望むならば、前にお話したことに注意すべきは勿論、正直、純潔、博愛の精神を養ひ、動物までも愛するやうに心掛けなければなりません。

弦齋夫人の家庭叢談

一記者

梅の中毒

記者『黄梅の時節家家の雨といふ句の通り、今月は梅雨になつて梅が熟しますから、梅のお話を伺ひたいものです。

夫人『梅は我が邦の名物で、花も綺麗ですし、實も調法で、梅干にすると衞生上いろいろな功能がありますネ。

記者『梅の實は藥にもなりますが、青いうちに食べると毒にもなりまして、子供が青梅の實を食べて中毒を起すことも折折あります。

夫人『青い梅には青酸といふ毒質があるさうで、中毒を起すと命にも係ることがあるさうです。

記者『青梅に中毒した時には何が一番良いでせう。

夫人『それについて、私どもにはまだ青梅に中毒したものがありませんから、實驗はありませんけれども、用心のために箬草を澤山植ゑて置きます。

記者『箬草といふのは、あの箬にする草で、莖の細いものですか。

夫人『左樣です、處によつては庭草ともいひますし、ハハキギともいふさうです。

記者『その箬草は何で青梅の用心になりますか。

夫人『昔から青梅に中毒した時は箬草を煎じて飲むが宜いと申したもので、水戸の黄門公の遺法だと聞いてをります。それに就てこの頃食養會員の角地藤太郎さんから化學的食養の調和といふ書籍を頂戴しました。その中にも箬草の實驗談が出て居りまして、角地さんの御同僚の森さんといふお方が明治四十四年六月十九日の大時雨の時、落ちた青梅を翌日の午後五時頃食べたのに、二十一日は少し腹痛を覺え二十二日朝より猛烈となり、四十度三分の高熱で、苦悶を極めたる折、箬木を煎じて午前十時一合ほど飲み、三十分ほど過ぎると、苦悶は八分通り消散して、いつの間にか恢復し、命拾ひをしたといふことが書いてあります。



風薫る小松が原や砂遊び

記者『して見ると何でも無い療法で誰も心得おくべきことですネ。

夫人『毒な物のある時分には必ず藥な物もその近所に生へるのが天然の妙理ですから、梅樹のある家では必ず側に箬草を播いて置くべきです。

梅醋の糠味噌

記者『梅干を漬ける時にできる梅醋は何か利用法もありますか。

夫人『梅醋で糠味噌を造ると大層味の好いものができます。

記者『梅醋を普通の糠味噌に入れるのですか。

夫人『オイヱ、梅醋を加へるのではありません。最初から梅醋で製造するのです。

記者『それは衛生法にも適つて良い方法ですネ、どういふ風に製します。

夫人『梅醋の糠味噌を造りますのは、先づ糠一斗に白梅醋二合鹽一升、これに水を適宜に入れてよく混ぜるのです。

記者『して見ると、糠の五十分の一の梅醋で、鹽が糠の十分の一になりますネ、白梅醋といふのは紫蘇を入れてない梅醋ですか。

夫人『左樣です。尤も人によつて酢味の多いのを好めば梅醋の分量をもつと多くしても構ひませんし、鹽の勝つたのがよければ鹽を增しても差支ありません。

記者『この糠味噌は味も良いでせうネ。

夫人『味も良いばかりで無く、普通の糠味噌は古くならないと、味が出ませんが、この梅醋の糠味噌は、製造して直ぐに野菜を漬け込むことができます。

記者『それは非常に便利ですネ、普通の糠味噌も殺菌力が多いといふくらゐですから、梅醋で製造したら、必ず身體のために利益がありませう。

夫人『梅醋はいろいろの藥にもなりまして、虎列剌の初期に飲んでも効があるといふくらゐです。それに梅醋を保存して置きますと、銀の器や銀の簪を磨くのに大層便利です。

記者『梅醋で銀を磨くことは毎度聞きますが、あれで磨くと銀が綺麗になります。

夫人『どんなに黒くなつた銀でも、梅醋で磨くと直ぐ白くなります。然し冷いままではいけません。梅醋を小さな土鍋にでも入れて、火の上で溫めて、熱いうちにブラシのやうなものにつけて磨きます。銀の簪なんぞを磨くには、少しばかりの梅醋を火にかけるのも面倒ですから、その時は銀の方を火の上に翳して、熱くなつた處へ梅醋をつけて磨きます。

記者『それは何でもありません。早速試して見ませう。

若き旅人より

鐵火鞭

◎絹絲のやうな細い雨にも堪へず散つた花の噂を後にして、私は都の春を見捨てた。佗しい客車に乘合せたことを悔いたのは、汽車が大森を過ぐる頃からであつた。左には、妖艶な美人、右には、何かの事件で關西へ出張するといふ刑事、その間に窮屈らしう座を占めた若き旅人は、窓の外を走る晩春の山水に、獨り心を傷ましめた。

◎熱田では、天道山から八事山に登つた。中村公園は、落ちつきのない俗惡なところであつたが、沿道に見渡す限り敷きつめた菜の花の黃金の敷物は、都の人の眼には懷かしく眺められた。

◎西の都の春は既に遲かつた。丸山の枝垂櫻は美しい青葉になつてゐた。その青葉を透して來る夕日に頰を赤く染めながら、瓢の酒を酌みかはしてゐる一群の人人の、優しい俗謠の調子も可笑しかつた。

◎平野の櫻は盛であつたが、場所の惡いのが難であると思つた。御室の櫻は、丈の低い、幹の何本かに岐れた面白い枝振で、花も滿開のところであつた。ただ花の間を縫うて小屋掛けした幾軒かの茶店と、頻に袖を惹いて茶を勸める茶屋女とは、なくもがなと思つた。ここの躑躅の櫻より背の高いのも、日比谷の躑躅を見慣れた眼には珍らかであつた。

◎嵐山は青葉であつた。大堰川の淸い流に山の姿が浸つて、魚の泳ぐのも手に取るやうに見えた。

◎浪花の街は、夜の街である。黑い水に映つて搖ぐ燈火を牡蠣船の中から眺めるのも嬉しかつた。その川沿ひの『旗の酒場』に、新らしい浪花の女が五色の酒を飮むといふのも可笑しかつた。

◎振も唄も緩やかな芦邊踊、舞子の顏も舞ひぶりも華やかな都踊、いづれも關西の夜の空氣にしつくり合つた美しい調子だと思つた。

教科書以外の教科書

與謝野晶子

現今の小學教科書

私どもでも、子どもたちがだんだん大きくなりまして、それぞれ小學校へ上つてをりますので、時時教科書の豫習などしてやることがございますが、その度ごとに感じますのは、今の教科書の誠に無趣味で、また極めて拙いことでございます。

先生方のうちにも、隨分如何はしい教へ方をなさることがあるやうでございますが、子どもの前でそんな事をとやかう申しますのは、子どもに、先生を輕蔑する心を起させるだけで、教育上の害となることですから決して申しません。その代り教科書の中の拙いところや間違つて居るところなどは、見つけ次第、それよりも、お話はお話として、實在の人生に觸れたもののうちで、子どもの興味を惹くやうなことを材料として作つたのがよくはないかと思はれます。

から考へて在來のお伽話、その他、少年少女の讀物と銘打つたものを見ますと、これに適つて居るのは殆んど絶無です。これは少年少女の爲に氣の毒なことでございます。

愛子叢書、愛子叢書

ところが、今度實業之日本社から愛子叢書といふのが出ると聞きまして、私はその名をまづ第一に嬉しく感じました。

愛子叢書！可愛い子どもたちの爲に書かれた書物！澤山な愛子を持つて居ります私の耳には、實に嬉しく感じたのでございます。殊にその作者は皆第一流の作家である上に、何れも數人の愛子のおありなさる方ばかりですから、いづれも眞面目な深切な御作であらうとは、まだ見ぬ前から想像して居りましたが、讀んで見ますと、全くこの趣想の適中して居りますのに、いよいよ嬉しく感じたのでございます。

『眼鏡』と『小さな鳩』

島崎さんがこの叢書の第一編として『眼鏡』をお書きになるときは、家庭以外の子どもの世界といふものを研究したいとの御希望から淺草の花やしきなどへ幾度か見にいらしつたと承はりましたが、お骨折も一通りでなかつただけに、まことに結構なものと感じました。

島崎さんのことですから文章のよいのは申すまでもありませんが、一學の結構が眼鏡を擬人した旅物語ですから、子どもに地理的の知識と興味とを與へるばかりでなく、前に申しました人生といふものを味はせ得る點におきまして、これまで在り來りの少年少女物に類のないものと思はれます。

出て來る人物には、來助爺さんでも神戸のお正さんでもすべて實在の人といふことですが、來助爺さんは殊に骨折つてお描きになつたやうで、在來のお伽話のうちに出る唯の老人とは違つて、親しむべきうちにも尊敬すべきお爺さんであることは、誠に面白い試みであると感じました。

田山さんの『小さな鳩』も『眼鏡』に劣らぬ興味を以つて讀みました。これは、お父さんの幼物語ですが、殊に、その最後の一章において人生といふものをしみじみと味はせてあるお手際には、實に敬服いたしました。

最善の兒童教科書

要するに、愛子叢書は最善の子どもの教科書で、少年少女讀書界に一の新領土を得た思ひがして、心強く喜ばしく感じます。私が讀んでやりました年下の子どもも、自分で讀みました年長の子どもも、今までにない興味を感じましたのが嬉しうございました。

愛子叢書
第一編　眼鏡　島崎藤村著　定價各四拾錢郵稅各六錢
第二編　小さな鳩　田山花袋著　共に本社發行



歴史講談

貞婦山本仲尾

細川風谷講演

（六）

檢屍役兩名、外處の涙に悉く袖をしぼり、町役人初め一同泣の涙で愈よ取調べも相濟み、是から仲尾は二人の子供を連れて家へ歸つて參りますと、仲『藤三郎、藤四郎、最早泣いても善い。』

と言ひ樣、わつとばかりに泣倒れましたので、二人の子供も聲をあげて泣叫び、暫時は傍邊を憚からぬ

へ參りましたが、何處を見ても山また山、土一升金一升の江戸の繁華とは比較物になりませんので、日日東の空を眺めて歸意頻でございましたが、主持つ身はそれも叶はず、絶えず山本一家の事を案じて、其後先生の御病氣はどうであらうかと心配して居りましたが、表向師弟の緣を切られて居りますので、書面で尋ねる譯にも參らず、江戸詰の者に書面を出して外處ながら尋ねて貰はうと致しましたが、それも明白した返事は來ず。一人心を惱まして昨日と暮れ、今日と暮して居りましたが、享保四年十月の事で、頻に江戸の事を思出して山本舍人の身を案じて居りますと、下男は西日を背に受けながら、心長閑に土地歌を唄つて蓑靴を造つて居ります聲が、何だか子守唄でも聞いて居るやうで、ついとろとろと致して參りましたが、折しも鐵御納戸の半合羽に三度笠、半股引に盲人縞の脚絆、道中差をさして足拵へ嚴重な男、門札を幾度も見て入口から、

△『ハイ御免下さいまし。』

下『誰だね。』

△『此方は鵜野三平樣の御宅でございますか。』

下『さうですが、何處から來なすつたね。』

△『江戸から參りました。』

下男は立上つてやがて出て參り、

下『江戸は何處から來さしつたね。』

△『麻布から參りました。』

下『麻布さんからのお使かね。』

△『麻布から參りました。』

下『それだから麻布さんから來さつしやつたかと聞いて居るだ。分らねえ男だな。』

△『御前さんが分らねえ。』

下『何が分らねえだ。麻布さんから來さしつたかと聞いて居るだ。』

△『それだから分らねえ。』

下『何が分らねえ。』

△『麻布といふ處から來たのですよ。』

下『それならさうといふが善い。名前を先に言はねえ

（第八巻第七號）（一一四）

歴史講談

愈に沈みましたが、斯くてあるべきに非ざれば、舍人藤助の死骸は谷町の祥永山湖雲寺といふのに葬り法名は知覺院劍心鐵山居士、劍雄榮智童子。下女竹の死骸は身内の者に引取らせて十分の手當を與へ、己が身に此上もない悲しみのある中に悔みを言ひつ言はれつして、一先づ事は落着致しましたが、濟まぬは心の中の無念殘念。已れ又六今に見よやと千千に碎くる物思ひを人に語らん由もなく、今まで住み馴れし家に居らんは歎きの本、且は此上名主家主近所の者に厄介受けんも心苦しいので、寧そのこと懸放れた所へ引越す方が善からうと仲尾は人にも相談せず。自分で覺悟を定めまして、本所石原片町に轉宅を致しましたが、態と近所の者には處を知らせず、一時懇意の者の許に參ります故、追つて所定まり次第御通知を致しますと、名主兵太夫、家主喜助、其他の者共に厚く禮を致し、引越先の分らぬ樣に引越を致しました。

御話變つて鵜野三平は、主君の御供して信州の松代

から分らねえ。名は何と言ふのだね。』

△『市兵衛町の吉兵衛といふものですが、三平様は御在でなさいますか。』

下『三平様は居ねえが旦那様は在つしやる。』

△『恐ろしい理窟を言ふ人だね。』

下『己あ、譯の分らねえ事は大嫌ひだ。』

ブツブツ言ひながら奥へ入つて來て、

下『旦那様、恐ろしい物の分らねえ、言葉の言ひ様を知らねえ奴が參りました。』

三『何處から參つた。』

下『麻布から參りましたと申しますから、麻布さんから來さしつたかと尋ねましたら、分らねえ男だ、麻布といふ處からだと申しました。實に分らねえ男で……。』

三『御前が分らないんだ。』

下『私が何て分らねえてござえます。』

三『理窟を言ふには及ばん。それて、麻布の誰だと申した。』

下『吉兵衛町の市兵衛と申しました。』

三『さうては無からう、市兵衛町の吉兵衛であらう。』

下『たんとの違ひはねえ、倒様になつた丈だ。』

三『口の減らん事を申すな。懐かしい男が尋ねて參つた。私が直直話をしよう。』

と其儘玄關口へ出て、

三『おゝ、誰かと思つたら吉兵衛か、善く尋ねて呉れたな。』

吉『三平様てすかえ。御機嫌よろしうございます。』

下『アレまた三平様と言ふぜ。旦那様だぞ。』

三『貴様は默つて居れ。其様な事はどうでも善いから早く風呂でも焚け。客人は旅をして來たのだぞ。』

下『焚きません。』

三『なぜ焚かん。』

下『此様な客人の風呂を焚くのは否でがす。』

吉『御心配には及びませぬ。早桶の様な風呂へ入つて風でも引いちやあなりませぬ。首まである風呂で顯まて溫らして入る江戸の味を此様な男に知らせたら、眼を廻しませう。』

三『其様な事を云ふから怒るのだ。相變らず口が悪いな、ははははは。時にどうして此處へ參つたのだ。』

吉『實は上州の高崎まて人の使に賴まれて參りましたので、便に善光寺様の御參りをしようと思立ちましたので、其なれば貴方に是非御眼に懸つて御話をしたいと思つて參りました。』



三『さうてあつたか。善く尋ねて呉れた。まあとにかく上つて呉れ。』

と是から奥の一間に通して

三『どうだ。隨分疲勞れたらうな。此様な處で何も馳走は無いが、蕎麥を馳走致さう。何しろ月と蕎麥は信州の名物だからな。』

吉『月は江戸にもありますが、蕎麥は何しろ結構てす。一つ御馳走になりませう。』

三『さう一一皮肉を言ふな。文助、此客人が信州の蕎麥が喰ひたいといふから、腕を揮つて打つて呉れ。』

下『野郎とうとう降參したか。私が打つ蕎麥は信州でも一番だぞ。何しろ蕎麥を打たしちやあ、新田の茂十か己かと言ふのだ。餘り甘がつて顯を落すな。』

と文助といふ下男は、一番腕を見せようといふので臺所へ行つてしまひました。後で三平は膝を進め、

三『吉兵衛、何かと江戸の事も聞きたいが、先づ第一に尋ねたいのは山本先生の其後の御容子だ。下男の前で聞くのもと思つて今まで控へて居たのだが早く聞かしては呉れまいか。』

吉『私も早く御話をしたいと思ひましたが、人が居てはと今まで遠慮致して居りました。實は第一に其御話がしたいので此處へ參りました。』

三『其は何より忝けない。して其後御病氣は御直りになつたか。どうだ。』

吉『御病氣どころではございません。御死亡になりました。』

三『さては御病氣がつのられてか。』

吉『それなればまだしもでございますが、人手に懸つて御果になりました。』

三『それや又どういふ次第か。』

と先立つ涙押拭へば、吉兵衛も眼を屢たゝき、

吉『忘れもしません、去年十二月の二十二日の朝、御承知の彼魚屋の七兵衛が、朝早く河岸へ買出しに行がけ、山本様の御臺所の前に參りますと、戸が少しばかり開いて居るので、はてな、と思ひながら聲をかけましても少とも返事がないので、愈よ變だと内へ入つて見ると斯う斯うしかじか。それから近所一同が騒ぎ出して……。』

と涙片手に語りました一伍一什。餘りの事に三平暫時茫然として居りましたが、漸くにうるみ勝なる聲引締め、

三『善く其を知らせて呉れた。今の今まで一向に存せんで居つたは返す返すも申譯が無かつた。して其後奥様や御坊樣はどうなされたな。』

吉『それは實に濟みませんが、私は去年の暮に餘り苦しくなつて市兵衛町を引拂つて芝口へ參りましたので、つひ其後の事を善く存じませんが、矢張元の御宅に御在でございませう。』

と是は實に便無い返事でございました。さうかする中に蕎麥も出來て吉兵衛は馳走を受け、四方山江戸の話をして吉兵衛はやがて一間へ案内せられて寐て仕舞ひましたが、三平はやがて佛間に御燈明を具へ、香を燻じて、

三『偖は山本先生には人手に懸つて非業の御最期遂げられたか。藤助樣も同じ道とは返す返すも遺憾千萬。吉兵衛の話の容子では、殺した者は慥に一刀又六であらう。其源は全く此拙者が過失から。何と御詫を致して善い事であらう。寧そ此場で。』

とは思ひましたが、

三『否、決して早まつてはならぬ。吾が命捨つるは敵又六を討取つた上の事。且つ只今は主持つ身の上。』

と吾と吾心を抑へ。翌朝吉兵衛に上田縞の反物に貳兩の餞別を與へて出立せた後、早速書面を、矢澤監物、望月主水といふ兩家老の名宛にして、

三『心願の趣、有之、五ヶ年の間武術修業に罷出度所存に付き、御暇の程奉願候。勿論、假令如何なる事あつても他家に仕官の心底は素より無之候。』

と言ふ文意で、神文證を添へて差出しましたが、一向御許の御沙汰が無いので、今は是迄と下男に暇を呉れ、貯蓄の金を肌につけて、矢澤望月兩名に詫狀を遺し。呉呉も主君への取成を賴んで、或夜出奔して仕舞ひましたが、是から後は如何に相成りまするや次に精しく申上げます。

（つづく）

婦人と交際四版成る

高信峽水君の『婦人と交際』は大好評にて賣切れ中のところ、今度四版を發行いたしましたゆゑ、速かにお求めを願ひます。本社發行、六十錢、郵稅八錢。

我が家の實驗

茹卵の加減を見る

滋賀　中村芳榮子

鷄卵と一緒に生米を入れて茹でて、生米が少し心のあるくらゐの時に卵を取出すと、丁度よい加減の半熟になつてをります。お米が御飯のやうに柔かくなつてをれば、卵は十分に茹だつてゐるのです。

短くなつた鉛筆

釧路　白川きた子

長い鉛筆はなくなり易いが、役に立たぬほどの短い鉛筆は、とかく集まりたがるものです。どんなに短くなつたのでも、中の心を抜取つて鉛筆さしに入れて使へば、何時までも用ゐられます。鉛筆の心を抜くには、そのまま火に入れますと、まはりの木だけそれには、糠を黒くなるまで炒つて袋に入れ、それに針をさしておきますと、決して錆が出ません。また錆が出たのでも取れてしまひます。

茄子のへたのお料理

山梨　古屋はま子

私どもでは、毎年茄子のへたを四つ割にして、中の心をとつて乾しておきます。それを正月の煮豆のかてにしたり、甘煮にして五目ずしに混ぜて頂くと、椎茸のやうで美味しうございます。

金魚に素麺をやる

長野　丸山多賀子

私どもでは、金魚には麩のかはりに素麺ばかりやつてをりますが、水が汚れなくて、金魚が弱らなくて宜しうございます。素麺の長さは一寸ぐらゐに切つてやります。そして、冬は、植木室の中に入れ、暖かい日だけ外へ出すことにしてをります。私どもにゐる金魚は三年もちました。

堅くて使ひにくい鰹節

小石川　久保照子

堅くてかきにくい鰹節は、お米の中へ暫らく入れておきますと、かきよくなります。お正月などのやうにお餅のある時は、お餅の中へ入れておいても宜しうございます。

炭のかはりに石炭滓

朝鮮　堀田滿壽子

四月號の我が家の實驗に、七輪にコオクスを用ゐることが出てゐましたが、私どもではストオヴや風呂を沸かすのに石炭を用ゐますから、その滓を十能に二杯ほどと、粉炭を十能に一杯ほど七輪に入れて使ひますが、二時間半は大丈夫もちますから、よほど炭が經濟になります。石炭滓の使ひ方は、前のコオクスと同じです。

燃えてしまつて、中の心だけチャンと殘ります。

魚を焦がさずに燒く

京都　砂川玉子

お魚を網に乘せて火にかける前に、少し酢をつけておきますと、網に焦げつくことはありません。

子供用の蚤除け袋

松山　押志保子

私どもでは、白のフランネルで幼兒の身丈より五六寸長く、幅は一尺六七寸の大きな袋を縫ひます。上の口には卷糸を通しておいて、幼兒をその袋に入れ、首のところを締めて寢かしますと、蚤が入れませんから、誠に安心でございます。

針を錆びさせぬ法

鳥取　井澤富美子

久しく針を持つてゐますと、錆が出て困りますが、

婦人の失敗談

❀電報の讀みちがひ

山梨　草野芳子

ある日、急に父に用事がありましたので、**チチヨル**カと電報で問合せました。暫らくして書留守番ニ來イと返事が來ましたので、早速まゐつてみますと、家の人が不思議さうな顏をしてをります。よく聞いてみると、書留守晩ニ來イと打つたのを讀みちがへたのでございます。

❀袂から澤庵を落す

福島　宮本きよ子

この間、妹の君子を連れて友達の家へ行きました時、澤庵をいただきました。一きれ食べてみますと、變な匂ひがしますので、誰も見てゐないうちにソッのかと思つて、丁寧にお禮を申しました。すると、をば樣が、イイエ、これはあなたのではありません。あなたのは今すぐ持つてまゐりますといつて、御主人のお客樣の方へ持つてゆかれたので、早合點したことを恥かしく思ひました。

❀醬油を溝に捨てる

千葉　宮島榮子

私が寄宿舍にをりました頃、夕飯の支度にお吸物を拵へようとしますと、醬油が大層黴びてをりましたから、先生に伺ひましたら、**ドブ**漬の中へおあけなさいと申されましたので、溝の中へ捨ててしまひました。あとで糠味噌のことと聞いて、ものごとはよく聞いてみねばならぬものと存じました。

❀梨を往來に轉がす

大連　松坂文子

ある日、梨を買つて歸りますと、どうした拍子か、袂に隱しました。歸る時にお辭儀をしますと、どうした機みか、袂に入れた澤庵がコロコロと膝の前に落ちました。私は驚いて、アラ君ちやんがと胡麻化さうとしますと、おしやべりの君ちやんは不平顏に『アラ、姉さんだわ、さツき袂に入れたおやありませんか』といはれましたので、赤面しました。

❀火鉢に額を打ちつける

廣島　小林房子

ある日、良人の友人がおいでになつたので、火鉢を差出すと、頭を下げてお辭儀をなさる刹那、火鉢の緣でお客樣が額をお打ちになり、小さい傷でしたが、血が澤山出ましたので、お氣の毒に存じました。

❀お禮をいつて失敗

大阪　山中廣子

先日知人の家へまゐりました時、をば樣がお菓子を持つて此方へおいでになりますので、私に下さる風呂敷包から梨が一つ轉がり出しました。慌てて拾ふとまた一つ、また拾ふと二つ三つと轉げ出す。人は足をとどめて笑ふので、三つ四つそのまに捨てて家へ走つて歸りました。

❀衣服の襟に小楊枝

尾道　村上宇野子

昨年の夏、單衣を洗ひます時、襟に小楊枝のさしてあるのを知らずに洗濯したため、右の手の爪の間に入つて、一週間ばかり指が痛みました。

❀お邪魔いたしました

青森　高橋輝子

ある日、急ぐ仕事をしてをりますところへ、お客樣がお見えになりました。暫らくお話の末、お歸りの支度をなさいましたから、玄關までお見送りしましたが、何の氣なしに、どうもお邪魔をいたしましたといつてしまつたので、赤面いたしました。



家庭笑話

◎かみそりて

石川 中谷のぶ子

今年九つの重坊が、頭を剃つて隣家のお婆さんの家へ行くと、お婆さんが、

『重ちやん、なぜ頭を剃つたの。』

と聞きました。すると、重ちやんは、

『誰にも聞かせられませんが、お婆さんにだけ聞かしてあげます。』

といつて、耳のそばに口を寄せ、

『かみそりで。』

◎異人になる

高岡 二上もと子

私の市から高柴龍吉といふタカヂアスダアゼの發明家が出てをられるので、私が、

『實に偉人だね。』

といふと、弟がこれを聞いて、

『日本人でも外國へゆくと異人になるの。』

と、澄まして申しました。

◎ウンといふ

新潟 北澤きくの子

ある日、四歳の男の子を呼ぶと、ウンと答へましたから、ウンといはないでハイと仰しやいと申しますと、

『お父樣だつてウンと仰しやるもの。』

と申しますから、

『お父樣のやうにお髭が生へたらウンといつてもいいが、それまではハイと仰しやい。』

と申しました。二月ばかりの後、その子供が炭をいじつて、鼻の下を眞黒にしてをりましたから、鏡の前に連れて行つて、

『おいたをするから、お父樣のやうにお髭ができました。』

といふと、子供は、すましたお顏で、

『それでは、もらウンといつてもいいの。』

と申しました。

◎タリチ

東京府 戸澤八重子

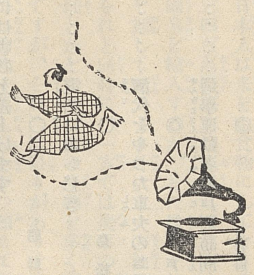
ある夜、今年一年生になつた君ちやんが、玄



關へ出て來ますと、そこへタ刊がまゐりました。君ちやんは、急いで新聞を取上げ、夕刊と書いてあるところを一生懸命に見てゐましたが、やがてお父樣の前へ持つて來て、

『お父さん、タリチが來ました。』

と申しました。



◎何處へ行つた

北海道 河杉信代子

先日私の家で蓄音器をしてをりましたら、本年六歳になる文ちやんが蓄音器の中を開けて見せて下さいと申しますから、開けてみせま

すと、愛な顏をして、

『今まで歌をうたつてゐた人は何處へ行つたでせう。』

◎おぢいさんになる

長野 小松れん子

今年六歳になる男の子があまり惡戲をしますので、祖母さんが、

『お前みたやうなものは大きくなつて何になるんだ。』

と叱ると、

『きまつてゐるさ、おぢいさんにならあ。』

◎お父さんの迷子

富山 前野百合子

今年六つになる政雄に、伯父さんが、

『政雄や、お前が迷子になつたら、巡査に名前がいへるか。』

と尋ねますと、

『並木町三十五楠場政雄。』

と答へましたが、やがてお父さんに、

『それぢや、お父さんが迷子になつたら巡査に名前をいへますか。』

◎コンマといふ藥

伊豫 旭 久代子

私の家は醫者ですが、良人が毎日藥の調合を命じますのに、何を零コンマ五とか、何を零コンマ四とか書生に申しますのを、四五日前から遊びに來てゐました七十五歳の母が横越しに聞いてゐて、

『レイコンマといふ藥はよほどよい藥とみえて、何の病氣にも利きめがあるのだね。』

と、まじめで申しましたので、大笑ひをいたしました。

◎お腹の子を縛る

岩手 工藤たき子

ある日、知人のところへまゐりますと、奥樣が御姙娠中なので、

『この頃はピクピク動くので、あまり遠くへは出られません。』

と申されました。すると、そばに聞いてゐた今年五つになる武ちやんが走つて行つて、庭から長い紐を持つて來たので、それを何になさるのと聞きますと、

『これで母ちやんのお腹の子を縛るの。』

と申しましたので、大笑ひしました。

（第八卷第七號）（一二五）

ものはづけ

本月の題は『丁寧なものは』といふのでした。例によつて、同じやうな答案は抽籤で當選を定め、◎印には書物を差上げます。

○　朝鮮　吉田富子

電話口のおじぎ

○　島根　松高橋文子

酒代をやつた車夫のお禮

◎　神戸　岩瀬たつ子

選擧運動者の戸別訪問

◎　東京府　大西悌子

禿げ殘る頭髪の撫でつけ

○　大阪　高屋房子

晴衣裳を自分で縫ふ時

○　渡島　栃内さな子

心づけを貰つた旅籠屋の女中

○　伊勢　早川文子

葉書のおもてに親展

◎　和歌山　下垣内鞠子

金借りに來る人の挨拶

○　北海道　大石すゑ子

金滿家と見た田舍醫者の診察ぶり

○　京都　山岸光子

新らしい車掌さん

○　長崎　守田久美子

生命保險の勸誘員

○　山形　阿部千代子

小說子賓の源次

○　大阪　轟木とく子

左官の壁塗り

○　淡路　谷きさ子

こはれものの荷づくり

七月號の課題は、『困るものは』といふのです。〆切は六月八日、一人一案かぎりのこと。

麥飯を召上れ

原田製麥會社
支配人　原田彦左衛門

日本人は米を主食物にしてをりますが、米は、毎年三四百萬石ぐらゐ不足してをります。その不足は外國米を輸入するか、または、それに代る適當な品物を探して補ふより外によい方法はありません。

それと同時に、一方では農事の改良とか、耕地の整理とかをして、米の產額を多くするのも一つの方法ですが、それには限りがあります。それに、人口は毎年約六十萬人以上づつ殖えて行きますから、これからは、ますます米が足りなくなるばかりです。

それですから、私は、その不足を補ふために麥を食べたらよからうと思ひます。麥は只今のところ一ケ年約二千萬石とれますが、今後新開墾地や水田の二毛作をうまくやれば、少なくとも倍額は取れます。

そして、その價は米の半分にしか當りません。

それに、私どもの最も注意すべきことは、米を食べる人に脚氣の多いことです。ところが、麥は、その豫防にもなるし、治療にも効があります。

それですのに、世人は、麥は粗雜で不味いからといつて用ゐませんが、この頃は、麥の搗へ方が上手になつて、外見も風味も外國米に優るやうになりました。これまでの麥の搗へ方は混砂搗で、おまけによく乾燥してありませんでしたから、醱酵して品質が惡くなつてしまひました。そして、醱酵したものは脚氣の豫防にはならないといふことです。

ところが、今度改良された麥の製法は、無砂搗で、おまけによく乾燥してありますから、割麥や平麥で食べても、米に劣らないくらゐ美味しいやうに思ひます。米の中へ麥を入れて炊く時に、小豆を少しばかり入れると、なほ美味しくなります。

私は、國家の經濟や國民の衛生といふ方面から見て、麥飯主義を皆さんにお勸めいたします。



短文

壹等

晩春の夕　福島　菅原はつ子

紅の花の散り行くかたへに、梨の花は眞白に咲いて、糠のやうな雨が音もなく降りそそいでをります。晩春の哀愁はどこからともなく漂うて來て、綠の會津の野、逝く北國の春は寂しい。ポツと煙る飯森山は靜かに眠つてをります。私は、ふと武士道に斃れた可憐な少年の哀しい物語を思ひ浮べて、一入この夕を淋しみました。

貳等

牧塲の娘　本郷　田村いく子

巴旦杏の木かげには、山羊が靜かに眠つてゐる。一つでも巴旦杏の實が落ちたなら、柔かな胸毛のうちの夢は破れよう。牧塲の娘はかう思ひながら、あの誘惑するやうな初夏の日光を浴びて、シットリとした草の上に寢轉んだ。

チイチクチイチク雲雀が啼いてゐる。

參等

ネルの着物　小石川　中村つねじ子

外には糸のやうな細い雨が降つてをります。靜枝は窓際で、美ちやんの一つ身のネルの着物を縫ひはじめました。赤糸の多いアラ縞のネルは靜枝の手先きにつままれて、針が動いて行きます。靜枝は急にその針先を止めて庭の方に視線を移しました。庭の木の下には色の褪せた椿の花が落ちてをります。

――靜枝の顔は急に輝きました。

秀逸

螢　東京府　川添　松子

窓際に吊した藥の匂がほのかにします。

『貞ちやんは、いい子、馬鹿。』

私は、妹の柔い手を揉みながら、かう聞きました。けれども、最う眠いといつた風で、何も答へませんでした。

ざわざわと若葉を吹く風は、この幼い妹の髮を靜かに吹いて居ります。私は、ふとうら悲しくなりました。そこへ、螢が珍らしくスウツと青い光を引いて飛んで來ました。

午前の日光　兵庫　久我　政子

長く肺を病む姉は、定つたやうに朝から晝へかけて緣端へ出て、和い初夏の光を浴びてをります。植込の色を受けた顔が一層青く見えて、長い黒髮が徒らに細い肩へ亂れてゐるのが、淋しい思ひをさせます。

姉は今朝からヤツと咲き出したひなげしを、懷しさうにヂツと見つめてをります、それが私には悲しうございました。

幼き思ひ出　陸前　遠藤　靜子

薄霧のなかに、芹の白い花が可愛らしう浮んで見えます。こんな夕暮によく姉さんに連れられて、裏の草むらで螢を追うたことを思ひ出します。そして、私の好きな月の小唄を唄つて下されたことも覺えてをります。さうした時には定つたやうに遠くから草笛の音と時鳥の聲とが聞えて來ました。私は、それを思ひ出して姉さんが戀しくてたまりません。

夜の雨　東京府　玉村美枝子

外では細い雨が降つてをります。私は雨の夜の冷い空氣に浸つて、ネルの單衣を縫ひ續けました。そして、色彩も肌ざはりも軟いネルに包まれる樂しさを思ひました。

縫ひあきて窓を明けると、一時に流れ出た瓦斯の光に、庭の青葉がスツキリ浮び出て、綺麗に洗はれた葉から葉へ雫が垂れました。私は、掌へ受けて見たいやうな氣がしました。

野川の水　三重　松本　淑子

日がきびしく照りつけてゐるので、川の底までキラキラと透いて見える。兩岸を蔽ふ若葉の影が水底に映つてゐた。

と、その間を目高が二三疋、快ささうに泳いでゐる。そして、時時何か考へるやうにジツと鰭を休めては、また俄みに驚いたやうに泳ぎ出す。水馬が一つ、草の蔭から躍り出て、クルクルと水の上を廻り出した。

日記の一節　兵庫　松田　照子

二月二十日、土曜日。

シトシトと春雨が降る。なまぬるい空氣のなかを何とも知れぬジメジメとしたものの香が漂うて來る。

こんな日にはヒヤシンスが、音もなく咲くのであらう。野の枯草の間にはペンペン草が芽ぐむのであらう。

私の胸には憂鬱が眼を開くのである。

初夏　金澤　山崎喜榮子

夏らしい日が靜かに照つて、滿目の新綠は目が痛いほどキラキラしてをります。四邊には何ともいへぬ青草の香が漂うてをります。眞下の水田には菜種が根こぎにして捨てられてをります。そして僅かばかり殘つた黄色な花が哀れに見えます。何處からか白い蝶が飛んで來て、その上を舞うてゐたが、何を思ひ出してか、麥畑の方へ飛んで行きました。

靜夜　鹿兒島　吉田　芳子

遠くで聞えた芝居の太鼓の音も、時折り響いた下駄の音も、全く絶えてしまひました。死のやうに冷い夜の靜寂がヒシヒシと胸にせまつてまゐります。私の悲みは愈よ深い悲みに落ちて行くばかりでした。

ふと猫が菜畑の方で頓狂な聲を出して鳴きました。私の身の毛は思はずゾツとして、ランプの灯を掻き立てました。

夕の濱邊　熊本　白木　榮子

濱邊には、今しも舟が漕ぎつけようとしてゐる。五六才の可愛らしい女の子をつれて立つてゐる一人の婦人は、顔に喜びの色をたたへて良人の歸りを迎ふるのであつた。

靜かに寄する波には、宵月の影がチラチラとこぼれて、涼風が沖の方から吹いて來る。

次ぎの方方のお作は皆よくできてゐました。

名古屋　早川　俊子　三重　柴山芙佐子
長野　倉科よしみ子　岡山　土屋　俊子
丹波　三浦ぎん子　大分　野上　菊子
京都　淺田かほる子　本郷　松岡ゆり子
京都　都路　桂子　茨城　皆川さち子
北海道　三木しか子　下谷　友部　幸子
德島　佐澤　京子　兵庫　渡邊百合子



和歌

壹等

○　東京府　岡部倫子

ゆく春は抜毛を指に巻きつくるはかなきわざも涙こぼるる

貳等

○　陸前　遠藤靜子

何ごともさびしき笑にまぎらする悲しき性とわれはなりにき

○　兵庫　久我政子

泣きしこと死ぬばかりなる思ひなど憶多き日記にあるかな

參等

○　羽後　三浦文江子

籠を逃げし淋しき鳥は歸り來ぬ雨に濡れたる苗香の花

○　下谷　小野原美知子

ごとごとと姉が荷積める手車は村の境の橋を渡りぬ

○　長崎　山下よね子

顏見らるるが恥かしいとてうしろ向き紀伊の國など彈きたる女

秀逸

○　下關　小原夏子

嫁ぎ來て初めて縫ひし單衣きせまゐらする手のわななける

○　大阪　大成鞠子

間引きして捨てし二葉の朝顏の日蔭さびしく育つ佗しさ

○　長崎　柴田時子

うつらうつら物を思へりふと頬に觸れたる窓の玻璃の冷たさ

○　宮城　齋藤安江子

水莊の灯に白蓮の夢かとも仄かに咲けば昔戀しき

○　島根　尾木みち子

繪襖の牡丹しづかにおほひけり衣桁をすべる紫の袖

○　伯耆　大津正子

悲しきはいたきいばらと冷やけき巖に抱かれ咲く藤の花

○　大阪　中川照子

氣まぐれに君に勸めしカステラの殘りなど食むたそがれの部屋

○　長野　山本勇子

また更に思ひ泣くため野に來しと人には告げそわが頬白よ

○　東京府　大橋とも子

ふるさとや家鴨を水に放つ日も君を思へば胸痛むかな

○　大阪　高屋房子

下りゆく舟呼びとめてことづくる賤女の襟の赤き色かな

○　赤阪　堀越さだ子

おぼろげにガラスに映るわが姿ジッと見詰めぬ曇り日の午後

○　兵庫　田中てふ子

草のとげ小指に刺さば血の出でむ紅絹に包まば悲しからまし

○　米子　冬木たみ子

ゆきくれて丹波路に入る旅人のすげ笠に散る栗の花かな

○　福島　母木川せつ子

青菜洗ふ白瀬戸鍋にチリチリと殘る小砂の愛らしきかな

○　豐後　佐藤まさ子

逝く春や鉢に植ゑたる一輪の紅椿にも浮ぶ淋しみ

○　備前　伊勢早子

眼つぶれば黒き蝶とびギラギラと狐廟に日の燃ゆる午

○　愛知　大谷りえ子

わが指のルビイの指輪よありし日のいとうるはしき思ひ出の夜よ

○　岩代　岸野せい子

五月雨や讃美歌もるる玻璃窓の下の空地に耕爽の咲く

○　備前　林千年子

夏の朝白きベットに一筋の抜け毛吹かれてあるが悲しき

○　本郷　平原つき子

ペンを持つ指に小さき胼胝できしこの生活のあまり淺まし

○　下谷　橋本まち子

わが戀のをはりもかくや紅椿くろみて土に返る悲しさ

○　長崎　松本美音子

ほてりたる頬撫でてゆく甘き香のここちよきかな温室の花

○　東京府　前田とし子

わりなしや春惜しむてふいささかの淋しさに咲く白き夜の花

○　麻布　曾根はる子

運命はかなしきものよたんぽぽの風に吹かるるたよりなさかな

○　下總　畔蒜こと子

新妻のつつましやかの心よりもろくいじらし白けしの花

○　千葉　西山なほ子

爪かみて血潮のにじむ指先に春の悲しさまつはりてあり

○　愛知　都築はまじ子

耕つつじや若き少女の胸の血の燃ゆるが如く美しう咲く

○　京都　元生留子

時鳥鳴きぬ小雨の明け方を悲しや乳の新願しをれば

○　福岡　西村君子

加茂川のゆふべ明るく灯を入れし紅提灯にわが心咲く

○　本郷　田村いく子

朝の波いだけば消えむ悲しさを知りつつ君の忘られなくに

○　筑前　日下部はな子

初夏はかのかよわなる北國のわが姉が來てキャベツ咲かなむ

○　佐賀　石井つて子

運命がなせしいつはりけじめわかずも

○　出雲　長崎君子

この日ごろ君が好みしわが髪を結ひてもみつつ思ひつづけぬ

○　筑前　福田由子

すずろかに小鳥啼く日のふるさとは青葉若葉にしげき思ひ出

○　久留米　橋本かめの子

朝戸出の髪ひやひやと裏庭の柿の若葉をぬらす糠雨

○　甲府　塚田せき子

枇杷の芽は黄色く濡れて夜あけぬと土佐の海邊の人のたよりに

○　東京府　若部さゆり子

花咲けば悲しあふひの一もともわが戀人のおもかげにして



俳句

壹等

水換へて檜桶匂ふや心太　長野　横澤澄江子

貳等

毒藥の壜を並べて棚暑し　筑後　原邦代子
國境の橋の擬寶珠や雲の峰　京橋　大内てい子

參等

青疊突きぬく針や風光る　東京府　橋本ふく子
物の怪に閉せし門や藤の花　熊本　倉富いち子
白銀の皿のいちごや風かをる　神田　重田貞子

秀逸

春の夜や玉藻の蔭に鮎眠る　愛知　下郷とよ子
新緑や奈良の小家の角細工　熊本　古岡ひで子
葉櫻や寢耳に明の鐘遠し　下野　保坂しん子
辨慶の踏みし石とて躑躅咲く　京都　苑木いく子
鎌倉や八幡宮の夏木立　名古屋　杉山靜子
群集を逃れて橋の涼しさよ　熊本　井上智子
米を磨ぐ舟べりに這ふ螢かな　京都　都路植子
青田ひろき村に報德祭かな　淺草　淺野とく子
剃りおとす眉あと青く尼若き　京都　坂上みち子
風ふけば山動きけり青簾　備前　近藤壽賀子
王城に移す巷の牡丹かな　牛込　畑中小子
よく眠る蝶蝶を吹くや峰の風　東京府　濟田秀子
卯の花や山門低き里の寺　長野　横澤ちよせ子
青嵐樫の雄獅子の鼻を吹く　門司　山本芳子
金魚鉢天井に映る水輪かな　丹後　矢谷壽賀子
段畑に尺のすずしろ二三本　鎭海　増田まさみ子
山の井に猿の水飲む青葉かな　廣島　鷺島うた子
青燈の窓に更けけり鳴く蚯蚓　陸前　遠藤靜子
鐘樓に黄な花咲けり蛇の衣　四谷　杉浦なみ子
鹿啼いて奈良は舊都の春の雨　島根　寺戸壽子
衣更へて佐どの館を出でにけり　東京府　高木敏子
雲晴れて三日の月や梟啼く　滋賀　小柳文五子
新婚の厨に風のかをりけり　渡島　栃内さな子
橋普請ならず足場の梅雨に入る　常陸　今泉哲子
洗濯衣踏むをばしまや風かをる　麻布　金十四子
佛刻む石工が庭かぎろへる　小樽　野村米子
五月雨や若き詩人の肺を病む　山口　吉野雪子
春をよく笑ふ女の若きかな　備前　伊原田鶴子
濡りかへし杜の鳥居や風かをる　京都　太田しづ子
飯白く水よき里や夏の菊　羽後　三浦文江子
若草の孕める鹿に踏まれけり　對馬　西海操子
陽炎や何の木の實の芽に割るる　岐阜　福田百合子
針供養酒氣ある夫をうとみけり　朝鮮　片岡ふさ子
新らしき紺の法被や夏近し　伊勢　久留よし子
赤塗の木履流るや春の川　靜岡　大倉糸子
ゆらゆらと赤き日傘の渡し舟　兵庫　柳原花子
衣更へてわれも新らしき女かな　常陸　篠原菊子
溜池の金魚肥えけり五月雨　宮城　齋藤靜子
紫の牡丹愛すや醫三代　山梨　加賀いつ子
加茂川に友仙なびく春の風　兵庫　横田靜江子
美しき言葉洩れけり青簾　東京府　石川いそ子
梅雨晴や紅絹干す軒に蜘蛛の糸　長野　酒井秋子
蝙蝠や河岸の灯は非人小屋　山梨　三井菫野子
花嫁の在所がへりや初松魚　茨城　朝岡美津子
蚊帳はづす袂にかろし朝の風　尾張　西岡あい子
山吹に田舟漕ぎ入る裏戸かな　芝　小倉うた子
生姜匂ふ濱の小寺や夏近し　備前　林千年子
母家の灯隱居の灯みゆ青葉かな　下谷　井川とよ子
小狐の遊女姿や春の宵　麹町　北村みさほ子
藤の房ゆるるに集ふ緋鯉かな　兵庫　片山郁子
靜けきや雨の茶寮のかきつばた　福島　門馬しげ子
献上の錦織る灯や春の宵　香川　高尾ふみ子
劇場の壁の反射や夏近し　茨城　越渡守江子
經木編みつつ旅人出て來る蚊遣哉　東京府　前田とし子
鮨の飯わか葉の風にさましけり　神奈川　古谷喜美子
雨やみて柿の葉ひかる小庭かな　大阪　美野田郁子
石外れて鐘樓の蜂林に入る　丹波　三浦きん子
徴くさき漬物納屋や五月雨　山城　吉岡てる子
人妻の眉あと青し風かをる　靜岡　川合くに子
絹針のいささか錆びて春のゆく　德島　佐澤京子
連のなき金剛杖や日の永き　島根　内藤みち子
公園の若葉の蔭や體量器　小石川　深見春江子
燕や奈良の七堂の雨の中　栃木　福原りん子
飛岩に魚突く子あり月涼し　東京府　山田じゆん子
安兵衛の手植の松に巣鷹かな　越後　渡邊みつ子
髮結うて賣りに出でたる葵かな　奈良　花岡八重子
紅白の牡丹咲きけり須磨の宿　日本橋　内田しげ子
雨寒き曉星寮や時鳥　東京府　竹村勝枝子
卵の花の垣洩る笛や夏淺し　德島　大西きみ子
駕籠とめて蕨に暮るる山路かな　和歌山　鈴木靜子
菜の花を着て寢たやうな山家かな　奥州　羽田琴子
風呂敷の種えりて蒔く女かな　對馬　阿比留磯乃子
明け易き芦の根ゆする小魚かな　筑後　大坪きく子
花賣の笠新らしき京の町　石川　西出わき子
伏せ白に柿の花散る地震かな　長野　清水みき子
燒け砂や蜘蛛が蝿食ふ倉の壁　德島　伊丹かずの子
時鳥寢てみる蚊帳に月細し　京都　元生留子
唄そろふ若い夫婦の田植かな　秋田　佐藤富貴子



通信

▽身の上話

私は、一昨年女學校を卒業して、昨年の一月結婚いたしました。在學中は理想とか何とかいって、未來の良人の噂をいたしたこともございましたが、理想通りのところへ參つたのは、私と他に一人だけで、中には義理にせめられて結婚したお方もございました。それ故、私のことは同窓の友もお仕合なお方だ、あんなに肩書が立派な上に優しい良人のところへ行かれてお羨しいと、皆さんが口にいはれました。實際、良人がやさしくして下さいましたから、私は、自分ながら自分の幸福を喜んでをりました。然るに、その樂みはホンの束の間の夢に過ぎませんでした。昨年の夏以來、私は、病になやむ身となりました。初めのうちは、良人もお前をそんな病氣で苦させるのは皆私が悪いのだ、私の身に覺えがある、辛からうが辛抱して氣長に保養してくれと、醫者よ藥よと、さんざんに手をつくして下さいましたが、だんだん惡くなるばかりで私の身は日日痩せ衰へました。その中に良人も倦りはかばかしくないのに飽きが來たのでせうか、次第に私に疎くするやうになりました。その一擧一動に變なことばかり現はれて、遂には邪魔者扱にされる身となりました。情ないことには、時時、女文字の手紙が男名前で來ることさへありました。私は、病氣は癒らず、良人には見放されて最早や末の見込はないとあきらめました。そして、私は、二月の末に思ひ切つて病ばかりを土產に實家へ歸りました。

實家へ歸つたとて、共に悲んでくれる父もなければ母もありません。ただ、兄夫婦があるばかりです。せめてその兄夫婦でも同情してくれるのなら慰みになりますが、それは到底望まれぬことでございました。毎日、厄介者扱にされてをります。

ああ、皆さん、何うぞお察し下さい。天にも地にも寄りつく島のない捨小舟の身を。つひ、この頃、人の噂に聞けば、私が歸つた後では、私と同じクラスにゐて、私と親しくしていらしたお方が參られるさうです。今となつては、私は、良人を恨みません。その友を憎いとも思ひません。私は、かうなつたのは全く天命だとあきらめてをります。ただ、その舊友が私と同じ運命につながれないやうにと、祈つてをります。（山口　捨小舟）

▲記者曰く。誠に感心なお心がけです。これも皆宿世の緣とおあきらめなさい、恨んだとて恨み通せるものではありません。それより心を綺麗にして、先方の幸福を祈つておいでになれば、あなたの身に何時か報いられて參ります。そして、安靜な生涯に入ることができます。御病中でありますれば、猶更心を腐らせないようにすることが肝要です。

（第八卷第七號）（一三四）

『お尋ねとお答へ』

▲記者曰く。左に掲げてあるお方の現住所を御存じのお方は、本欄でお敎へ下さるやうにお願ひいたします。

◎父は河崎繁松といひ十年前函館でなくなりましたが、本年二十四五才の長女と弟がある筈。その現住所を。（河崎季子）

◎明治四十二年頃府下南千住町原田樣にをられた森重敏樣。お年は十九位。（山根千代子）

◎播州赤穗の人、二年前名古屋の某中學に奉職せる北畠竹之助樣及夫人梅野樣、御夫人のお年は三十七歲、子供なし。（埼玉　安積）

◎明治三十七八年頃熊本郵便局の調査係ををられた鈴木邦子樣。（福岡の雪）

◎高松市の御出身、三年前神田錦町の音樂學校にをられた國越のぶ子樣、お年は本年二十二歲。（本鄕　愛讀女）

◎明治二十七年頃、水戶の高等小學校を優等で卒業された川村すゑ子樣。（てつ子）

◎福岡のお方で、明治四十四年七月十五日に臺北から內地へお歸りになりました筈の松延竹野子樣。（臺北　昔の友）

◎前東京市長尾崎行雄樣のお孃さんで、法學士佐木久二樣のところへおかたづきになりましたお方の現住所。（若松　忘名草）

◎四五年前宮城縣立宮城高等女學校を卒業なされた細谷英子樣。多分、大連にをられる筈と思ひます。（神戶　若き母）

◎明治四十四年七月東京裁縫女學校を御卒業の藤本貞子樣。その當時東京本所北二葉町四三に御住居と聞きましたが、その後山梨縣へ御歸國と聞く。それから茨城縣眞壁郡上野村の星野さい子樣、仝昨年四月東京裁縫女學校卒業後大分縣の某女學校に御奉職と聞きましたが現住所を。（山口　嘉村幸子）

◎以前大坂平野町にをられた品川久子樣。東京へ出られたと聞きますが。（大和　縫子）

◎明治四十四年頃、本鄕駒込富士前町四五に御住居の安藤一雄樣の夫人光代子樣。御鄕里は讃岐です。（備中　藤生女）

◎熊本高等女學校を御卒業遊ばした井上すま子樣。（北の海業）

◎年は四十歲以上五十歲までの間。名は松田熊藏と申します。（德島　捨小舟）

◎以前に韓國馬浦將軍橋迄にをられた穗坂みち子樣。（沼津　嘉女）

◎高知縣出身の森まさ子樣。且那樣は汽船會社の重役と聞いてをります。（すみれ女）

◎以前、牛込區若松町十二番地にをられた山本照子樣。（牛込　朝倉うた子）

◎明治三十六年頃奥市第二和庄尋常小學校御奉職の桂野ゆき子樣。（佐世保　澁子）

◎京都府紀伊郡吉祥院村字西中のお方で、昨年の四月に山口高等商業學校御卒業の小原新三郎樣。（山口　初菊）

◎宮城縣玉造郡川渡村の人で昨年まで志田郡大柿三三三に御住居の藤島のぶ子樣。それから、仙臺市新弓町の細川きよし子樣は只今どこに御住居でせう。（臺灣　皆川よし子）

◎熊本縣のお方で高田秀雄樣。また二十年程以前に京都にをられた藤井金吾樣、畵家で白拳と號してをります。（浪華　弓女）

◎以前滿州にゐて三年程前に行衞不明になつた金子良敬といふ人、年は三十二歲で私の弟です。（大坂　一女）

◎鹿兒島のお方で舊姓を向井登美子樣といはれるお方。（たきとも）

◎以前湯島天神町二丁目に在られた岡本くに子樣。今は府下巢鴨へ嫁いで確か白土樣とかいつてをられる筈です。（繁子）

◎京都府下伏見深草村のお方で和田山みつ子樣。一昨年まで大坂府下豐能郡池田大坂回生病院で看護婦を勤めておられたお方。お年は二十三四です。

◎もと大坂女學校に通學してをられた高田艷子樣といふお方。（小舟）

▲記者曰。前號に掲げた分に對して、次ぎのやうな御返事が參りました。

◎お懷しい南の國の姉上樣、お變りもございませんか。妹も無事にくらしてをりますから御安心下さい。（三浦　貞子）

◎東京愛讀女樣。松島千代子さんは一昨年十月御結婚、板津樣と改姓いたされ、京都市東九條東寺道富樫出張所內にをられます。今では一女の母君です。（富山　生井）

◎四月號で私の住所を尋ねなされた高砂女樣。住所姓名を委しく紙上でお願ひいたしますが、私は片田舍で孤獨の無意味な生活をしてをります。（信子）

『前號の噂』

◎村井先生の『子寶』は、私等にいい手本です。喜代子さんは感心な婦人だと思ひます。末によいことがあるでせう。（京都　時子）

◎村井先生の小說『子寶』は何時も泣きながら讀みます。五月號などは妹と二人で泣いて讀みました。（靜枝子）

◎村井先生の小說『子寶』は私等の將來のために、よい敎訓だと思ひます。姑のお濫は斯くまで溫順な柔しい喜代子さんになぜつらく當るのでせう。（千葉　愛讀者）

◎私は、六年前から本誌を無二の友としてをります。益すよい雜誌になつて行くので嬉しくつてたまりません。昨年からの小說『子寶』は一層面白く拜見してをります。淸子さんは、何とおいたはしいお方でせう。それに引きかへ、姑のお濫は本當に、にくらしい人だと思ひます。（神田　すみれ）

◎村井先生の小說『子寶』はこれから姑になる私どもに無二の讀みものだと思ひます。そして、五月號は『子寶』姑め』山本仲尾』も揃つて氣の毒でした。（長野　ふさ子）

◎露子樣。實說不如歸、誠に有り難う。また小說『子寶』の記事もあはれでたまりません。殊に、喜代子さんが床にをられる繪はお氣の毒でたまりません。（丹波　藤原加根子）

◎五月號の『子寶』にはすつかり泣きました。歲雄さんより離緣の話をいひ出された源次さんのお心はどんなに辛かつたでせう。そ

れを聞かれた喜代子さんは、またどんなに驚かれたでせう。それから『慈悲深い我が家の舅姑』は深く身にしみました。『潔く我が過を悔悟した婦人』も、また『子供の褒め方と叱り方』も有益でした。（山口　梅子）

◎五月號の『子供の褒め方と叱り方』は誠に有益な記事だと思ひます。また、高信峡水先生の『婦人と交際』は私のやうに交際の下手なものに取つては誠に結構な本だと、喜んでをります。（朝鮮　栗山菊子）

◎村井先生の小說『子賓』は毎月面曰く拜見いたします。あんな心のやさしい夫婦をなぜ姑はいじめるのでせう。それから、岸邊先生の『子供の褒め方と叱り方』は大變有益なお話だと思ひました。（里之女）

◎貞婦山本仲尾には泣かされました。藤三郎の天晴の心掛といひ、藤四郎のけなげな物言ひぶりといひ、また仲尾の『武士は泣かぬものよ』と悲しさをこらへていふ、その心が察せられて。（長野　百瀨まさを子）

◎鐵火鞭樣の『貧しき家より』は本當にようございました。冴花樣のお言葉の通りあんなのを、最う一つ二つふやして頂きたいと思ひます。（大阪市　髻の女）

◎加納多津子樣の『慈愛深き我が家の舅姑』を拜見して感心いたしました。それにつけても小說『子賓』の姑さんの意地惡が思ひ出されます。（大連　千代子）

▲記者曰。村井先生の小說『子賓』について、同じやうな通信が澤山參りました。記者はできるだけ澤山掲載する積りでをりましたが、紙面に限りがあるので、惜しいと思ひながら省くことにいたしました。

『讀者倶樂部』

◎私は昨年の一月からこの有益な『婦人世界』を第一の友としてをります。愛讀者の諸姉樣、何うぞ宜しく御交際下さるやうにお願ひいたします。（小樽　内田とよ子）

◎私は甲斐の片田舍に住んでゐるものでございます。今年の三月女學校を卒業してからは、本誌の愛讀者となりました。諸先生始め諸姉樣、何うぞ末永く。（山梨　杉浦春江子）

◎記者樣。私は皆さんのお身の上とちがつて學校へもロクに參らぬ不幸な境遇でございます。お友達は皆立派に暮してをるので誠にお恥しい次第です。（越後　池原はつ子）

◎私は、七八年前から『婦人世界』を愛讀してをります。お友達がいらつしやる度に澤山の『婦人世界』をお目にかけますと、どなたも有益な雜誌だといつて、直ぐ愛讀者になつて下さいます。（石川　毛利昌子）

◎私は、以前に少女の友を愛讀してをりましたが、大正の初春から『婦人世界』の愛讀者となりました。（茨城　柳町千代子）

◎愛讀者の諸姉樣。誠に懷しうございます。不束な私も先月から愛讀者になりましたが、片田舍の少女ですから、皆さんのお引立を幾重にもお願いたします。（山梨望月きぬえ子）

◎私は、ズツと以前から本誌を愛讀してをります。他の雜誌も讀んでをりますが、年齡や境遇が違つてゐるためか、私には本誌が第一の好師友で、いつも座友に備へて樂んでをります。（岡山　梓子）

◎私は、早い前から『婦人世界』の愛讀者です。今度、裁縫學校へ入學して見ますと、他の婦人雜誌は皆禁止されてゐるのに、本誌だけは許可されてをります。（愛知近藤きさ子）

◎長野の北條こりん子樣。お懷しうございます。私も今度『婦人世界』の愛讀者となりました。少女の友も有益でしたが、本誌はなほ有益ですね。（廣島　兒玉智枝子）

◎私は、少女の友第一卷第一號からの愛讀者ですが、今度から本誌を愛讀することにいたしました。（北海道　黒岩千代子）

◎思ひ出で多き故鄕を去り、懷しい父母の傍をはなれて臺灣の地にある身に取つては『婦人世界』が無二の友であります。殊に小說『子賓』は非常に面白いので、良人の留守にはそれを讀んで留守中の淋しさを忘れてをります。（臺灣　皆川よしゑ子）

◎昨年の今頃、桃の香に醉ひながら本誌を讀んでから、非常な趣味を以て愛讀してをります。（龍山　白百合）

◎私は、明治四十年よりの『婦人世界』の愛讀者です。他にいろいろの婦人雜誌を澤山取つてをりますが『婦人世界』が一番有益だと思ひます。（大阪　しぐれ女）

▲記者曰。他に新しく愛讀者になつたから宜しくお願ひいたしますといふ葉書は澤山參りました。記者は全部載せる積りでしたが、紙面が足りないので割愛いたしました。

◎大阪の文子樣へ、おはがき有難う。（峡水）

美容問答

解答者　東京美容院長　北原十三男

解答者より

美容についてお問合せ下さるお方が非常に多うございますから、施術のことや藥のことまで、本欄でお答へすることはできませぬ。それは、本社代理部なり私の宅なりへ宛てお申越し下さるやうにお願ひいたします。

〔問〕本年四十五歲の女子、二三の白髮染を用ゐたるに何れもクサの如きものでき、頭より顏まで腫れ上れり。斯かる憂なき白髮染なきものなりや、否や。

〔答〕少し難しいですが、當時の白髮染は簡單でよいといつて、フエノオル物質の酸化法に依るものが多いやうです。警視廳では已に禁止してありますが、地方にはまだあります。それはよく染りますが、時時特異質といつて或るものに對しては特別に弱い皮膚を持つてゐる人があります。それで、お尋ねのやうな症狀となるので、何方も中毒するものだとは限つて居りません。それですから少しでも右のやうな樣子のある人は絕對に白髮染を用ゐない方がようございます。度度やるうちにはハゲになる憂があります。またお尋ねのうち硼酸のためポツポツができたとか、石炭酸のため吹出物ができたとか申越さるるお方も、その人の性質に依る特異質ですから、その品だけは用ゐない方がよいでせう。

〔問〕四歲の時、頭の頂邊に毒拔き藥を張りしため禿げをれり。毛は最早や生えざるか。

〔答〕發泡を貼つたのでせう。多分毛は生えないでせうと思ひます。

〔問〕爪際むくれ上りて痛く、見苦し。治療の方法なきものにや。

〔答〕ラノリンを薄くつけてお置きなさい。そして、サカムケの長いのは、その部分を切つて置かれた方がよいでせう。

〔問〕隆鼻術を行ひたるに、そこだけ赤く腫れ上れり。如何にすべきか。

〔答〕早く藥を拔き取りなさい。

〔問〕頰紅は目のふちだけつければよしと聞く、それにて宜しきものなりや。

〔答〕田舍では目のふちだけ塗るところがありますが、下品なものです。頰の目の下寄りの方へポツとぼかすやうにすれば活氣があつてようございます。外國人は顋まで塗りますが日本人には跳ね返りのやうに見えます。

〔問〕生れて四ヶ月の女子、頭に白雲の如きもの一面に出來たるまま取れず。斯くては末に禿となる恐れなきか。

〔答〕これは初め生れる子供が母の體內にゐる時に、皮脂の分泌作用が盛であつたのが、なほ衰へない頭皮乾性皮脂漏です。純植物性の油を塗つて、注意して梳櫛で梳いてお上げなさい。昔からやつて來た方法で澤山です。石鹼を泡立たして海綿で輕く洗ふのもようございますが、前の方がよいでせう。禿になるやうな心配はありません。

〔問〕毛が拔けて困る。フケができて困る。毛が切れて困る。頭が痒くて困る。これを治療

するによき方法なきか。

〔答〕同じ問が澤山參りました。何方も秋に髮の拔けるのは知つてゐますが、春毛が拔けるのに氣のつく人は少ないやうです。春は一般に皮脂の變化の易い時、分泌の異常を呈する時、精神の疲勞を起し易い時ですから、それから起るのでせう。なるべく頭の毛の生えてゐるところを奇麗に洗つて置いて、適當な毛髮の營養料を用ゐれば直ぐ癒ります。

〔問〕私は田舍者にて顔のお藥を使ひたることなし。いつぞや東京より歸り來れるお友達に硼酸と硼砂とを交ぜて用ゐれば白くなると聞き試みに用ゐたるところ、顔や身體一面に紅色のアザの如きものでき、それがまた廣りて粟粒の如きものでき痒さ甚し。近邊のお醫者に診察を請ひしところ、硼酸は斯るものを癒すものにて、斯るもののできやう筈なしと申されたり。他には何も用ゐたことなし。お醫者は藥の間違ならむといはれたれど、お友達は現にそれを用ゐつつあり。何故なりや。

〔答〕それは藥の間違ではありません。藥ばかりは特異質といつて、甲の方に効があつても乙には害になることがあります。また硼酸や硼砂は、人によると瀰蔓性紅斑ができることがあると、多くの學者が證明してをります。硼酸は藥のうちで比較的に弱いものですが、日本人が信ずる程効のあるものではありませんから無暗に使はない方がよいでせう。それから私がよくいふ通り硼砂とグリセリンとを交ぜますと、毛を茶色に染めることができるぐらゐです。さういふものを醫藥疹といつて各國で認めてゐるぐらゐですから醫者の知らぬ筈はありません。しかし、御心配はいりません。捨てて置いても癒ります。

〔問〕焦性沒食子酸と**ワゼリン**の合劑は赤毛を黒く染めると聞く。事實なりや。

〔答〕茶褐色になるばかりです。

〔問〕白粉のためにや、鼻の兩側に黒い**ブツブツ**したるものでき、押出せば**サカムケ**の如くなりて癒らず。如何にせば治癒し得るか。

〔答〕入浴後などに餘り强い力を用ゐないで常に押出して、その後に酸性の化粧料を用ゐてお置きになればようございます。

〔問〕二十一歳の女子、學校にゐるうち誤つて机の角にて傷をうけ、今に至るも癒らず、如何にせば宜しきか。

〔答〕傷の狀態に依ります。おデコになつてゐないくらゐの傷なら幾分か輕減せしめることはできますが、まづ難かしいでせう。

〔問〕母が常に襟足を剃りくれれど、洋裝の時に餘りキチンとして可笑しと思ふ。何れにすれば宜しきか。

〔答〕その人の好き不好きに依りますが、日本人は襟足の美事についてゐる方が美しく見えます。巴里邊りでも丁度支那人が糸で毳毛を切るやうに額には手をつけませんが、襟足の毛を切るのを見受けたことがありますから、矢張り剃られる方がよいでせう。

〔問〕白髮染をなせしところ次ぎの如くなれり(一)毛が非常に切れ(二)頭の地腫れ上る(三)前よりも反つて赤毛多くなる。何故なりや。

〔答〕石灰を混ぜてある白髮染は毛を毀損して切らしますから注意しなければなりません。いゝくせ毛を直すなどといつてゐる白髮染は大抵同上の成分を含んでをります。頭の地が腫れ上つて毛の拔けるやうなのは、前のやうなもので發することもありますが、屢ば注意する如く**フエノオル**物質の酸化法に依る中毒で、特異性の體質を持つてゐる人に生じます。しかし、今は發賣を禁止されてゐますから、ない筈です。また前よりも却つて赤毛になられるのは、どの白髮染でも隨分毛を毀損しますから、その別作用といつてもよい程赤毛になります。そして、絕えず染めなければならぬやうになるものですから、少しぐらゐの赤毛の方なら染めない方がよいでせう。何れも原因を去つて、頭髮と地に植物性の油をつけて置けば幾分か恢復することができます。

〔問〕御社代理部にて買求めたる毛生液、お蔭樣にて見事に生え、藥なほ殘る。他の人に差上げても害なきものにや。また人に依りて相違するものなりや。

〔答〕人に依りて大に相違しますが、一般的にできてゐるものは何人が用ゐても決して害はありません。

〔問〕昨年暮より皮膚に浮き上りたるおできのいゝ如きものでき、順に乳房の近邊まで廣り、暫くにして膿を持ち、腐りたるやうになり、臭氣甚し。そのために癩病にあらずやといはれたれど、斯る血統更になき由、他から傳染したるものなりや。それとも他の病氣なるか。

〔答〕腐つても癩病とは限りませぬ。右のやうなもので皮膚壞疽といふのがあります。多分それと思ひますが、專門の大家のお醫者に見て頂いたらよいでせう。

〔問〕本年十七歳の女子、來春卒業すると同時に他へ緣づくこととなりをれど、お化粧やうの考なく、親すら心配するぐらゐ色黑し。今よりなりとも幾分か何とかならぬものにや。

〔答〕何とかなります。色の黑いのぐらゐは心配なく漂白することはできますが、**キメ**は早速といふわけに參りません。在學中のお方ならば自宅でなさる手當ぐらゐは、手すきの時にお教へいたしませう。

〔問〕日本にゐるうちは相當に色白しといはれたれど、當地**メキシコ**へ來りてより何となく黄色に見えるといはれる。他の人に承りても皆さうだといふ。土地の關係なりや。それとも他にお心付きのことあらば、誌上にてお教示下さるまじきや。

〔答〕單に**メキシコ**ばかりでなく、チョツと支那、臺灣、朝鮮などへ行つても、日本人は婦人に限らず一般に黄色に見える時があります。普通海州色とか臺灣色とかいつてをります。原因はまだわかりませんが、酸性のもの、例へば醋酸とか葡萄汁とか果實汁とかを適宜に水にまぜて顔を洗ふか、または塗る時は、一時その色を去ることができます。

質問は**ハガキ**に認めて左のところへお送りなさい。直接返事を求むる分は切手封入の事。

東京市神田區駿河臺袋町九番地
東京美容院長　北原十三男

なほ北原十三男先生の發明された美顔料や美髮料は、本社の代理課で取りついでゐますから、**ハガキ**でお申込みになれば、藥名と使用法と定價を書いた目錄を送つてあげます。

足長の足の蚊たたく手長かな（鬼史）

◎蚊帳　本麻縫目なし

大小	寸法	常盤 丈け五尺五寸	高砂 丈け五尺八寸	旭白砂 丈け五尺五寸	旭眞砂 丈け五尺五寸
△四疊半釣（六七同樣）	タテ六尺 ヨコ五尺二寸	七圓拾五錢	九圓四拾五錢	七圓七拾五錢	八圓〇五錢
△六疊釣（七八同樣）	タテ七尺 ヨコ六尺	八圓五拾錢	拾壹圓參拾錢	九圓四拾錢	九圓七十五錢
△八疊釣（七十同樣）	タテ八尺八寸 ヨコ六尺	九圓九拾錢	拾參圓也	拾圓九十錢	拾壹圓四拾錢

以上郵稅 内地 當方負擔 四疊半 六疊八疊 臺樺貳拾錢 臺樺貳拾貳錢 清鮮三十錢 清鮮參拾二錢

△釣釣手 四本一組 四拾五錢 郵稅 市内四錢内地八錢臺二十錢清鮮廿錢

子供用幌蚊帳 △眞砂（裾ぼかし） タテ二尺九寸 貳圓四拾五錢 郵稅 市内四錢内地八錢臺樺廿錢清鮮廿錢 △美好紗（白地裾模樣）（綿） ヨコ一尺九寸 壹圓八拾錢

天幕蚊帳（嚢入） 大人用 疊一枚敷 貳圓拾錢

以上郵稅 市内 四錢 内地 八錢 臺樺 廿錢 清鮮 參拾錢

新案 幌用金枠 堅牢美麗 六拾五錢 郵稅 市内四錢内地十六錢清鮮四十五錢臺樺三十五錢

小幅製、本麻濱蚊帳（縫目あるもの）

本濱鯨	一巾縫上がり八寸五分	沖風鯨	一巾縫上がり九寸
六布七布	五圓九拾錢	八圓〇五錢	
七布八布	七圓拾錢	九圓七拾五錢	
七布十布	八圓拾錢	拾壹圓五十五錢	

市内の御方には代理部の勉强する内地郵稅（四疊半廿四錢、六疊廿八錢、八疊三十二錢）だけ引きます

◎敷布

（甲）舶來シーツ地
（大）長曲七尺五寸 巾曲四尺五寸 壹圓五拾錢
（小）長六尺五寸 巾三尺七寸 壹圓拾錢

（乙）綿糸桝目織
（大）長六尺五寸 巾四尺 八十五錢
（中）長六尺二寸 巾三尺七寸 七拾錢
（小）長五尺八寸 巾三尺二寸 五十五錢

郵稅 市内四錢 内地八錢 臺樺廿錢 清鮮三十錢

◎夏座蒲團地（本麻、五枚分一組）

近江縮大判（縞物）鯨一尺六寸 參圓五拾錢 仝カタン（平に織たもの模樣色色）
（大）一尺六寸 參圓貳拾錢
（中）一尺五寸 參圓拾錢
（小）一尺四寸 貳圓七拾錢
（半ガス）一尺六寸 壹圓九拾錢

郵稅 市内四錢 内地八錢 臺樺二十錢 清鮮三十錢

◎夏用純銀平打簪と中差

簪＝草花模樣、平打透し彫り（甲）長四寸六分 貳圓也
（乙）模樣の直徑五分 長四寸三分 壹圓五拾錢
（中）差一本毎に透し彫りにしたる優美なるもの、兩天の直徑四分、伸縮自在 壹圓七拾錢

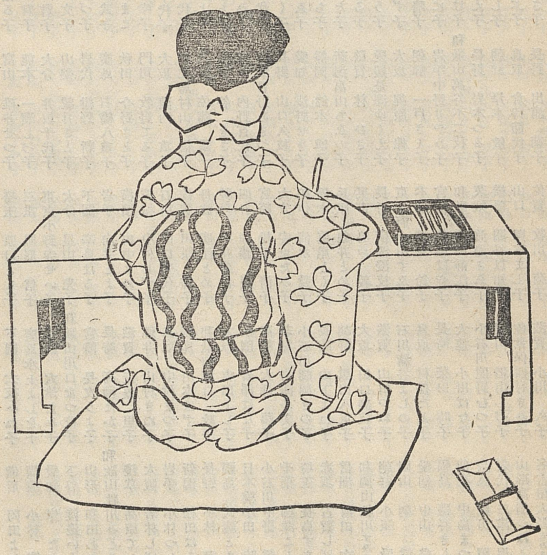
郵稅 市内四錢 内地八錢 臺樺二十錢 清鮮三十錢

▲夏のお化粧料の目錄入用のお方は、ハガキを下さい。

電京 八七四、八七五 八七六、八九九 實業之日本社代理課 口座三二六

判じ繪新題

この婦人は、机に向つて頻に何か書いてゐるやうですが、何を書いてゐるのでせうか。わかつたお方は判じ繪係へお知らせ下さい



『前號判じ繪當選者』

前號判じ繪の答は

あやめ

でした。例によつて正解者のうちから抽籤の結果、左の四百十五名を當選者と定め、賞品として婦人世界繪はがき一組づつ差上げます。

神戸 榊原 年子
長野 高橋てい子
山形青沼美代乃子
和歌山加田百枝子
下谷後藤波津枝子
廣島 太田節代子
長崎田中となよ子
長野 高橋よし子
奈良水本きぬえ子
島根 長瀬たま子
水戸 堀越とめ子
長野山下二十三子
福岡 平山みき子
備後 石田 里子
兵庫 古川 芳子
呉市 箕村いく子
三重 今山 靜子
滋賀 淺見 民子
神戸 内田 貞子
島根 佐々木照子
函館 廣瀬ふみ子
岩手 坂本まさ子

岡山 永井 一子
秋田 北村とし子
茨城 小島くに子
福島 松浦ちせ子
千葉 瀧澤 榮子
仁川 松本ツル子
金澤山村かつら子
越中 藤田奈嘉子
三重 向井さと子
大坂 飯塚 鎮子
石川 西村 治子
神奈川古谷喜美子
千葉 中川 君子
鹿兒島縣山口文子
京城 川原とよ子
福島 森 琴子
大坂 石川 久子
山梨甘田のり代子
山城岡本とみえ子
山口 長瀬 菊子
愛知 西尾さく子
京都 檜林 妙子

三重黑石こはる子
茨城 大部 君子
朝鮮 香野 君子
小倉 木村 文子
宮城 高橋しづ子
函館 安田 武子
東京府淺田つまこ
群馬 野口 幸子
兵庫 喜多千代子
富山 小林千代子
北海道南 みよ子
旅順 吉田きち子
大連 中島ふみ子
東京府池上美代子
福島 渡邊いく子
奈良鷹本よしゑ子
栃木 篠原いち子
和歌山木田うた子
神戸 丸山つる子
丹波 粗野こう子
兵庫 田峯たず子
德島 岡 晴子
大連 菅 くに子
北海道小野たけ子
福岡村瀬さかえ子
清國 小浦よし子
大坂 中田のぶ子
京都府山内まさ子
北見 菊池 節子
兵庫 高井わき子
朝鮮崎山みとせ子

富山 碓井せつ子
熊本 一瀬しづ子
大分 井坂千代子
山梨 望月さと子
岩代 紺野 新子
廣島 石橋八重子
秋田 今野さと子
門司 牧野てる子
大坂 瀧内 重子
鹿兒島村山 信子
大分 佐藤 銀子
淡路 谷 きさ子
埼玉 内野百代子
宮城日野あきつ子
長野 山口久枝子
愛知 淺野せき子
靜岡 鈴木 博子
新潟畠山ちゑの子
滋賀 林 ひさ子
愛媛是澤ゆくえ子
大坂 梶原 律子
朝鮮 一戸さと子
岩手中野りやう子
和歌山萬谷不二枝子
長野 岩本つる子
朝鮮 岸本 敏子
鳥取 倉持節代子
長野 出浦 菊子
富山 伊藤 玲子
福島 篠原すみ子
三重 岡野あさ子

埼玉 原口とも子
三重 服部 信子
東京小野寺せい子
大分 星山 光子
下關 辛島はる子
岩手 向井とよ子
横濱 田中よね子
茨城 中村しづ子
石川 山口登代子
佐賀 田原 輝子
丹波 廣江とめ子
神戸 平井菊代子
四谷 加藤 貞子
宮崎 松下 清子
大分 安東たみ子
紀伊 清水 愛子
栃木 眞尾とく子
兵庫 龜井とめ子
呉市 鳴戸 敦子
長野 横澤澄枝子
東京府小川すゑ子
本郷 淺見 鈴子
宮崎 佐藤はや子
和歌山前田靜江子
茨城 渡邊さゑ子
横濱 關谷以知子
山口 岡本まし子
佐賀 牧川 菊子
大坂 川崎きた子
東京三府田やす子
清國 工藤 品子

下關 大枝みね子
廣島水上よしを子
朝鮮 大津たみ子
和歌山川口なつ枝子
宮崎 長友うよ子
長崎 高柳たか子
滋賀 近藤 里子
福井 山村きぬ子
鳥取 中村まつ子
廣島 川本はず子
和歌山濱口 政子
大坂 吉田よし子
横濱 岩澤はな子
高崎 大森 藤子
茨城 岩澤多美子
小石川師岡きの子
長崎 山下よね子
朝鮮 黑田八重子
大坂 田口美枝子
滋賀 山田つね子
石川新谷よしの子
鳥取 村松たよ子
長崎 柴田 時子
大連 小川はな子
小石川龍野むつ子
岡山 稲山しづ子
佐世保西村きみ子
滋賀 小川 久子
島根 長崎きく子
滋賀 井上 英子
廣島 服部靜江子

備后 岡田よね子
横濱 小林 筆子
愛知 岸 たま子
下谷 渡邊いく子
山形 和田あや子
和歌山牡川みどり子
淺草 高原てい子
大阪 若林しげ子
岩手 小林つね子
新潟 松田はる子
長野 小林 君子
福島 武藤とき子
日本橋小田 時子
小石川中野 靜子
千葉 柳澤こと子
埼玉 長島すま子
赤坂 古賀しげ子
信洲 河田 文子
和岡山牡川すみゑ子
朝鮮 小玉 愛子
岡山 鞆 露子
愛知 中山 幾子
福島 鹽谷きん子
仙臺 中島まつ子
奈良 藪田 順子
岩代 三津 周子
山形高橋つねよ子
名古屋大野とみゑ子
麴町 加藤よし子
京都 長谷川斐子
大阪 山口 菊子

青森 中村しげ子
福島 安藤千代子
靜岡 江間みゑ子
山口村上ふじの子
仙臺 白石喜代子
茨城 清水つゆ子
神奈川吉田千代子
横濱 飯田たつ子
東京府熊谷けい子
茨城 宇田川瀧子
福島佐藤みつえ子
麴町 小島百合子
栃木 大場てい子
三重 加藤ちゑ子
越後 土田たき子
島根 林 久子
廣島 香川しげ子
山口 中村 靜子
秋田 小西かね子
德島 大西 雪子
奈良美浪いくえ子
朝鮮 佐藤 安子
長野 橋[illegible] 要子
岡山 播磨 吟子
長崎 松田ゆき子
兵庫 細見 綾子
神奈川永野ふく子
長野川又よしな子
長岡 今井いく子
北海道工藤初音子
東京府角田 松子

小田原鈴木智惠子
鳥取 吉田 俶子
水戸 國谷らめ子
長野 西村 壽子
小石川北村まさ子
長野 丸山 恒子
下關 藤井 房子
和歌山小川光惠子
名古屋奥村 信子
下谷 飯田 鈴子
横濱 清水こう子
朝鮮松井きみゑ子
岐阜大野木しづ子
岩代 大木つる子
愛知 藤村たつ子
兵庫 岩見乙枝子
岡山戸川まつ代子
下谷 草刈ふじ子
大野 田中 龍子
滋賀 森 八重子
愛媛今井しげや子
愛知野野垣かい子
兵庫 辰馬 慶子
高松 和田靜江子
山梨 高尾とみ子
島根 高橋 信子
新潟 小林のぶ子
富山 大畔美紀子
高崎 佐川たか子
神戸 星合芳枝子
岩手 川村みさ子

福島 高橋いち子
鳥取 前田 鶴子
北海道松山春枝子
京都 小島きみ子
福井 中野 花子
岡山 淺野 貞子
埼玉 馬場 桑子
宮崎 中原 辰子
富山 守田千代子
長崎 杉本 初子
靜岡 鈴木はま子
香川 多田 政子
神奈川井田 良子
山口 有吉 絲子
長野中村はる江子
福岡大神よし江子
栃木 小林たつ子
栃木 大島ふく子
鹿兒島轟木ゆき子
京都府森本のへ子
秋田 高橋すゑ子
山口 藤谷ふぢ子
牛込 大澤とし子
東京府高井きく子
富山 土田 光子
赤坂 高田美津子
山梨戸田いちの子
兵庫 本間とよ子
岡山 久山 榮子
山口 山根しげ子
朝鮮 片岡 美子

福井 澤田しか子
香川 三木 梢子
大分 佐藤のぶ子
大分 井本登代子
山口 猪口 梅子
香川 村尾さゐ子
鹿兒島小倉 滿子
福岡鹽川きくえ子
備中 齋藤喜代子
丹波 谷尻とり子
播州 松村きよ子
島根 島田ぎん子
仁川松田須美惠子
岡山 三竿菊野子
淺草 市村たか子
函館 種谷よし子
東京 椿きよう子
愛知 岩瀨ゐつ子
香川 池田清惠子
赤坂 大林勝代子
福岡 黑木とみ子
大阪明石滿壽榮子
山梨 中込たけ子
長野矢澤かほる子
山形 高橋いく子
廣島河村こりう子
福岡高木ふさを子
廣島 齋藤さだ子
鹿兒島志方多津子
長崎 山田むめ子
大阪 尾崎すみ子

下關 西島 梅子
京都 森 らい子
鹿兒島竹野ふく子
下關 掘尾 靜子
秋田 木島なを子
福島 賀 妙子
新潟 尾潟こう子
千葉 吉田 元子
京都池田八重野子
仙臺渡邊ちとせ子
山口 福田 靜子
大阪 增井 光子
福井 中村千鶴子
東京府田中ます子
新潟 樋口とし子
長崎 宮内 春子
茨城 横田 文子
埼玉 田中 玉子
栃木 丸山かつ子
岐阜 市岡やす子
秋田 藤原いよ子
大阪 辻原 敬子
德島 美馬春枝子
長崎吉川みさを子
山口 柳 光子
播磨 八木ちよ子
島根 山崎 秀子
福岡 松前 清子
長崎 宅島 鶴子
樺太 阿部いし子
横濱 伊藤 末子

三重 谷口 梅子
伊豫 渡邊 孝子
福井 藤井ひろ子
横濱 森田しげ子
福岡 萩原とみ子
石川 町原美代子
京都 坂上みち子
三重 小崎 靜子
深川 川合 靜子
札幌 臼杵 房子
和歌山上田うた子
岐阜 清水まん子
長崎 古賀きよ子
埼玉齋藤としを子
麴町 青木 靜子
福岡河野つるゑ子
北海道武田よし子
富山 土肥智香子
豐前 北崎ゐい子
靜岡 澁谷さし子
朝鮮 山崎鈴野子
樺太 土岐その子
東京府濱田登代子
島根山内いしの子
大阪 重松ゆき子
朝鮮 安藤千代子
宮城 景 とも子
大阪佐々木貞枝子
佐賀 原 ふで子
栃木 大金きい子
京都 國松ます子

長野 大井てる子
佐賀 喜田とめ子
島根 井川 縫子
神戸 田川三代子
朝鮮 貝原鈴代子
樺太 山根 咲子
廣島 三村 芳子
安藝 淺田みね子
秋田 鈴木 春子
横濱 西村 錦子
小石川岩淵松代子
備前 片山 砂子
兵庫 久米ぬい子
鹿兒島福永のぶ子
麴町 宮島 孝子
大津 安福ゆい子
弘前 野宮きよ子
北海道松尾 睦子
横須賀鈴木れつ子
北海道岩間 淸子
石川 笹川 隆子
淺草 杉浦さと子
廣島二川しのぶ子
岡山大家みね代子
佐賀 大坪みつ子
堺市 岩西みつ子
米澤 後藤よし子
秋田 工藤せつ子
兵庫宮川まさえ子
高知 森本 俊子

◎懸賞募集（毎月八日まで）の分翌月發表

▲短　文（百六十字以内）
▲和　歌（一人一首）
▲俳　句（一人一句）
▲家庭笑話
▲婦人の失敗談
▲我が家の實驗
▲ものはづけ

△應募者は婦人に限る、匿名變名を許さず
△用紙はすべてハガキのこと
△一枚のハガキに二種類を並記せざること、一種類につき二篇以上二首以上の投稿を許さず
△原稿には必ず投書の種類と住所姓名を記入しおくこと
△原稿には決してよけいな文句を書かぬこと
△名宛は『實業之日本社内婦人世界編輯局中』とすること

◎賞
△短文、和歌、俳句…（◎一等武圓◎二等壹圓◎三等書物
△家庭笑話、その他…相當の書物

婦人世界定價表（毎月一回一日發行）（春秋二回増刊發行）

一冊（毎月一回一日發行）（郵税一錢五厘）（春秋二回定期増刊）（郵税共）拾五錢
一半年分（七冊）（前金）（郵税共）壹圓五錢
一年分（十四冊）（定期増刊も）（前金）（郵税共）貳圓五錢

◎外國より御注文は一部郵税とも二十三錢、半年分郵税とも二圓九十五錢、一年分郵税とも二圓九十五錢

御注意
◎注文は總て前金の事前金濟くれば必ず『濟』の一字を朱にて帶封に認む直に送金なき時は發送を停止す◎外國郵税は一册八錢◎貳册は五厘切手にて一割増文ありたし◎郵券代用は壹錢又は五厘切手にて一割増

◎婦人世界廣告面　字詰は五號活字一行廿四字詰一段廿二行一頁二段六十四行にて本版を要するものは別に實費を申受くべし其料金及等級等は御照會次第詳細回答可致候

大正貳年六月一日發行
發行兼編輯人　增田義一
印刷人　高信孝次
印刷所　東京市京橋區銀座二丁目七番地　秀英舍
東京市京橋區南紺屋町十二番地　實業之日本社
電話京橋　八七四番　八七五番　九八九番　八七六番
郵便振替貯金口座東京參貳六

此廣告を見て御申込の方は必ず婦人世界愛讀者なる旨御申添を乞ふ

六月一日より
中形浴衣地陳列會
うすもの陳列會

中形浴衣地は例年の通、各種各樣の新なる柄合を店内一面に陳列仕候薄物陳列會は本年初めての催しにて夏向の涼しげなる新柄を所狹き迄陳列御覽に入申候。

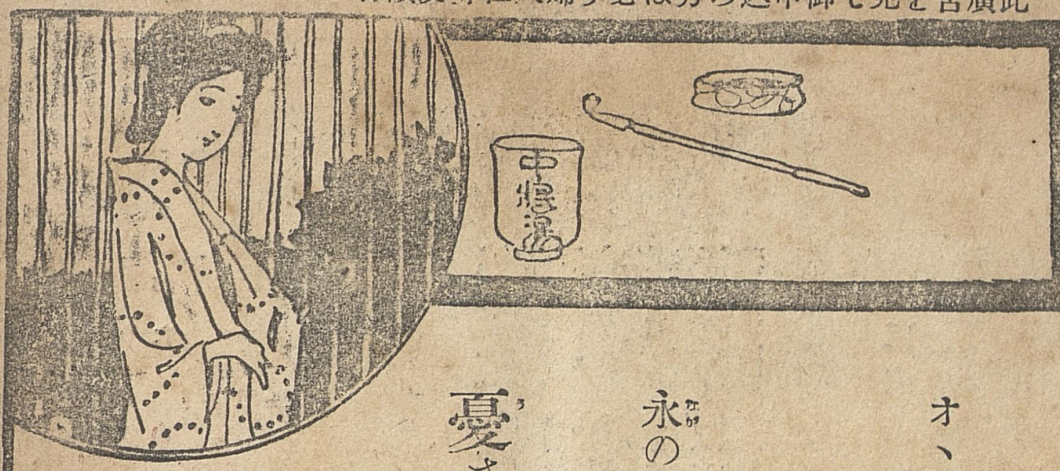
梅雨の時期

も愈々近きたり。此間に簞笥の中に樟腦一ケを入るゝを忘れ給ふな。紳士レーンコートは舶來ゴム羅紗製にて外套形、雨傘には蛇の目、絞りの目、模樣入、透見傘、其他種類極めて多く、下駄、オーバーシューズなど、梅雨時期の必要品何呉となく取揃へ置申候。

東京駿河町
三越呉服店

（婦人世界第八卷第七號）（大正二年五月二十四日印刷納本、大正二年六月一日發行）

此廣告を見て御申込の方は必ず婦人世界愛讀者なる旨御申添を乞ふ



オ、嬉れしや、辱なや
中將湯の効果ゆゑ

永の婦人病も根を絶えて
今日衣更のすか〳〵しく
憂さや辛さの忘れ草
ホンニ身も世もノンビリと
重荷を卸した心地よさ

中將湯は子宮血の道より起る左の諸症を治す

- 子宮病
- 血の道
- 内膜炎
- 膣加答兒
- 下腹痛み
- 夜眠れず
- 難産流産
- つはり
- 氣ふさぎ
- 月經不順
- 産前産後
- 胸先差込
- 腰足冷込
- 白帶赤帶
- こしけ
- 癇高ぶり
- 月經滯り
- 逆上頭痛
- 月經痛み
- 血ぶとり

定價

四日分	三拾五錢
一週間分	六拾錢
二週間分	壹圓拾錢
三週間分	壹圓六拾錢
五週間分	貳圓五拾錢

本舖

東京日本橋通四丁目
津村順天堂本店
振替口座六〇八番

大阪市堺筋大寶寺町
津村順天堂支店
振替口座四五六番

（明治三十八年十二月三十日第三種郵便物認可）（毎月一回一日發行）

東京秀英舍印刷